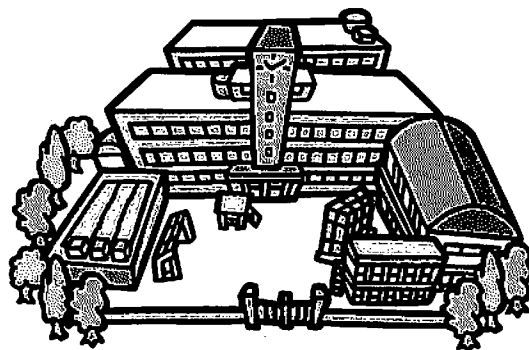


高知県学校改善支援プラン

—確かな学力の育成を目指して—



平成20年2月

高知県学校改善支援プラン検討委員会

— 目次 —

はじめに

I	調査の概要	・ ・ ・ ・ ・	1
II	分析結果の概要		
1	学力の状況	・ ・ ・ ・ ・	2
2	児童生徒の学習や生活の状況	・ ・ ・ ・ ・	3
3	学校の取り組みの状況	・ ・ ・ ・ ・	4
III	学力についての全国比較		
1	小学校 国語と算数の相関図	・ ・ ・ ・ ・	5
2	中学校 国語と数学の相関図	・ ・ ・ ・ ・	6
IV	市町村・学校別の状況		
1	市町村別平均正答率の分布状況	・ ・ ・ ・ ・	7
2	学校別平均正答率の分布状況	・ ・ ・ ・ ・	9
V	教科ごとの学力の状況		
1	小学校国語	・ ・ ・ ・	1 1
2	小学校算数	・ ・ ・ ・	2 1
3	中学校国語	・ ・ ・ ・	3 1
4	中学校数学	・ ・ ・ ・	4 1
VI	児童生徒の学習や生活の状況		
	児童生徒質問紙調査結果より	・ ・ ・ ・	5 1
VII	学校の取り組み状況		
	小・中学校質問紙調査結果より	・ ・ ・ ・	6 4
VIII	課題解決に向けて		
1	課題解決のための4つの視点について	・ ・ ・ ・	6 8
2	学校改善支援プランの構想図	・ ・ ・ ・	6 9
3	家庭学習の充実に向けて	・ ・ ・ ・	7 0
	○学習時間・家庭学習の状況	・ ・ ・ ・	7 1
4	「確かな学力」と「授業力」	・ ・ ・ ・	7 2

<参考資料>

学校改善支援プラン検討委員会推進委員会 検討経過
高知県学校改善支援プラン検討委員会設置要綱
高知県学校改善支援プラン検討委員会 推進委員名簿

はじめに

本年度4月24日、小学校6年生と中学校3年生の全ての小・中学生を対象にして、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査の目的は、各学校や教育委員会が、教育や教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図ること、また、一人一人の子どもたちの学力や学習状況を把握し、各学校において学習指導の改善に役立てることにあります。

高知県においても全ての公立小・中学校がこの調査に参加し、10月24日には県全体の状況が公表されると同時に、各教育委員会や各学校へ調査結果が提供されました。この調査結果から、本県の小・中学生の国語、算数・数学から見る学力や学習環境、生活習慣が、どのような状況であるのかということが明らかになりました。

調査の結果、本県の小学生の学力はほぼ全国水準にあるが、中学生は全国を下回っていることや、家庭学習の状況に課題があること等が浮かび上がってきました。この調査で測ることのできるものは学力の一側面であり、結果に一喜一憂するのではなく、この調査結果を各学校や市町村教育委員会がしっかりと分析し、改善に生かすことが大切です。

高知県教育委員会は、調査結果を分析し、「学校改善支援プラン」を作成するために、文部科学省から調査結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた研究事業の委託を受けて、「高知県学校改善支援プラン検討委員会」を立ち上げました。

本検討委員会においては、県教育委員会から委嘱を受け、県内の大学教員、小・中学校及びPTA関係者、市町村教育委員会関係者等、12名の推進委員が、調査結果を様々な角度から分析し、調査結果から見える本県の子どもたちの学力の現状と課題、さらにその改善策について次の4つの視点から検討を行いました。

- 学校における組織的な学力向上
- 教科の枠をこえた中学校授業力向上
- 国語、算数・数学における指導方法の工夫改善
- 学習意欲の向上と学習習慣の定着のための学習環境づくり

現在、各学校や教育委員会では、調査結果に基づく分析や、それぞれの取り組みの成果と課題についての検証、学力向上対策の策定を進めているところであると考えます。本検討委員会における調査結果の分析資料や「学校改善支援プラン」がその参考に供するものとなることを願っています。

さらに、県教育委員会においても、「学校改善支援プラン」を今後の学力向上のための施策に反映させ、本県の将来を担う子どもたちに「確かな学力」を育成するための一助としていただきたいと考えています。

平成20年2月

I 調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 国が全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ◇ 各学校が各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 平成19年4月24日(火)実施

(3) 平成19年10月24日(水)公表

(4) 調査内容

- ◇ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学を出題
- ◇ 「知識」に関する問題と、「活用」(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力等)に関する問題を出題
また、生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査を実施

(5) 県内の参加状況

- ◇ 参加学校数
公立小学校243校
※小学校6年生が在籍していない小学校11校を除く
公立中学校116校
※特別支援学校(中学部)1校を含む
※修学旅行のため後日実施した中学校3校を除く
公立小・中学校合計学校数 359校

◇ 小学校解答(回答)児童数

国語A	6,736名	国語B	6,734名
算数A	6,736名	算数B	6,735名
児童質問紙	6,736名		

◇ 中学校解答(回答)生徒数

国語A	5,375名	国語B	5,373名
数学A	5,366名	数学B	5,364名
生徒質問紙	5,378名		

Ⅱ 分析結果の概要

1 学力の状況

- ◆ 小学校の国語と算数の平均正答率は、ほぼ全国水準であるが、中学校においては国語A（基礎）問題以外は全国水準を下回っており、特に、数学B（活用）問題は全国水準を大きく下回っている。

＜数学Bの平均正答率 中学生：本県 50.6% 全国 60.6%＞

- ◆ 小・中学生ともに、基礎的な知識や技能を実生活等で活用する力が弱い。

- ◆ 無解答率は中学生において全国と比べて高くなっている。特に、B（活用）問題や記述形式の問題は無解答率が高い。

＜数学Bの記述式問題の平均無解答率 中学生：本県 33.4% 全国 23.0%＞

- ◆ 市町村や学校によって、学力の定着状況や取り組みに格差が見られる。

〔課題〕

- 小学生段階と中学生段階での、学力の定着状況の格差が大きい。

＜全国との差 小学生 国語A：同じ、国語B：2ポイント低い
算数A：0.5ポイント低い、算数B：2.9ポイント低い＞
＜全国との差 中学生 国語A：3.5ポイント低い、国語B：8.0ポイント低い
数学A：9.1ポイント低い、数学B：10ポイント低い＞

- 小学生においては、基礎的な知識は概ね身に付いているが、読解力や書く能力など応用力は十分に身に付いていない。

（例）本文中に書かれている事実について、その理由を文中から探して文章でまとめて書く問題。

- 中学生は、基礎的な知識とその基礎的な知識を活用する力の両方ともに身に付いておらず、特に数学は分数の割り算や正負の四則計算など数学の土台となる基礎的な計算問題や簡単な代数の問題すらできていない生徒が多い。

（例） $2/3 \div 5/7$ ＜無解答率 13.3・全国 7.0＞
 $2x + 3y = 9$ を y について解く＜無解答率 24.1 全国 12.9＞

2 児童生徒の学習や生活の状況

① 基本的な生活習慣

- ◆ 朝食を毎日食えることや睡眠時間の状況は、全国とほぼ同様である。

＜朝食を食っている割合

小学生：本県 94.6% 全国 95.2%、中学生：本県 90.4% 全国 91.6%＞

② 家庭学習

- ◆ 学校の授業時間以外で1日当たり1時間以上勉強している割合は、小学生は全国とほぼ同様であるが、中学生は全国と比べて著しく少なくなっている。また、勉強を全くしない中学生の割合も全国と比べて多い。

＜1時間以上勉強している割合

小学生：本県 59.3% 全国 57.9%、中学生：本県 54.1% 全国 65.0%＞

＜勉強を全くしない割合

小学生：本県 5.8% 全国 4.1%、中学生：本県 11.5% 全国 8.4%＞

- ◆ 宿題をしている小学生の割合は全国とほぼ同じであるが、中学生の割合は全国と比べて少ない。

＜宿題をしている割合

小学生：本県 95.1% 全国 94.7% 中学生：本県 71.4% 全国 80.2%＞

- ◆ 予習をしている小・中学生の割合は、ともに全国と比べて少ない。

＜予習をしている割合

小学生：本県 27.4% 全国 32.9%、中学生：本県 23.6% 全国 29.5%＞

【課題】

- 本県の中学生の25%の生徒が授業以外で1日当たり学習する時間が30分より少なく、全く勉強していない生徒も1割以上いる。

また、宿題や予習をしている割合も全国と比べて少なく、家庭での学習が十分に定着していない。

＜勉強時間が30分未満の割合

小学生：本県 16.6% 全国 16.1%、中学生：本県 25.0% 全国 18.6%＞

③ 学力との相関

- ◆ 国語や算数、数学の勉強が「好きである」、「大切である」、「よく分かる」と思っている小・中学生ほど平均正答率が高い傾向が見られる。

- ◆ 「家庭学習・学習時間」「学習に対する関心・意欲・態度」「規範意識等」「基本的な生活習慣」に関する質問に肯定的な回答をした小・中学生ほど平均正答率が高い傾向が見られる。

【課題】

- 家庭学習につながるような授業づくりが必要である。
- 家庭・地域と連携して家庭学習の習慣を定着させる取り組みが必要である。

3 学校の取り組みの状況

① 研修

- ◆ 小学校においては、講師を招聘して校内研修を行っている割合は全国と比べて多い。 <小学校：本県 98.3% 全国 91.0%、中学校：本県 87.4% 全国 83.1%>
- ◆ 中学校においては、基礎学力定着のための研修等を行っている割合は全国と比べて多い。しかし、教科に関するより専門的な研修が小学校に比べると少ない。 <指導主事の教科に関する学校訪問指導の割合 小学校 72.6%、中学校 27.4%>
- ◆ ICTを活用した授業のための研修を実施している割合は、全国と比べて非常に少ない。 <小学校：本県 34.2% 全国 56.4%、中学校：本県 18.4% 全国 39.4%>

〔課題〕

- 特に、本県には小規模校が多く、教科担任が1人の中学校が多いため、複数の教員で切磋琢磨する機会に恵まれておらず、教科の専門性を高める研修が十分に行われていない。

② 開かれた学校づくり

- ◆ 小・中学校ともに、児童生徒による授業評価や、保護者や地域住民による外部評価はよく実施している。
- ◆ 自己点検評価結果を学校運営の改善に生かしている中学校の割合は、全国と比べて少ない。 <小学校：本県 95.9% 全国 98.7%、中学校：本県 90.8% 全国 97.5%>
- ◆ 小・中学校ともに、学校の教育活動についてホームページを開設して情報提供を行っている割合は、全国と比べて非常に少ない。 <小学校：本県 45.7% 全国 73.3%、中学校：本県 39.5% 全国 71.6%>

〔課題〕

- 評価結果が改善策に十分反映されていない。

③ 学力との相関

- ◆ 小・中学生が「熱意を持って勉強している」「私語が少なく落ち着いている」「礼儀正しい」と認識している学校ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

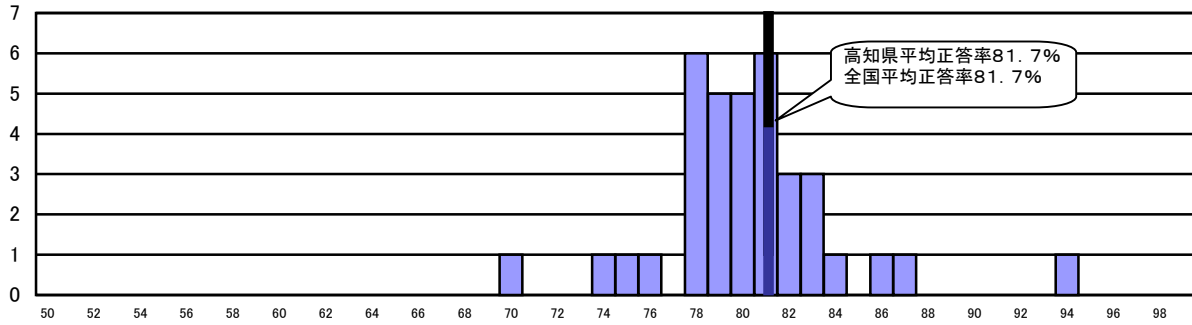
IV 市町村・学校別の状況

1 市町村別平均正答率の分布状況

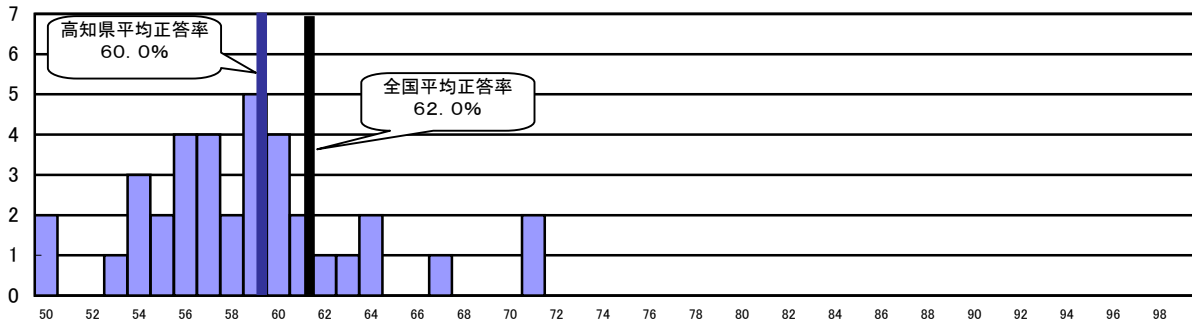
[縦軸は市町村数、横軸は平均正答率]

【国語】

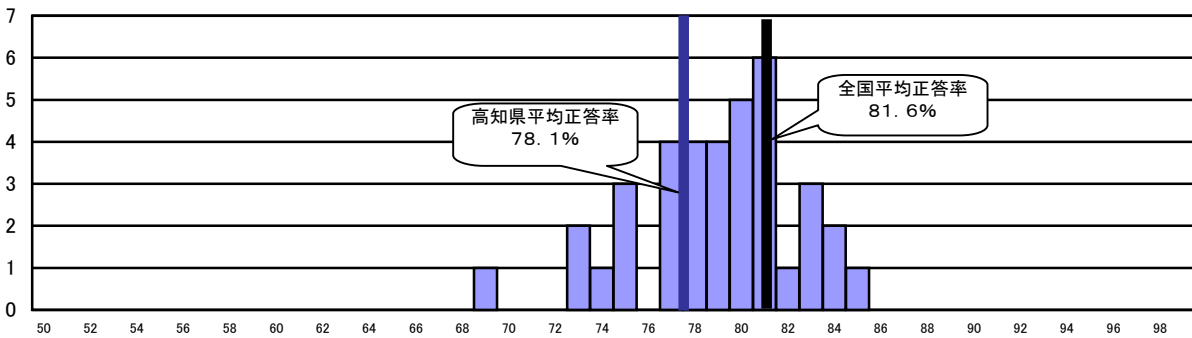
小学校国語A



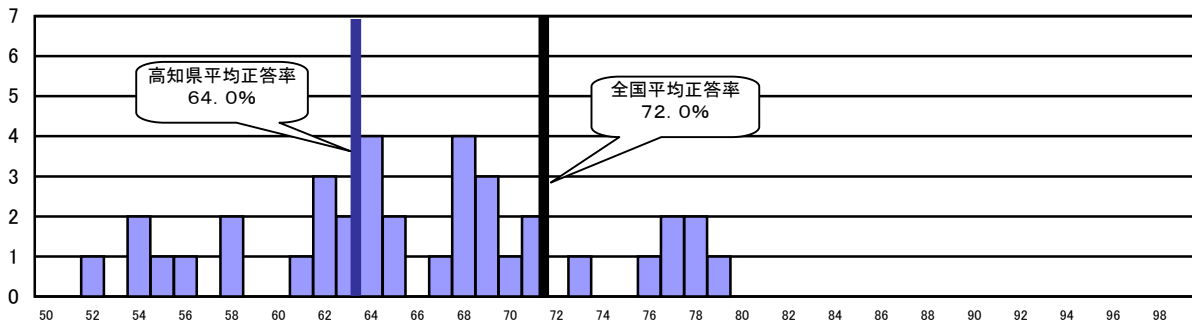
小学校国語B



中学校国語A



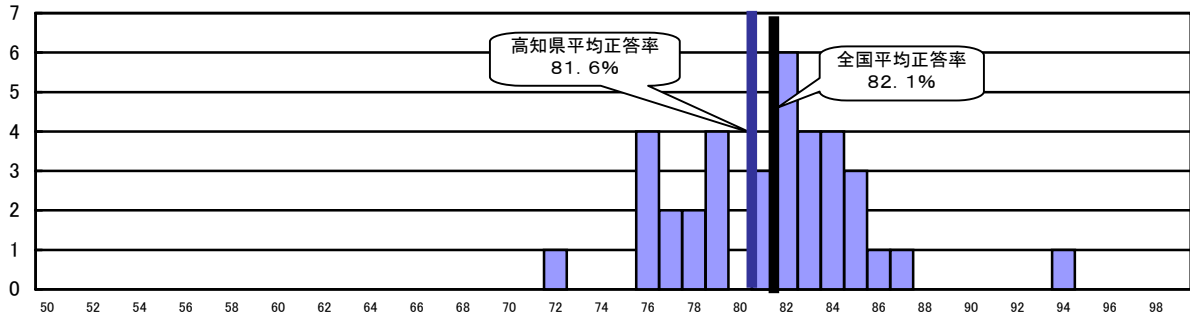
中学校国語B



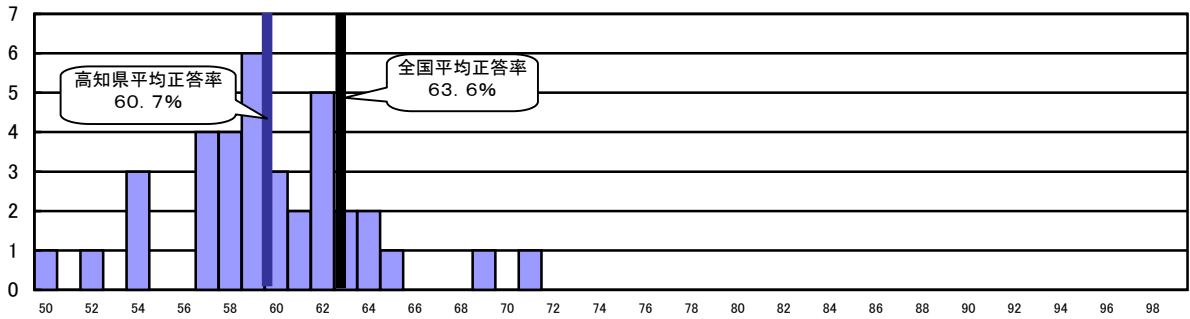
※横軸の目盛りについて…例えば60から上に伸びたグラフの目盛りは、60より大きく61以下を表している。

【算数・数学】

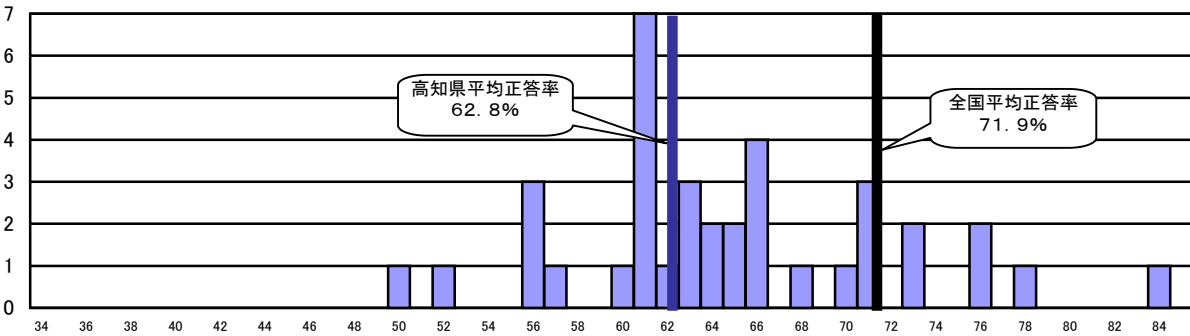
小学校算数A



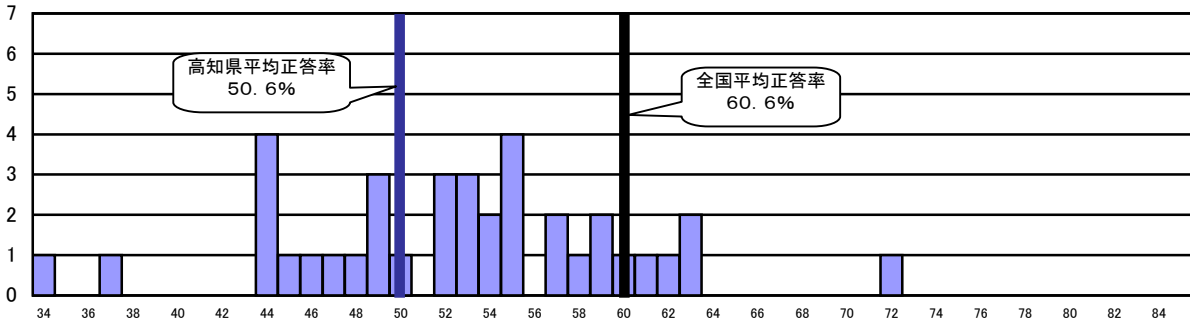
小学校算数B



中学校数学A

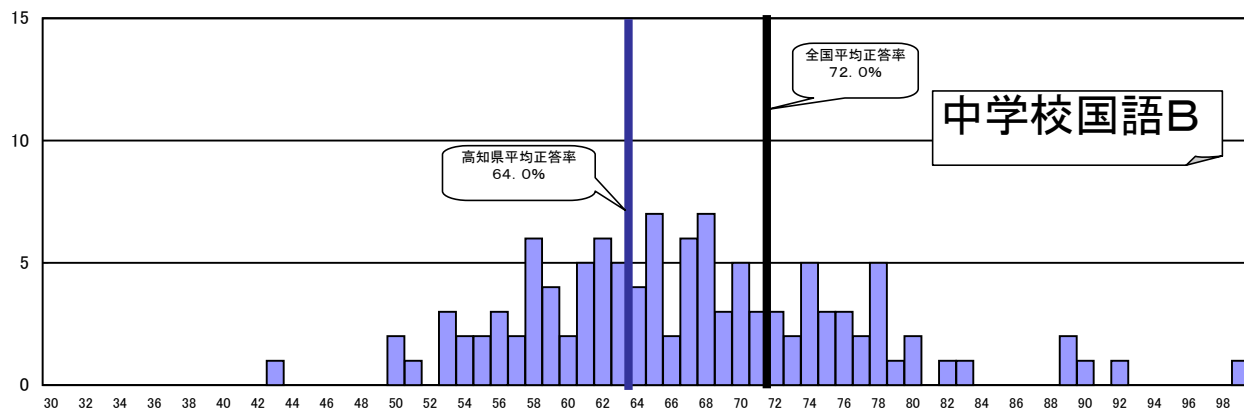
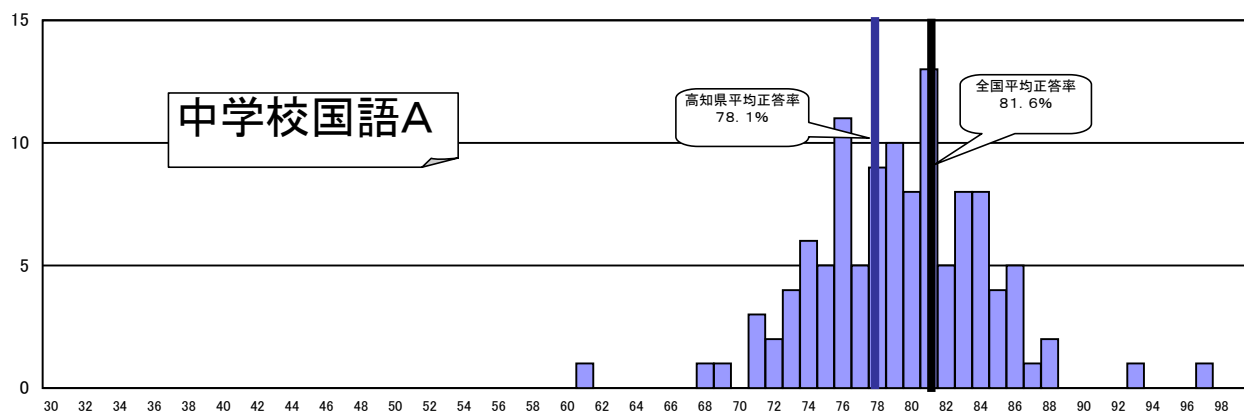
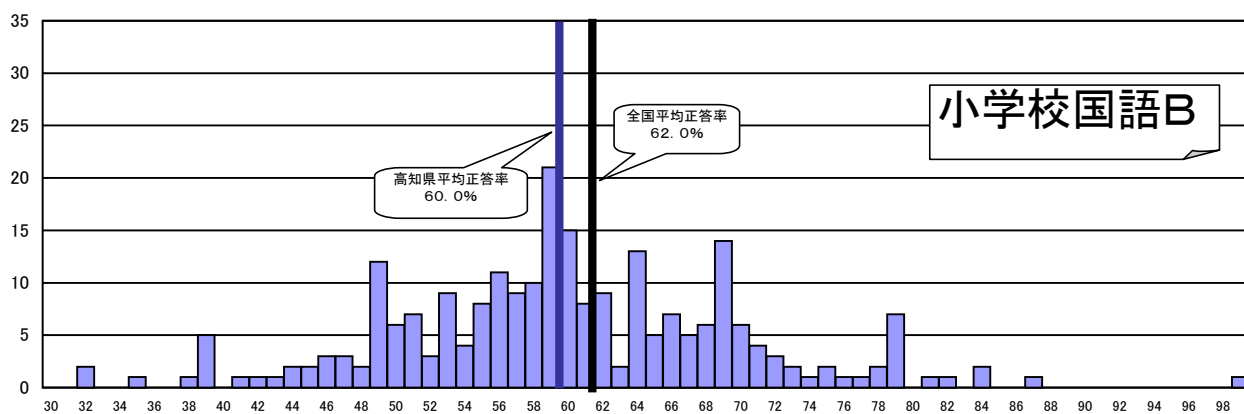
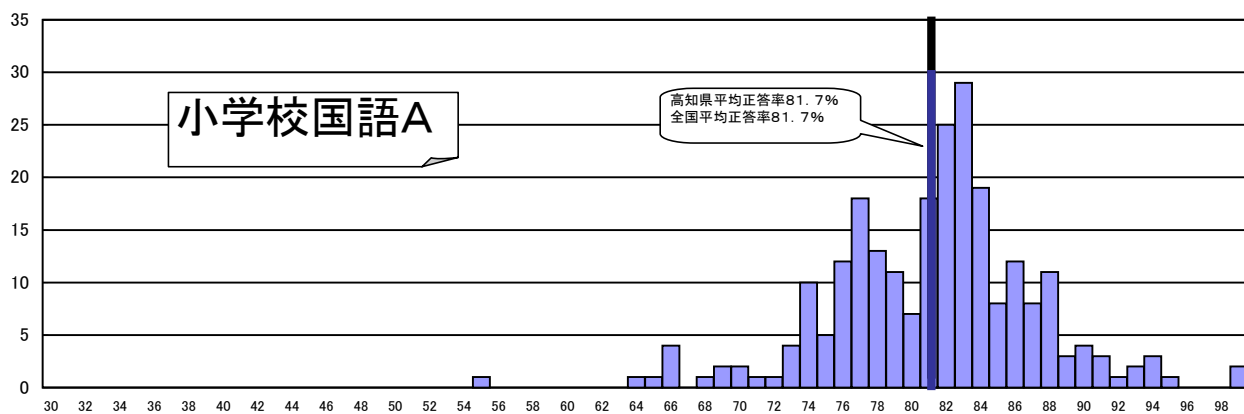


中学校数学B



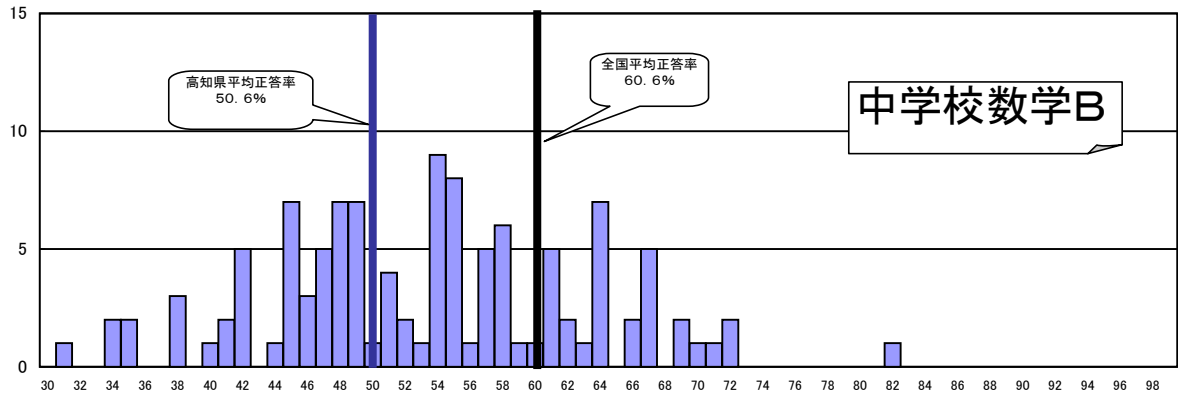
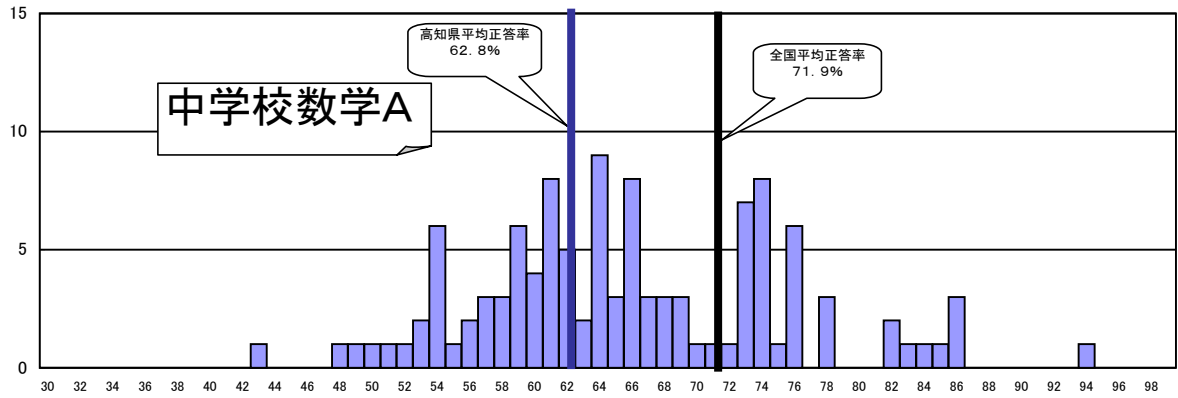
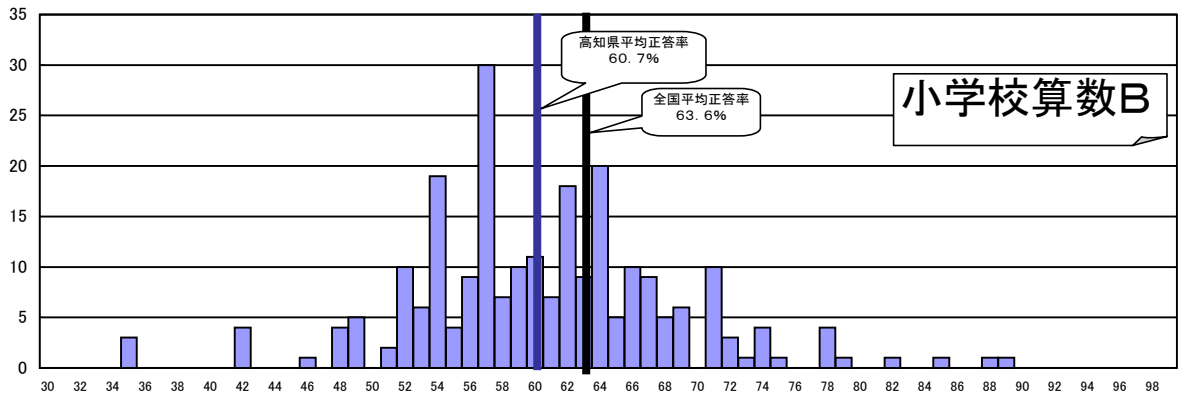
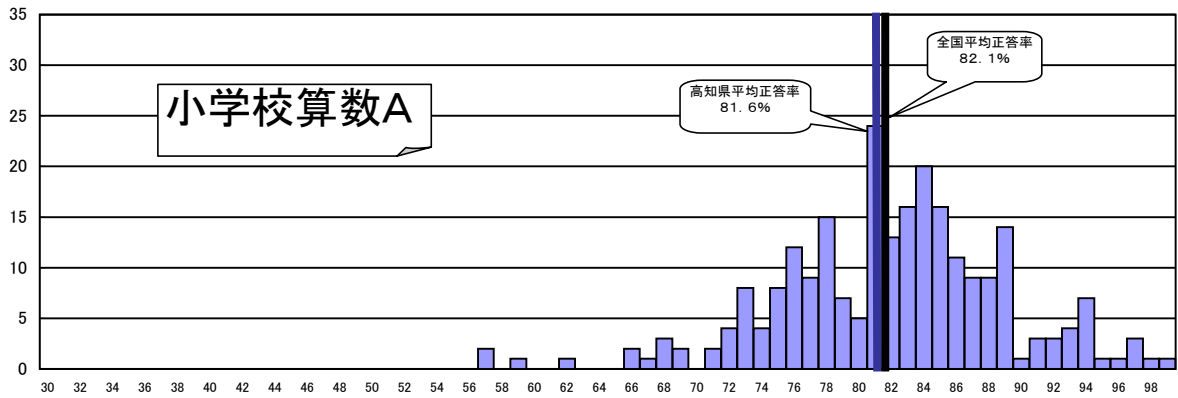
2 学校別平均正答率の分布状況

[縦軸は学校数、横



※縦軸の学校数について…児童生徒の在籍数が1名であっても1校として表している。

※横軸の目盛りについて…例えば60から上に伸びたグラフの目盛りは、60より大きく61以下を表している。



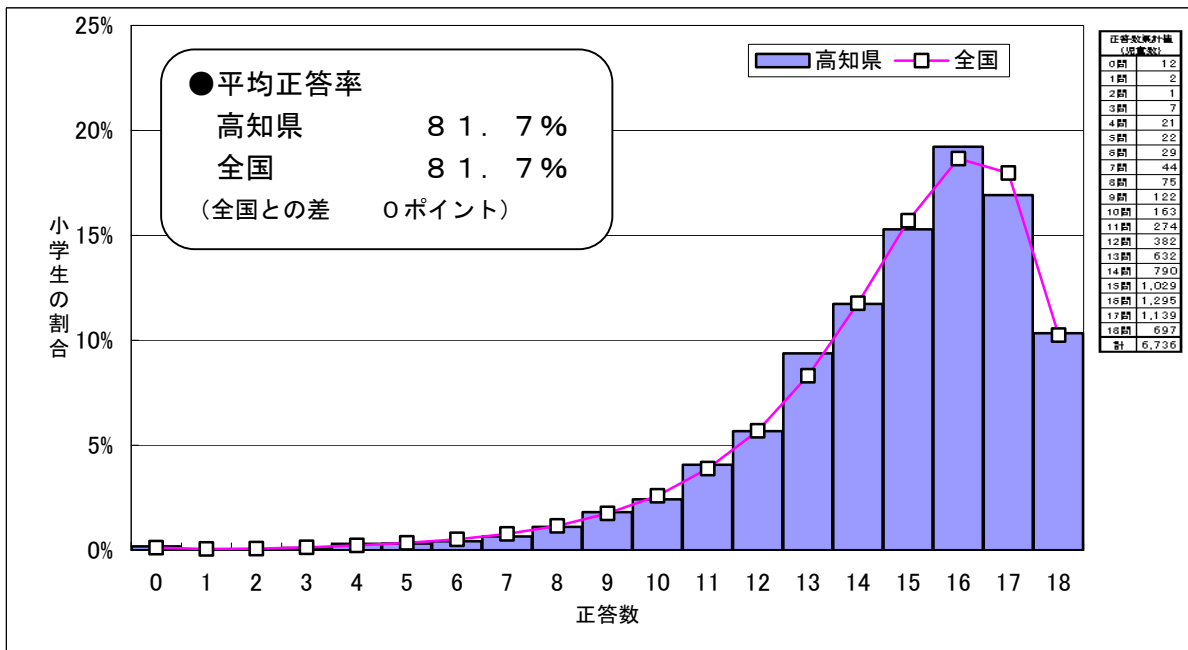
V 教科ごとの学力の状況

- | | | |
|---|-------|-------------|
| 1 | 小学校国語 | ・ ・ ・ ・ 1 3 |
| 2 | 小学校算数 | ・ ・ ・ ・ 2 3 |
| 3 | 中学校国語 | ・ ・ ・ ・ 3 3 |
| 4 | 中学校数学 | ・ ・ ・ ・ 4 3 |

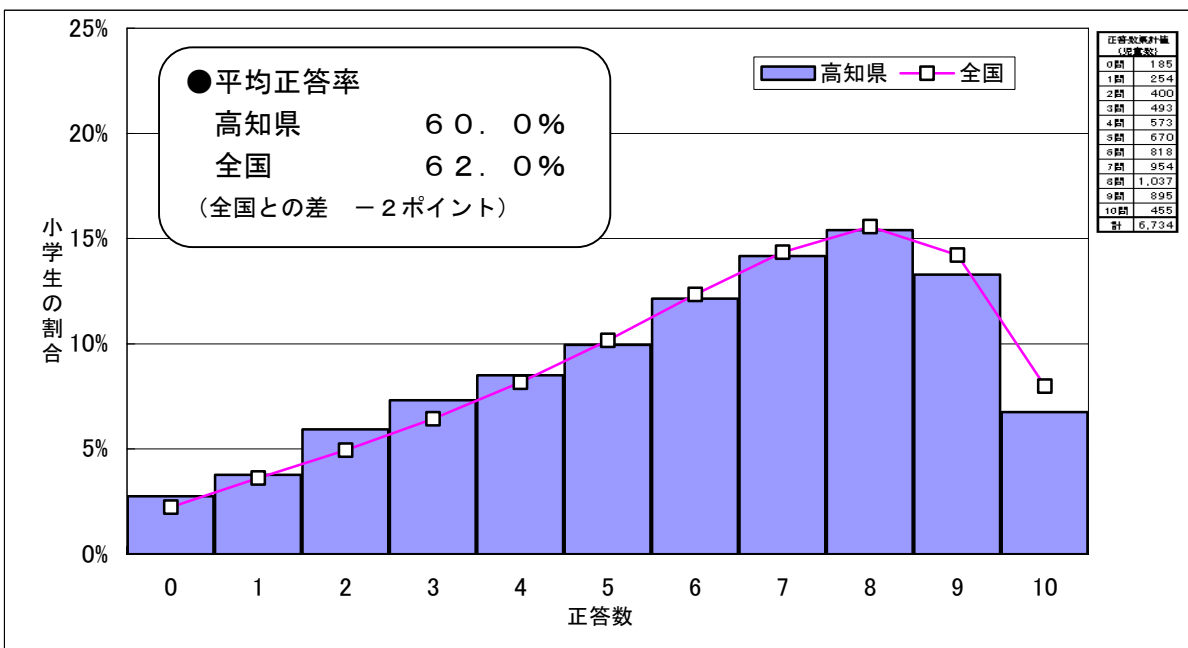
1 小学校国語

- 国語A（知識）について、小学生の平均正答率は、全国の平均正答率と同じである。
- 国語B（活用）について、小学生の平均正答率は、全国の平均正答率と同等である。
- 知識に関する問題については、相当数の小学生が今回出題している学習内容を概ね理解していると考えられるが、知識・技能を活用する力については全国の場合と同様に課題がある。

国語A（知識）

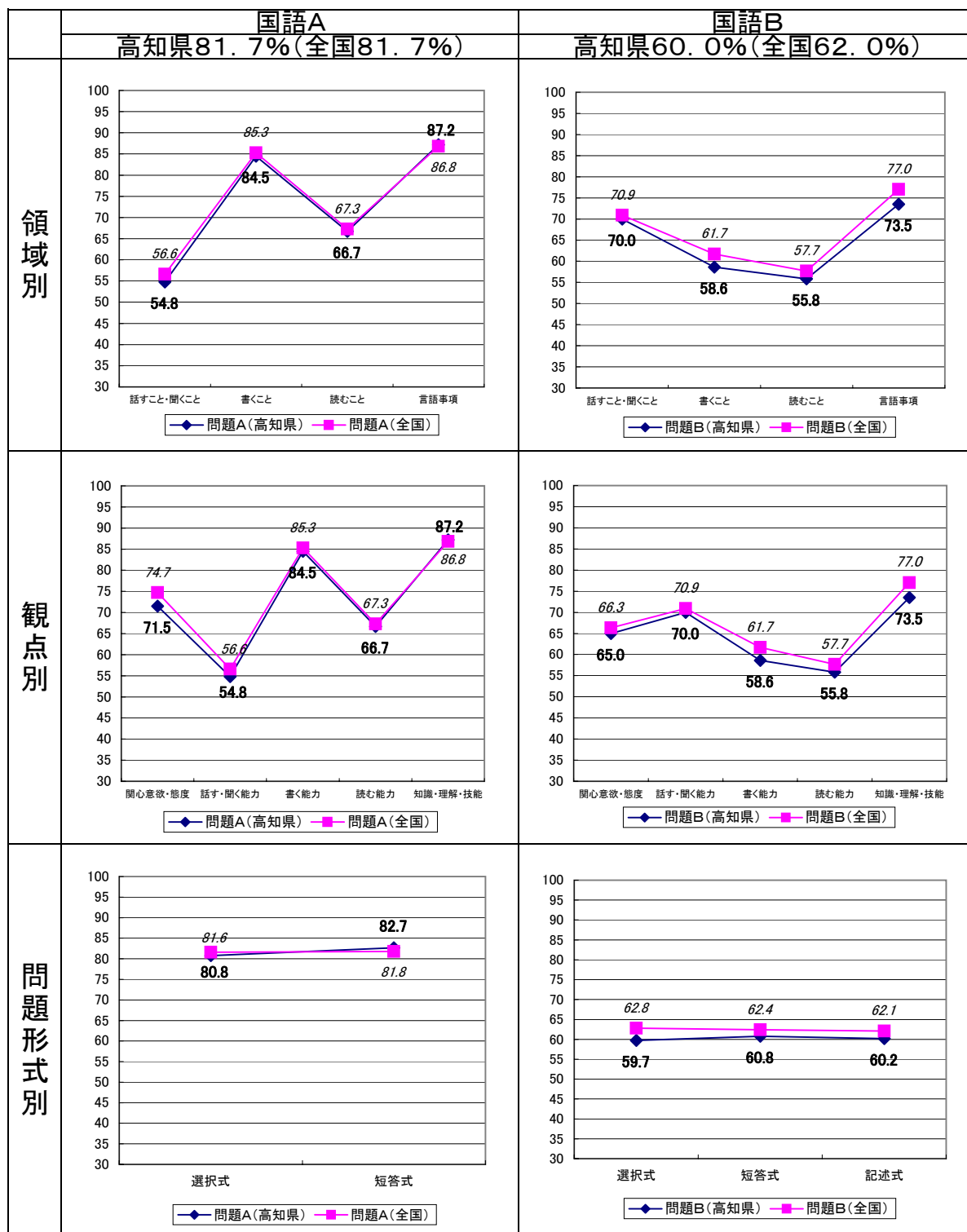


国語B（活用）



○分類・区分別の状況

- 領域別では、国語B(活用)のすべての領域で平均正答率が全国平均より低い。
- 観点別では、国語A(知識)の「国語への関心・意欲・態度」、国語B(活用)の「書く能力」「知識・理解・技能」に関する設問の平均正答率が全国平均より3ポイント以上低い。
- 問題形式別では、国語A(知識)、国語B(活用)ともに平均正答率が全国平均を下回っているが、国語B(活用)では、選択式が全国平均から3.1ポイント低い。



○設問別集計結果 小学校（国語）

■国語A

設問番号	設問の概要	高知県正答率 -全国正答率	平均正答率		無解答率	
			高知県	全国	高知県	全国
1一(1)	漢字を読む(リーダーとして勝利に導く)	1.0	96.2	95.2	1.1	1.8
1一(2)	漢字を読む(話し合いを重ねる)	-1.2	95.0	96.2	1.5	1.3
1一(3)	漢字を読む(責任をもつ)	0.4	97.5	97.1	0.9	1.3
1二(1)	漢字を書く(みんなできょうりょくする)	-0.5	93.8	94.3	1.7	1.7
1二(2)	漢字を書く(先生にそうだんする)	-0.3	57.7	58.0	6.7	7.7
1二(3)	漢字を書く(魚をやく)	7.5	78.2	70.7	3.2	4.6
2一	文脈に適した接続語を選択する(順接)	-0.2	98.4	98.6	0.3	0.2
2二	文脈に適した接続語を選択する(添加)	0.1	98.4	98.3	0.3	0.2
2三	文脈に適した接続語を選択する(逆接)	0.0	99.1	99.1	0.3	0.2
3一	指示語の指し示す内容を選択する(語句)	0.7	93.3	92.6	0.3	0.3
3二	指示語の指し示す内容を選択する(内容)	1.3	89.8	88.5	0.5	0.4
4	漢字辞典の効率よい調べ方を選択する	-3.4	77.8	81.2	0.5	0.4
5	一文を二文に分けて書く	0.9	58.7	57.8	3.4	4.4
6	インタビューのメモの工夫を選択する	-5.4	52.1	57.5	0.7	0.6
7	スピーチでの聞き手に分かりやすい話し方を選択する	1.8	57.5	55.7	0.7	0.8
8	べっこうあめ作りの感想を、作り方の説明書にする	-0.8	84.5	85.3	3.6	3.5
9	説明文の一部を読んで、内容に合うものを選択する	-2.2	78.8	81.0	3.2	2.9
10	物語の一部を読んで、登場人物の心情として適切なものを選択する	-0.6	62.5	63.1	4.3	4.2

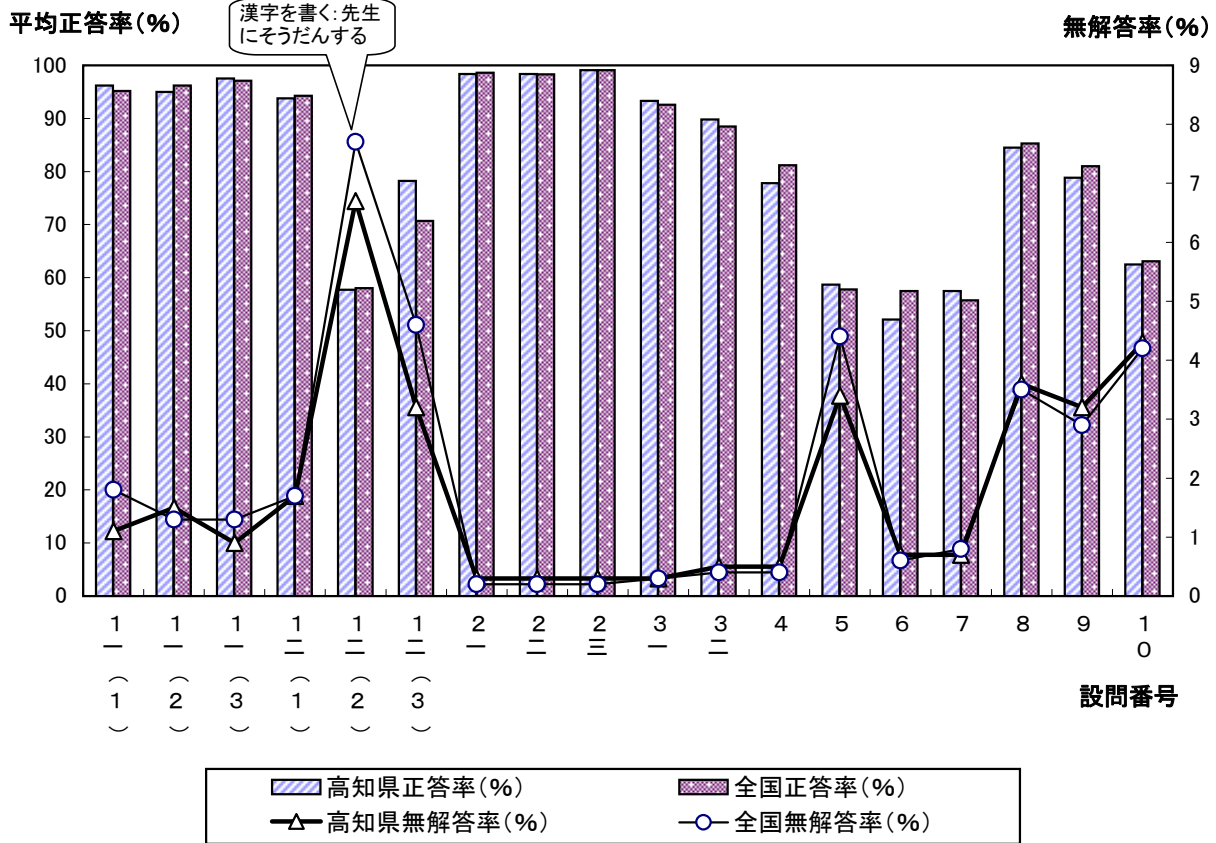
■国語B

設問番号	設問の概要	高知県正答率 -全国正答率	平均正答率		無解答率	
			高知県	全国	高知県	全国
1一	話し合いの内容を整理した司会者の発言を書く	-1.5	61.4	62.9	5.3	4.9
1二	司会者の進行の良いところを書く	-0.3	78.7	79.0	7.2	6.9
2一	グラフを読み取り、文章中の空欄に適切な数字をあてはめる	0.0	60.8	60.8	2.5	2.2
2二	古紙の再生利用が重要な課題となってきた理由を書く	-4.4	41.0	45.4	4.2	4.0
2三(1)	古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く	-1.4	47.6	49.0	12.0	11.5
2三(2)	ごみを減らすための取り組みを考えて80字以上120字以内で書く	-2.8	72.4	75.2	12.0	10.4
3一(1)	同じ本を読んで書いた2人の感想文から、共通する書き方の良いところを書く	-0.8	55.1	55.9	14.5	13.2
3一(2)	同じ本を読んで書いた2人の感想文から、共通する書き方の良いところを書く	-1.2	53.7	54.9	18.3	17.5
4一	広告の情報を読み取って、正しい内容を選択する	-3.1	59.7	62.8	8.2	6.7
4二	客に対する勧誘の表現を適切に改めて書く	-3.5	73.5	77.0	10.5	9.4

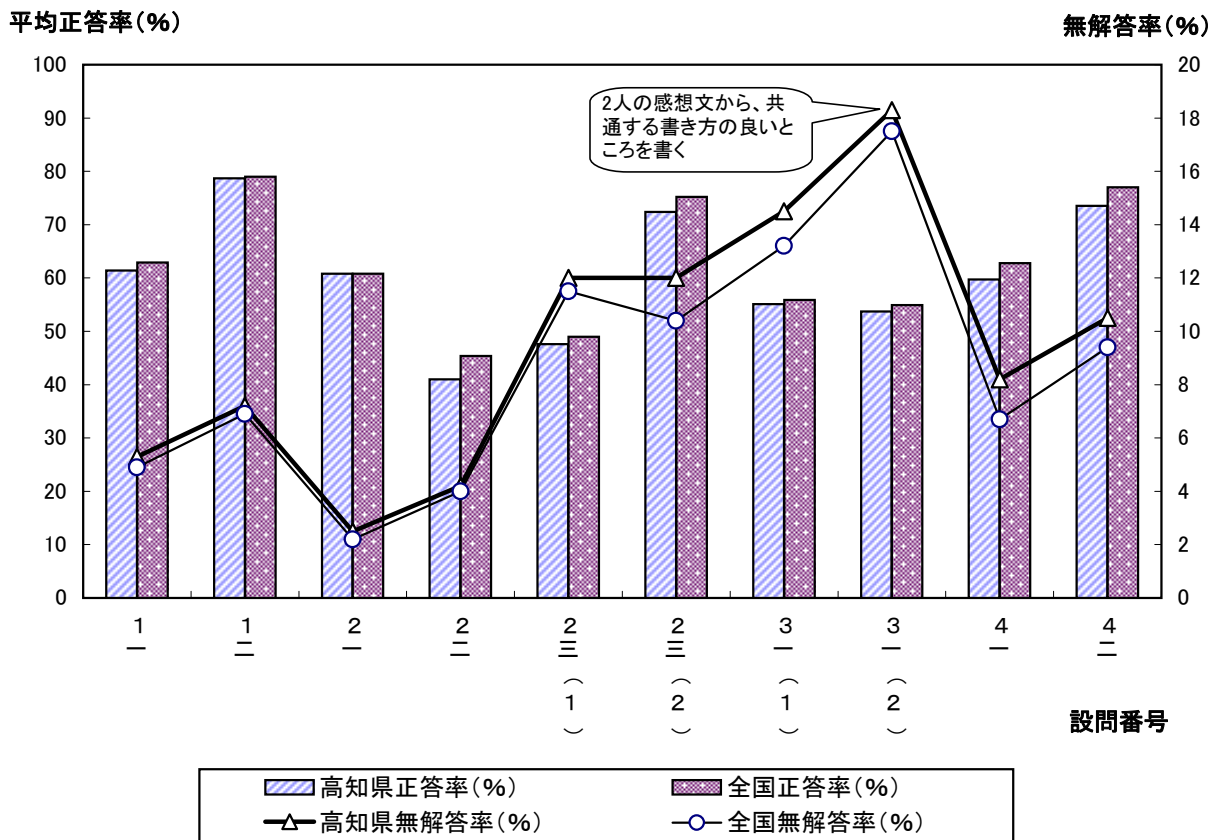
は、全国正答率より5ポイントをこえて低い正答率

○設問ごとの平均正答率・無解答率

小学校 国語A



小学校 国語B



小学校国語

○課題

- 文章の構造や段落と段落の関係などを考えながら読む方法や力が身に付いていない。
- 相手にわかるように文章構成を考えて自分の思いや考えを書いたり、目的や意図に応じて文章を書き換えたりする力が身に付いていない。
- 話の要点をつかみ、重要な部分をメモに取りながら聞く方法や力が身に付いていない。

【学習指導要領の領域別状況】 <◇相当数の児童が理解できている内容 ◆課題がある内容>

話すこと・聞くこと	◆ (A) 話の要点を聞き取り、効率よくメモを取ることに課題がある。
書くこと	◆ (B) 取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての的確に読み、その理由を要約することに課題がある。 ◆ (B) 情報の中から必要な事柄を取り出し、目的に応じて書き換えることに課題がある。
読むこと	◆ (B) 取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての的確に読み、その理由を要約することに課題がある。 ◆ (B) 二つの文章を比べて読み、自分の考えとしてまとめることに課題がある。
言語事項	◇ (A) 指示語の種類や役割を押さえたうえで、文脈の中における働きを理解していることは相当数の児童ができている。 ◆ (A) 物語の主人公について一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換えることに課題がある。

【正答率が高い問題】

A 2 三	逆接「けれども」を選択 [99.1%]
A 2 一	順接「だから」を選択 [98.4%]
A 2 二	添加「それに」を選択 [98.4%]
A 1 一(3)	「責任」の読み [97.5%]
A 1 一(1)	「導く」の読み [96.2%]

【正答率が低い問題】

B 2 二	理由を要約して記述 [41.0%]
B 2 三(1)	箇条書きに書き換え [47.6%]
A 6	話の要点をメモに取る [52.1%]
B 3	文章を比べて読み、評価し、自分の考えを記述 [53.7%]
A 7	スピーチ（話し方）の選択 [57.5%]

☆ 本文から必要な情報を取り出して要約する

＜具体的な指導例＞

- ・漫然とただ文章を読ませる授業ではなく、何のためにその教材を読むのか、読むことによってどういうことを目指すのか、目的を明確にした指導を行う。
- ・説明文を要約するためには、
 - ① 形式段落の中心文を見つける
 - ② 中心文をもとに各形式段落の要点をまとめる
 - ③ 要点をもとに中心段落を見つける
 - ④ 中心段落の要点をつなぐという一連の活動を繰り返し学習する。
- ・文章の構成を学習するためにも、接続語に着目したり、段落と段落の相互関係を踏まえながら読む。
- ・当該学年より下学年の教材を扱う。

1 家庭や地域などから毎日のようにさまざまなごみが出されます。ごみの量をこれ以上増やさないようにするために、わたしたちに何ができるでしょうか。また、資源として大切に使うために、どのようなことができるでしょうか。身近な紙の問題を例にして考えてみましょう。

2 紙は、わたしたちのくらしの中でなくてはならないものであると同時に、産業や文化を支える大事な働きをしています。トイレットペーパーやティッシュペーパーなどは、生活用品として、また、新聞や雑誌、本などは、情報と知識を伝えるものとして、はば広く使われています。

3 一般に紙は、「紙」と「板紙（厚手の紙のこと）」に区分されます。新聞、雑誌、印刷用紙、コピー用紙、ノート、ティッシュペーパーなどは、「紙」に区分されます。段ボールや紙箱用のボール紙などは、「板紙」に区分されます。

4 日本の紙と板紙の生産量は、二〇〇二年（平成十四年）には、世界第ア位となっています。そのほとんどは国内で消費しています。

5 社会や経済の発展にともない、紙はより多くの分野で使われるようになり、新しく木から作り出す紙だけでは不足するようになってきました。そこで、「一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となってきました。紙の原料である森林を守るためにも、古紙を利用して、むやみに木を切ることを防ぐようにする必要があります。」

川本さんの学級では、ごみを減らす取り組みの一つとして、身近な紙の問題を調べ、新聞にまとめて書くことにしました。そこで、紙についての資料を集めました。次の資料を読んで、あとの問いに答えましょう。

二 資料1の第5段落に、「一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となってきました」と書いてありますが、なぜ、重要な課題となってきたのですか。その理由を本文中から探して、二つ書きましょう。

☆ 観点を設定して比べて読み、自分の考えを書く

＜具体的な指導例＞

- ・「グラフからわかること」と「それに対する自分の考え」等、事実と意見を区別したうえで、つながりを意識して書かせる。
- ・国語科だけでなく他教科の授業の中で、統計資料等のデータを読み取り、それを根拠として引用しながら制限された字数内で自分の考えを書かせる場面を設定し、取り組む。
- ・接続語を使った短作文を書かせる等して、書く学習の日常化を図る。

☆ 字数や表現様式等の与えられた条件に即して書き換える

＜具体的な指導例＞

- ・自分の考えを書くことに不慣れな児童には、授業の最後に「国語日記」や「学習の記録」として、自分の考えを簡潔に書かせる等の指導を日常的な授業の中で工夫する。
- ・敬語表現を用いて手紙を書く等比較的緩やかな条件における書くことだけでなく、時間内で書き上げる指導や字数や表現様式などのさまざまな条件を設定して、与えられた条件に即して書き換える指導を継続する。

☆ 話の内容をとらえながら適切に聞き取る力を身に付ける

＜具体的な指導例＞

- ・聞き方に関する知識の理解の定着を図るために、目的を明確にして要点を簡潔にとらえ、箇条書きにする等の具体的な聞き取りの場面を設定し、継続して取り組む。
- ・電話等でメモを取る場合には、メモを渡す相手のためにはどのような配慮をすべきか考える機会を設けて、実際にメモを取る等の活動を行う。

小学校国語 [問題分析]

<A 主として「知識」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◇全国と比べて正答率が最も高かった設問	
設問	<p>A1二(3)「㊦言語事項㊧言語についての知識・理解・技能」短答式 〈第4学年の配当漢字〉</p> <p style="text-align: center;">(3) 魚を やく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p style="text-align: center;">二 次の(1)から(3)の文の ——部のひらがなを漢字に直して、 ていねいに書きましょう。</p> </div>
概要	漢字を書く(魚をやく)
趣旨	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く
正答と 正答率	「焼」と解答しているもの 高知県78.2%(全国70.7%)
最も多い 誤答と 誤答率	「焼」と解答していないもの 高知県18.5%(全国24.6%)
無解答率	高知県3.2%(全国4.6%)

小学校国語 [問題分析]

<A 主として「知識」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◆全国と比べて正答率が最も低かった設問	
設問	<p>A6「㊦話すこと・聞くこと㊧国語への関心・意欲・態度、話す・聞く能力」 選択式〈第3・4学年〉</p> <p style="text-align: center;">〈高木さんのメモ〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>○ケーキ屋さんになろうとしたきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーキを作っている様子にあこがれたから。 ・人を喜ばせたい。 <p>○ケーキ屋さんになるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかし作りを教えてくれる学校に通った。 <p>○ケーキを作る喜び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いえがいた味になったとき。 ・デザインどおりに作れたとき。 ・「おいしい」と言ってもらえたとき。 <p>○苦勞していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいケーキを考え出すこと。 </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">5 4 3 2 1</p> <p style="text-align: center;">内容が分かるように見出しを付けて書いている。 話してくれたことに対する意見や感想を書いている。 話してくれた要点をできるだけ短く書いている。 下調べしたことと聞いたことを合わせて書いている。 自分がケーキ屋さんになりたい思いを中心に書いている。</p> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p style="text-align: right;">6</p> <p style="text-align: right;">高木さんの学級では、自分になりたい職業についてそれぞれ調べました。次に示すのは、高木さんがケーキ屋さんインタビューをしたときのメモの一部です。高木さんは、分かりやすいメモにするためのくふうをしました。どのようなくふうをしているかを説明したものととして、<u>ふさわしいもの</u>を次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。</p> </div>
概要	インタビューのメモの工夫を選択する
趣旨	話の要点を聞き取り、効率よくメモを取る
正答と正答率	3と5と解答しているもの 高知県52.1% (全国57.5%)
最も多い誤答と誤答率	3と解答していないが、5と解答しているもの 高知県28.1% (全国25.7%)
無解答率	高知県0.7% (全国0.6%)

小学校国語 [問題分析]

<B 主として「活用」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◇全国と比べて正答率が最も高かった設問

<p>設問</p>	<p>B2-「㊦読むこと㊦読む能力」短答式〈第5・6学年〉</p> <p>2</p> <p>川本さんの学級では、ごみを減らす取り組みの一つとして、身近な紙の問題を調べ、新聞にまとめて書くことにしました。そこで、紙についての資料を集めました。次の資料を読んで、あとの問いに答えましょう。</p> <p>※段落のはじめにある数字は、その段落の番号を示しています。</p> <p>【資料1】</p> <p>1 家庭地域などから毎日のようにさまざまなごみが出れます。ごみの量をこれ以上増やさないようにするために、わたしたちは何ができるでしょうか。また、資源として大切に使うためには、どのようなことができるでしょうか。身近な紙の問題を例に考えてみましょう。</p> <p>2 紙は、わたしたちのくらしの中になくはならないものである。同時に、産業文化を支える大事な働きをしています。トイレットペーパーやティッシュペーパーなどは、生活用品として、また、新聞雑誌、本などは、情報を知覚を伝えるものとしてはなくてはなりません。</p> <p>3 一般紙は、紙と板紙(厚手の紙のこと)に分かれます。新聞、雑誌、印刷紙、コピー紙、ノート、ティッシュペーパーなどは、紙に分かれます。段ボールや紙箱の平紙などは、板紙に分かれます。</p> <p>4 日本の紙と板紙の生産量は、二〇〇二年(平成十四年)には、世界「ア」位となっています。そのほかには国で消費しています。</p> <p>5 社会経済の発展とともに、紙や多くの分野で使われる紙になり、新しく木から作り出すだけでは不足するようになってきました。そこで、「一度使った紙を回収して、再利用する」という世界的な重要課題が生まれました。紙の原料である森を守るためにも、古紙を利用して、むやみに木を切るようなことは必要ありません。</p> <p>6 古紙は、新聞紙、雑誌、段ボール、紙パックなど、いくつかの種類があります。中でも、新聞紙、雑誌、段ボールの種類が、古紙の大部分を占めています。</p> <p>7 古紙の再生の方法としては、同種類の紙に生まれ変わることが多くあります。段ボールの古紙は段ボールに、新聞紙の古紙は新聞紙になります。そのため、同じ種類の古紙はひたひたまで回収して再利用することが大事です。また、水にぬれている再生紙はくんだり、金属が付いている手間がかかるとまっさらな再生紙よりも再生に少しづつづけることで、古紙の再生が促されることになっています。</p> <p>8 このように、わたしたちの身近なところから古紙の再利用を進めていくことは重要です。古紙を使って紙を生産し、古紙からできた紙をさらに再利用することで、紙の量を減らし、資源を有効に活用することができます。わたしたちの身近なところから、ごみを減らすことを考え、取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。</p> <p>【資料2】</p> <p>■紙・板紙の生産量の世界上位8カ国 (地域別に整理したもの) 2002年(平成十四年)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>生産量(万トン)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アジア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>3541</td> </tr> <tr> <td>日本</td> <td>2900</td> </tr> <tr> <td>韓国</td> <td>946</td> </tr> <tr> <td>北アメリカ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アメリカ合衆国</td> <td>7534</td> </tr> <tr> <td>カナダ</td> <td>1953</td> </tr> <tr> <td>ヨーロッパ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ドイツ</td> <td>2900</td> </tr> <tr> <td>フィンランド</td> <td>1263</td> </tr> <tr> <td>スウェーデン</td> <td>1043</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1トンは1000kg)</p> <p>一 資料2をもとに、資料1の第4段落の「ア」の中に入るふさわしい数字を書きましょう。</p>	地域	生産量(万トン)	アジア		中国	3541	日本	2900	韓国	946	北アメリカ		アメリカ合衆国	7534	カナダ	1953	ヨーロッパ		ドイツ	2900	フィンランド	1263	スウェーデン	1043
地域	生産量(万トン)																								
アジア																									
中国	3541																								
日本	2900																								
韓国	946																								
北アメリカ																									
アメリカ合衆国	7534																								
カナダ	1953																								
ヨーロッパ																									
ドイツ	2900																								
フィンランド	1263																								
スウェーデン	1043																								
<p>概要</p>	<p>グラフを読み取り、文章中の空欄に適切な数字をあてはめる</p>																								
<p>趣旨</p>	<p>文章とグラフにまとめられた事実を関係付けて読む</p>																								
<p>正答と正答率</p>	<p>三(3)と解答しているもの 高知県60.8%(全国60.8%)</p>																								
<p>最も多い誤答と誤答率</p>	<p>三(3)ではない数字を解答しているもの 高知県36.5%(全国36.6%)</p>																								
<p>無解答率</p>	<p>高知県2.5%(全国2.2%)</p>																								

小学校国語 [問題分析]

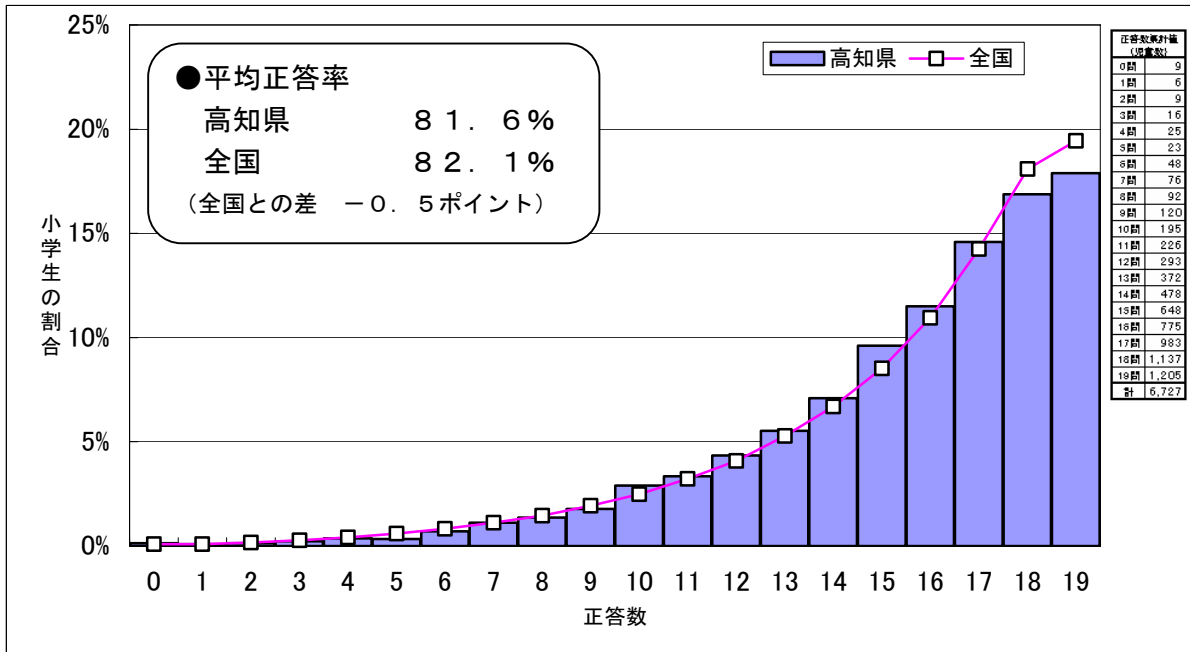
<B 主として「活用」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◆全国と比べて正答率が最も低かった設問	
設問	<p>B2二「㊦書くこと、読むこと㊦書く能力、読む能力」記述式 書くこと、読むこと〈第5・6学年〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 150px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 150px;"></div> </div> <p style="margin-left: 200px;">(メモ)※解答は、解答用紙に書きましょう。</p> <p style="margin-left: 200px;">なつてきたのですか。その理由を本文中から探して、二つ書きましょう。</p> <p style="margin-left: 200px;">① 二資料1の第5段落に、「一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となつてきました」と書いてありますが、なぜ、重要な課題となつてきたのですか。その理由を本文中から探して、二つ書きましょう。</p>
概要	古紙の再生利用が重要な課題となつてきた理由を書く
趣旨	取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての的確に読み、その理由を要約する
正答と 正答率	<p>次の条件を満たして、二つの理由を書いている。</p> <p>①(社会や経済の発展にともない、紙がより多くの分野で使われるようになり、)新しく木から作り出す紙だけでは不足するようになってきたこと</p> <p>②(紙の原料である)森林を守るためにも、(古紙を利用して、)むやみに木を切ることがないようにする必要があること</p> <p>条件①、②のいずれも満たして解答しているもの 高知県41.0%(全国45.4%)</p>
最も多い 誤答と 誤答率	条件①は満たしていないが、条件②は満たして解答しているもの 高知県25.6%(全国23.1%)
無解答率	高知県4.2%(全国4.0%)

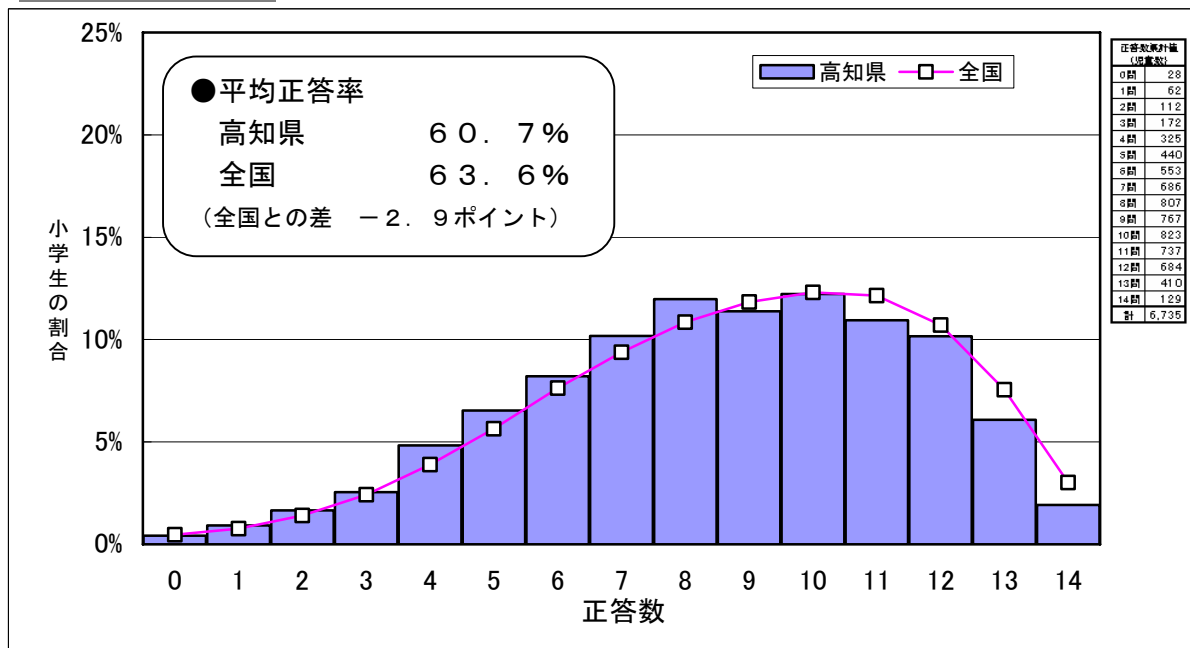
2 小学校算数

- 算数A（知識）について、小学生の平均正答率は、全国の平均正答率と同等である。
- 算数B（活用）について、小学生の平均正答率は、全国の平均正答率と同等である。
- 知識に関する問題については、相当数の小学生が今回出題している学習内容を概ね理解していると考えられるが、知識・技能を活用する力については全国の場合と同様に課題がある。

算数A（知識）



算数B（活用）



○分類・区別の状況

- 領域別では、全ての領域で全国とほぼ同等の正答率である。
- 観点別では、ほとんどの観点で全国とほぼ同等の正答率であるが、問題Bの数学的な考え方で3.1ポイント低い。
- 問題形式別では、全国と比べ問題Aの短答式で全国より2.7ポイント高い。問題Bでは、全ての形式で2ポイント以上低い。

	算数A 高知県81.6%(全国82.1%)	算数B 高知県60.7%(全国63.6%)																														
領域別	<table border="1"> <caption>算数A 領域別</caption> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>問題A(高知県)</th> <th>問題A(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数と計算</td> <td>81.3</td> <td>81.5</td> </tr> <tr> <td>数と測定</td> <td>85.3</td> <td>86.1</td> </tr> <tr> <td>図形</td> <td>85.8</td> <td>86.1</td> </tr> <tr> <td>数量関係</td> <td>74.7</td> <td>75.4</td> </tr> </tbody> </table>	領域	問題A(高知県)	問題A(全国)	数と計算	81.3	81.5	数と測定	85.3	86.1	図形	85.8	86.1	数量関係	74.7	75.4	<table border="1"> <caption>算数B 領域別</caption> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>問題B(高知県)</th> <th>問題B(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数と計算</td> <td>56.9</td> <td>58.9</td> </tr> <tr> <td>数と測定</td> <td>56.4</td> <td>58.0</td> </tr> <tr> <td>図形</td> <td>71.3</td> <td>72.5</td> </tr> <tr> <td>数量関係</td> <td>63.1</td> <td>65.5</td> </tr> </tbody> </table>	領域	問題B(高知県)	問題B(全国)	数と計算	56.9	58.9	数と測定	56.4	58.0	図形	71.3	72.5	数量関係	63.1	65.5
領域	問題A(高知県)	問題A(全国)																														
数と計算	81.3	81.5																														
数と測定	85.3	86.1																														
図形	85.8	86.1																														
数量関係	74.7	75.4																														
領域	問題B(高知県)	問題B(全国)																														
数と計算	56.9	58.9																														
数と測定	56.4	58.0																														
図形	71.3	72.5																														
数量関係	63.1	65.5																														
観点別	<table border="1"> <caption>算数A 観点別</caption> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>問題A(高知県)</th> <th>問題A(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数学的な表現・処理</td> <td>83.7</td> <td>83.6</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>80.7</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	観点	問題A(高知県)	問題A(全国)	数学的な表現・処理	83.7	83.6	知識・理解	80.7	80.0	<table border="1"> <caption>算数B 観点別</caption> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>問題B(高知県)</th> <th>問題B(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数学的な考え方</td> <td>56.5</td> <td>59.6</td> </tr> <tr> <td>数学的な表現・処理</td> <td>64.2</td> <td>65.5</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>72.2</td> <td>73.2</td> </tr> </tbody> </table>	観点	問題B(高知県)	問題B(全国)	数学的な考え方	56.5	59.6	数学的な表現・処理	64.2	65.5	知識・理解	72.2	73.2									
観点	問題A(高知県)	問題A(全国)																														
数学的な表現・処理	83.7	83.6																														
知識・理解	80.7	80.0																														
観点	問題B(高知県)	問題B(全国)																														
数学的な考え方	56.5	59.6																														
数学的な表現・処理	64.2	65.5																														
知識・理解	72.2	73.2																														
問題形式別	<table border="1"> <caption>算数A 問題形式別</caption> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>問題A(高知県)</th> <th>問題A(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>選択式</td> <td>76.5</td> <td>75.9</td> </tr> <tr> <td>短答式</td> <td>81.1</td> <td>83.8</td> </tr> <tr> <td>記述式</td> <td>81.1</td> <td>83.8</td> </tr> </tbody> </table>	形式	問題A(高知県)	問題A(全国)	選択式	76.5	75.9	短答式	81.1	83.8	記述式	81.1	83.8	<table border="1"> <caption>算数B 問題形式別</caption> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>問題B(高知県)</th> <th>問題B(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>選択式</td> <td>71.0</td> <td>73.0</td> </tr> <tr> <td>短答式</td> <td>71.5</td> <td>73.7</td> </tr> <tr> <td>記述式</td> <td>42.4</td> <td>45.0</td> </tr> </tbody> </table>	形式	問題B(高知県)	問題B(全国)	選択式	71.0	73.0	短答式	71.5	73.7	記述式	42.4	45.0						
形式	問題A(高知県)	問題A(全国)																														
選択式	76.5	75.9																														
短答式	81.1	83.8																														
記述式	81.1	83.8																														
形式	問題B(高知県)	問題B(全国)																														
選択式	71.0	73.0																														
短答式	71.5	73.7																														
記述式	42.4	45.0																														

○設問別集計結果 小学校（算数）

■算数A

設問番号	設問の概要	高知県正答率 - 全国正答率	平均正答率		無解答率	
			高知県	全国	高知県	全国
1(1)	28+72 を計算する	0.0	98.3	98.3	0.2	0.1
1(2)	27×3.4 を計算する	-0.6	84.9	85.5	0.3	0.5
1(3)	9.3×0.8 を計算する	0.6	85.3	84.7	0.4	0.6
1(4)	12÷0.6 を計算する	1.2	73.9	72.7	0.8	1.2
1(5)	1-5/8 を計算する	0.5	94.3	93.8	0.9	1.2
1(6)	3/7+4/7 を計算する	-0.2	98.2	98.4	0.3	0.4
1(7)	6+0.5×2 を計算する	-1.7	67.2	68.9	0.7	1.1
2	正方形の面積の2/3が塗られている図を選ぶ	-0.3	89.0	89.3	0.2	0.2
3(1)	7/10 を数直線上に表す	0.9	95.9	95.0	0.9	0.9
3(2)	0.5, 7/10, 4/5 のうち最大の数を、数直線上に表す	-6.4	49.2	55.6	2.3	2.4
4	210×0.6 の式で答えが求められる問題を選ぶ	3.6	57.7	54.1	0.6	0.7
5(1)	底辺4cm、高さ6cmの平行四辺形の面積を求める式と答えを書く	1.0	97.0	96.0	0.7	0.9
5(2)	底辺6cm、高さ4cmの三角形の面積を求める式と答えを書く	-0.7	88.7	89.4	0.9	1.3
5(3)	半径10cmの円の面積を求める式と答えを書く	-2.8	70.2	73.0	1.6	2.5
6(1)	2つの角の大きさが75°、35°である三角形の、残りの角の大きさを求める	0.4	84.1	83.7	1.1	1.3
6(2)	方眼紙上で、3点が与えられた平行四辺形の残りの点の位置を選ぶ	-1.1	87.4	88.5	1.0	0.9
7(1)	16cmのひもで縦の長さが3cmの長方形を作ったときの横の長さを求める	-2.0	80.4	82.4	2.2	2.2
7(2)	16cmのひもで長方形を作ったときの縦と横の長さの関係を表した表を完成させる	0.7	76.0	75.3	1.6	1.5
7(3)	16cmのひもで作った長方形の縦の長さが1cmずつ増えるときの横の長さの変化を答える	0.0	75.1	75.1	1.4	1.3

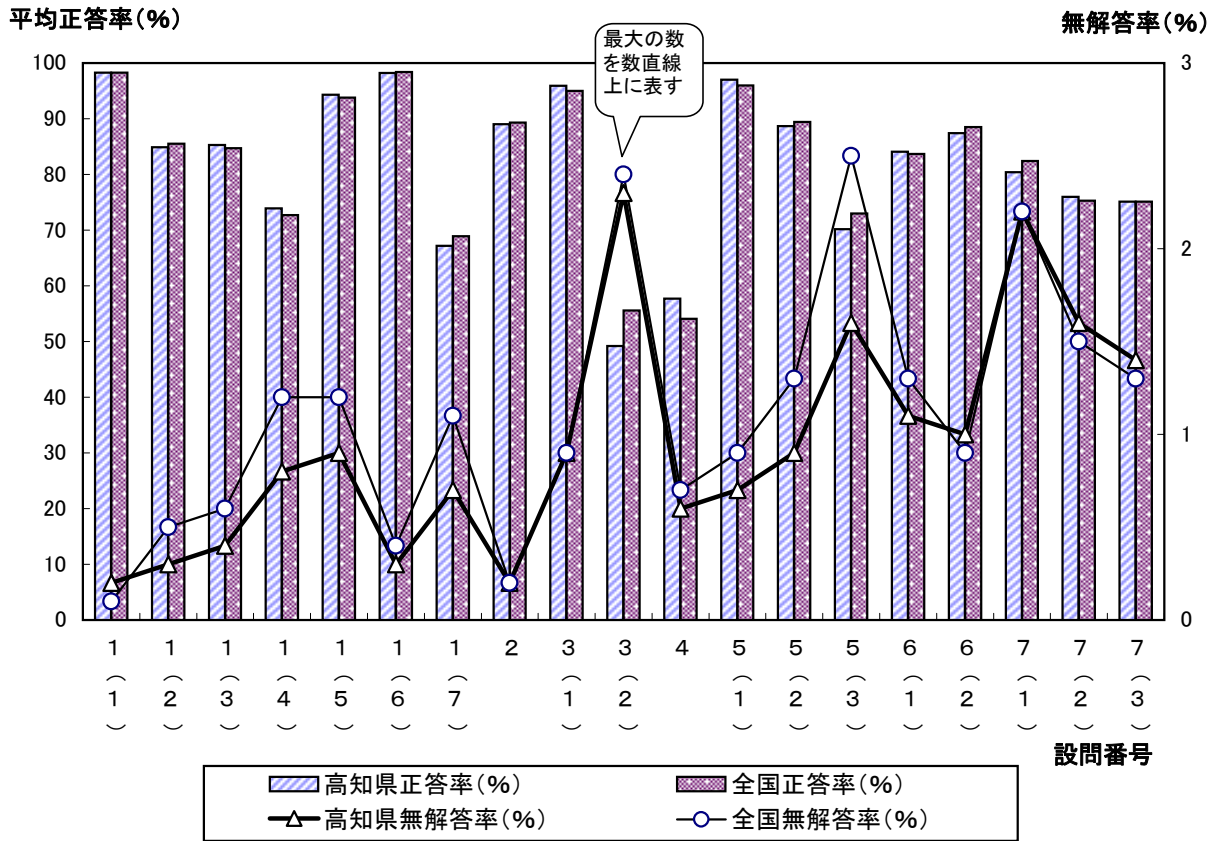
■算数B

設問番号	設問の概要	高知県正答率 - 全国正答率	平均正答率		無解答率	
			高知県	全国	高知県	全国
1(1)	長方形のまわりの長さを求める式を選ぶ	0.1	67.3	67.2	0.6	0.5
1(2)	全体の長方形から内部の長方形を除いた残りの部分の面積を求める式を選ぶ	0.1	88.2	88.1	1.3	1.3
1(3)	全体の長方形から内部の長方形を除いた残りの部分の面積が等しいことの理由を説明する	-4.1	63.8	67.9	9.5	8.8
2	25×32を、筆算を用いずに工夫して計算する方法を説明する	-2.8	56.0	58.8	9.7	9.3
3(1)	漁業に携わる人数を表した棒グラフを見て、人数が最も多いグループを選ぶ	-0.7	90.2	90.9	0.8	0.7
3(2)	漁業に携わる人数を表した棒グラフを見て、全体の数がどのように変化してきたかを書く	-3.3	81.9	85.2	3.6	3.3
3(3)	漁業に携わる人数のグループ別の割合を表した帯グラフを見て、正しい記述を選ぶ	-5.5	48.4	53.9	1.4	1.2
4(1)	木曜日と日曜日に安売りをするケーキ屋で指定されたケーキを買うとき、どちらの曜日がいくら安くなるかを求める式と答えを書く	-1.3	27.9	29.2	9.0	8.6
4(2)	5個のケーキを買うとき、与えられた条件から残り2個のケーキの買い方を答える	-1.3	57.8	59.1	9.2	8.4
5(1)	2地点間を往復する際、行きに通った道を通らず、行きと同じ道のりとなる帰りの経路をかく	-1.8	69.4	71.2	7.6	6.1
5(2)	A地点からB地点まで進む2つの経路について、どちらの道のりが長いかを答える	-2.0	77.2	79.2	2.3	1.9
5(3)	長方形の形をした公園と、平行四辺形の形をした公園について、面積が広い方の公園を答え、その理由を説明する	-0.6	17.3	17.9	4.3	3.5
6(1)	式を用いて計算した走り高跳びのめあてと実際の記録を比べ、正しい記述を選ぶ	-3.8	61.1	64.9	10.4	8.2
6(2)	2人の走り高跳びのめあてについて、計算せずに大小を比較できる理由を説明する	-4.3	46.9	51.2	22.7	20.4

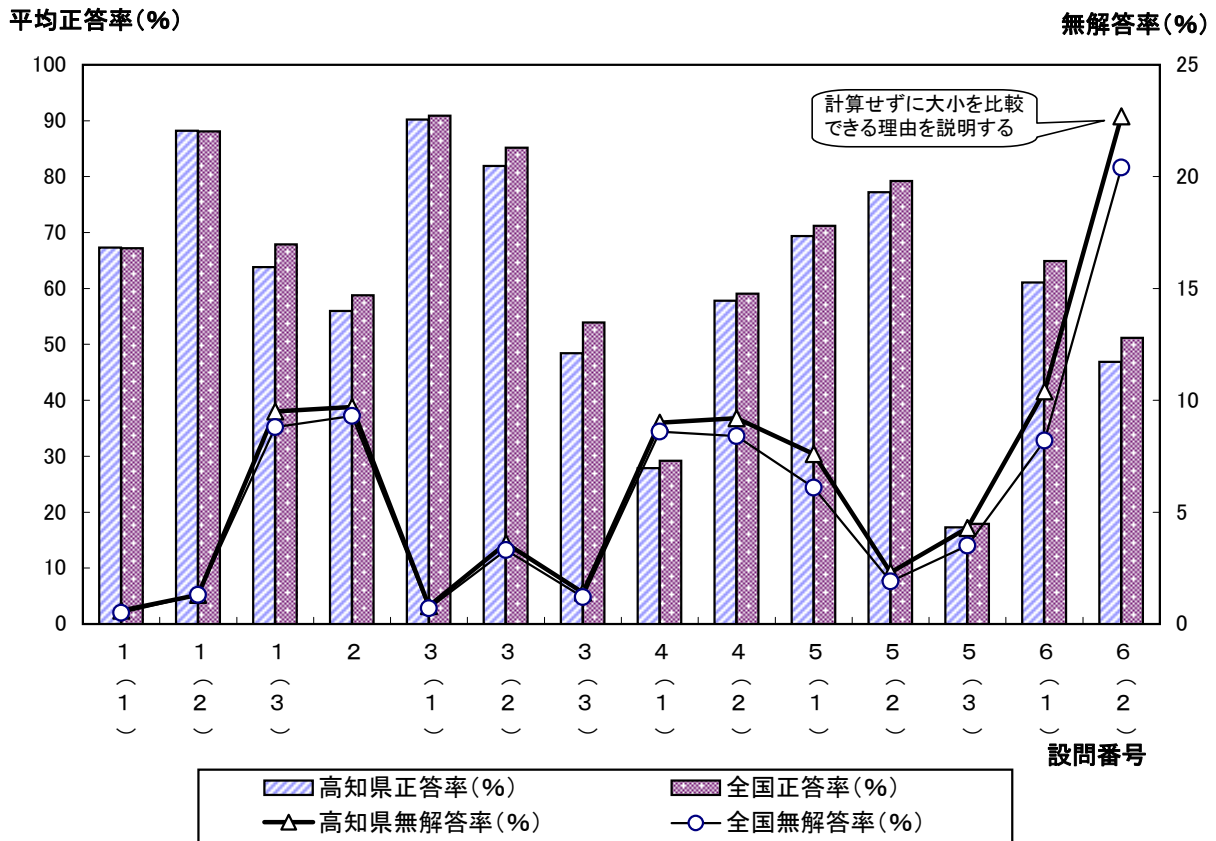
は、全国正答率より5ポイントをこえて低い正答率

○設問ごとの平均正答率・無解答率

小学校 算数A



小学校 算数B



小学校算数

○課題

- 基礎的な知識は概ね身に付いているが、この応用については問題がある。
- 計算の順序のきまりを理解しておらず複雑な計算問題になるとできない。
- 分数を小数に換えたり、分数と小数を比較することができていない。
(授業時間外での練習量に課題がある。)
- 図形の問題に見られるように、多くの情報から必要なものを選ぶことや、筋道を立てて説明する力が身に付いていない。

【学習指導要領の領域別状況】 <◇相当数の児童が理解できている内容 ◆課題がある内容>

数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (A) 整数、小数、分数の計算は、相当数の児童が理解できている。 ◆ (A) 分数と小数の関係について理解し、数直線上に表すことに課題がある。 ◆ (A) 小数のかけ算に当てはまる文章を選ぶことに課題がある。 ◆ (B) 計算の工夫を理解し、その計算方法を説明することに課題がある。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (A) 基本的な図形の面積を求める公式を理解し、面積を求めることは、相当数の児童が理解できている。 ◇ (B) L字型の図形の面積の求め方を表す式をよみとることは、相当数の児童が理解できている。 ◆ (B) 地図から複数の図形を見だし、必要な情報を取り出して面積を比較し、説明することに課題がある。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (A) 三角形の内角の和が180°であることを利用して、角の大きさを求めることは、相当数の児童が理解できている。 ◇ (A) 平行四辺形の定義や性質を理解し、作図することは、相当数の児童が理解できている。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (B) 棒グラフから人数の大小や変化の様子をよみとることは、相当数の児童が理解できている。 ◆ (A) 計算の順序についての決まりを理解して計算することに課題がある。 ◆ (B) 帯グラフから割合の変化の様子をよみとることに課題がある。 ◆ (B) 必要な情報をもとに、百分率を用いて問題を解決することに課題がある。 ◆ (B) 式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠を明確にして説明することに課題がある。

【正答率が高い問題】

- | | |
|--------------------------|---------|
| A 1 (1) $28+72$ の計算をする | [98.3%] |
| A 1 (6) $3/7+4/7$ の計算をする | [98.2%] |
| A 5 (1) 平行四辺形の面積を求める | [97.0%] |
| A 3 (1) $7/10$ を数直線上に表す | [95.9%] |
| A 1 (5) $1-5/8$ の計算をする | [94.3%] |

【正答率が低い問題】

- | | |
|-------------------------------------------------|---------|
| B 5 (3) 面積の広い方の公園を答え、その理由を説明する | [17.3%] |
| B 4 (1) どちらの曜日がいくら安くなるかを求める式と答えを書く | [27.9%] |
| B 6 (2) 計算せずに大小を比較できる理由を説明する | [46.9%] |
| B 3 (3) グループ別の割合を表した帯グラフを見て、正しい記述を選ぶ | [48.4%] |
| A 3 (2) 0.5 、 $7/10$ 、 $4/5$ のうち最大の数を、数直線上に表す | [49.2%] |

○指導改善の方向性

☆ 授業の中で、答えを導き出すまでの考え方やその根拠を文字や図表、数式を使って説明させる

<具体的な指導例>

- ・文章題では、問題を読んで分かっていることや問われていることを整理し、その状況を絵や図で表してイメージさせることが問題解決への糸口になる。低学年から継続して数量の関係を絵や図表等に表す経験を重ねる。
- ・授業の最後に振り返る活動を取り入れ、学んだことや発見したことを、算数日記等に自分の言葉で書き、学習内容の定着につなげる。

☆ 算数と実生活とのつながりを意識した学習を行い、その関係を理解させる

<具体的な指導例>

- ・身の回りの事象の中にある関係を探り、規則性を見いだすことや一般化する指導を多く取り入れ、知識・技能を活用する場面を設定する。
- ・日常生活の場面を課題に取り入れたり、身の回りから算数にかかわる事柄を見つける活動や算数で学習したことを生活の中で活用させる。
- ・学校の運動場の縦と横の長さを測り、およその面積を求める活動等、ダイナミックな活動を通して算数の有用性を体感させる。
- ・理科や社会科でのグラフの読み取り等、算数での学習内容が他教科と関連していることを実感させる。

☆ 児童自らが考え、新たな発見のある授業の工夫を行う

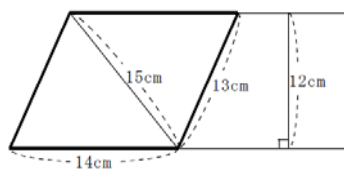
<具体的な指導例>

- ・基礎基本を繰り返して学習し、併せて応用力を身に付けるような学習を行う。
- ・授業では、具体物を用いて実際に物を作ったり、確かめたりする活動を通して、児童の自力解決を図る時間を設け、互いに自らの考えを説明し、学び合う等、多様な見方・考え方を引き出す場面を設定して、問題解決の学習を行う。
- ・友だちの考えのよさに気づき、児童が互いに評価し合い、「自分の考えが友だちに認められた」経験を重ねることで、自己肯定感を高め、算数への学習意欲の向上につなげる。

☆ 基礎的な学習内容を活用できる応用問題を取り入れる

<具体的な指導例>

(平行四辺形の面積を求める課題の例)



- ・授業で用いられる問題には、解決に必要な情報のみが与えられていて、それ以外の情報は含まれていないことが多い。左の図のように、必要でない情報を含む課題を提示することは少ない。底辺と高さの理解を確実にするためにも、問題の解決のために必要な情報を児童自らが的確に選択し、活用できるように指導の工夫を行う。

小学校算数 [問題分析]

<A 主として「知識」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◇全国と比べて正答率が最も高かった設問	
設問	<p>A4「㊦数と計算㊧数量や図形についての知識・理解」選択式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><第5学年の学習内容> 答えが210×0.6の式で求められる問題を、下の1 から4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 砂糖を0.6 kg買って、210円はらいました。この砂糖1 kgのねだんはいくらでしょう。 2 210 kgの大豆を0.6 kgずつふくろにつめます。大豆を全部つめるには、ふくろはいくついるでしょう。 3 1mのねだんが210円のリボンを0.6 m買いました。リボンの代金はいくらでしょう。 4 赤いテープの長さは210 cmです。赤いテープの長さは白いテープの長さの0.6倍です。白いテープの長さは何cmでしょう。 </div>
概要	210×0.6の式で答えが求められる問題を選ぶ
趣旨	小数の乗法の意味を理解している
正答と正答率	3と解答しているもの 高知県 57.7% (全国 54.1%)
最も多い誤答と誤答率	4と解答しているもの 高知県 25.8% (全国 30.3%)
無解答率	高知県 0.6% (全国 0.7%)

小学校算数 [問題分析]

<A 主として「知識」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◆全国と比べて正答率が最も低かった設問	
設問	<p>A3 (2) 「㊦数と計算㊧数量や図形についての知識・理解」選択式</p> <p><第5学年の学習内容></p> <p>次の数直線には、となりあった整数の間を10等分した目もりがついています。</p> <p>下の問題に答えましょう。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>(1) $7/10$ の目もりの記号を、アからスまでの中から1つ選んで、書きましょう。</p> <p>(2) 0.5, $7/10$, $4/5$ の中で、いちばん大きい数を数直線で見つけます。</p> <p>いちばん大きい数の目もりの記号を、アからスまでの中から1つ選んで、書きましょう。</p>
概要	0.5, $7/10$, $4/5$ のうち最大の数を、数直線上に表す
趣旨	三つの分数と小数の中で最大の数を見つけ、数直線上に表すことができる
正答と 正答率	ケと解答しているもの 高知県 49.2% (全国 55.6%)
最も多い 誤答と 誤答率	ケ、カ、ク以外の解答 高知県 23.3% (全国 20.8%)
無解答率	高知県 2.3% (全国 2.4%)

小学校算数 [問題分析]

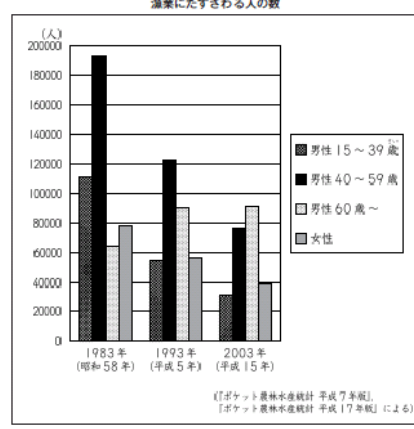
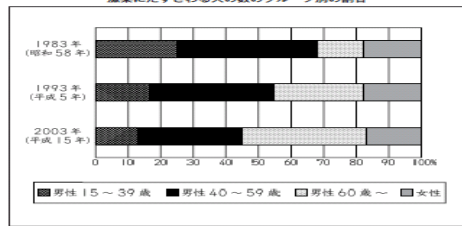
<B 主として「活用」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◇全国と比べて正答率が最も高かった設問	
設問	<p>B 1 (1)「㊦図形㊧数量や図形についての知識・理解」選択式</p> <p><第3学年の学習内容></p> <p>図アのような、たてが6m、横が9mの長方形の形をした花だんがあります。 この中に、たてが3m、横が5mの長方形の の部分があります。</p> <div style="text-align: center;"> <p>図ア</p> </div> <p>(1) の部分のまわりにロープをはります。 の部分のまわりにはるロープの長さは、どのような式で求められますか。</p> <p>下の1 から5 までの中から2つ選んで、その番号を書きましょう。</p> <p style="margin-left: 40px;">1 $5+3$</p> <p style="margin-left: 40px;">2 5×3</p> <p style="margin-left: 40px;">3 $5+3+5+3$</p> <p style="margin-left: 40px;">4 $5 \times 3 \times 2$</p> <p style="margin-left: 40px;">5 $(5+3) \times 2$</p>
概要	長方形のまわりの長さを求める式を選ぶ
趣旨	長方形のまわりの長さの求め方を理解している
正答と 正答率	3と5 と解答しているもの 高知県 67.3% (全国 67.2%)
最も多い 誤答と 誤答率	2が含まれているもの 高知県 17.6% (全国 17.5%)
無解答率	高知県 0.6% (全国 0.5%)

小学校算数 [問題分析]

< B 主として「活用」に関する問題 > ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊦は評価の観点

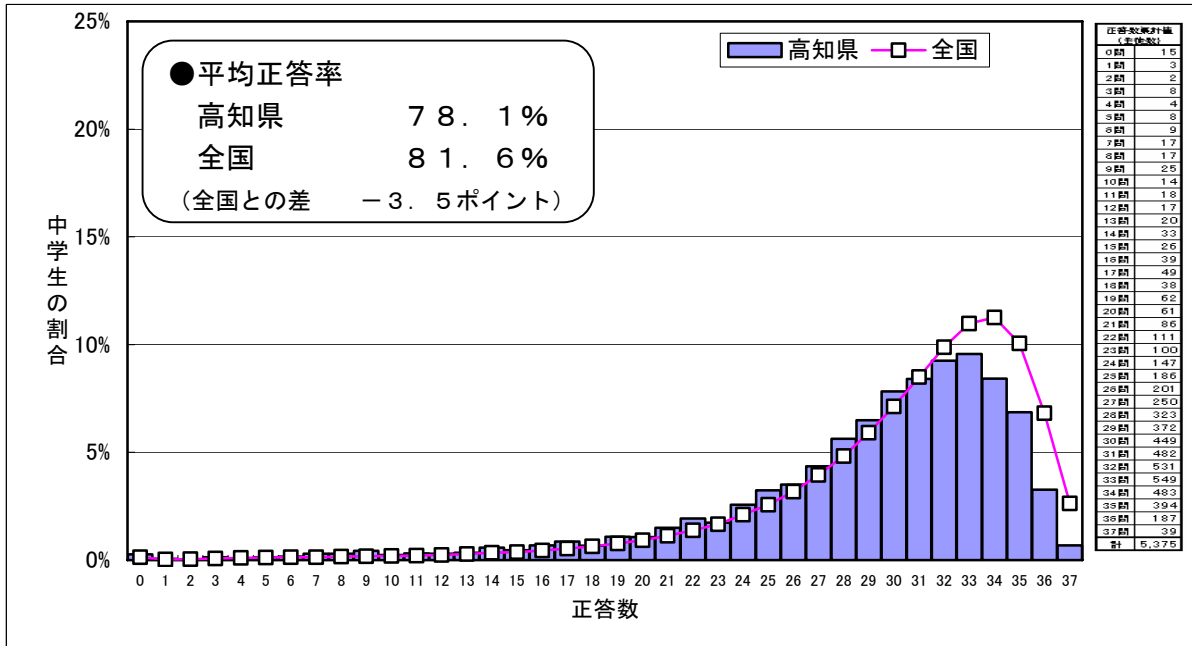
◆全国と比べて正答率が最も低かった設問

設問	B3 (3)「㊦数量関係㊦数学的な考え方」選択式
	<p>あき子さんは、日本の漁業の学習で下の棒グラフを見ています。</p> <p>この棒グラフは、漁業にたずさわる人の数を、男性の年齢別のグループと女性のグループに分けて、1983年(昭和58年)から10年ごとに表しています。</p>  <p>(1) 1983年(昭和58年)で、漁業にたずさわる人の数がいちばん多いのは、どのグループですか。また、2003年(平成15年)で、漁業にたずさわる人の数がいちばん多いのは、どのグループですか。下の1から4までの中から、それぞれ1つずつ選んで、その番号を書きましょう。</p> <p>1 男性15～39歳 2 男性40～59歳 3 男性60歳 4 女性</p> <p>(2) 左の棒グラフを見ると、漁業にたずさわる人の全体の数が変わってきたことがわかります。1983年(昭和58年)から2003年(平成15年)までに、全体の数がどのように変わってきたかを書きましょう。</p> <p>(3) 次に、あき子さんは、1983年(昭和58年)から10年ごとに、漁業にたずさわる人の数のグループ別の割合を、帯グラフで表してみました。</p>  <p>1 漁業にたずさわる人の数が、減っていること。</p> <p>2 「男性15～39歳」の漁業にたずさわる人の数の割合が、減っていること。</p> <p>3 「女性」の漁業にたずさわる人の数の割合が、およそ半分になっていること。</p> <p>4 「男性60歳～」の漁業にたずさわる人の数の割合が、2倍よりも増えていること。</p> <p>5 「男性60歳～」の漁業にたずさわる人の数が、2倍よりも増えていること。</p> <p>上の帯グラフを見ると、1983年(昭和58年)から2003年(平成15年)までの変化について、どのようなことがわかりますか。下の1から5までの中から正しいものを2つ選んで、その番号を書きましょう。</p>
概要	漁業に携わる人数のグループ別の割合を表した帯グラフを見て、正しい記号を選ぶ
趣旨	帯グラフから割合の様子をよみとることができる
正答と正答率	2と4 と解答しているもの 高知県 48.4% (全国 53.9%)
最も多い誤答と誤答率	4のみを正しく解答しているもの 高知県 10.5% (全国 9.0%)
無解答率	1.4% (全国 1.2%)

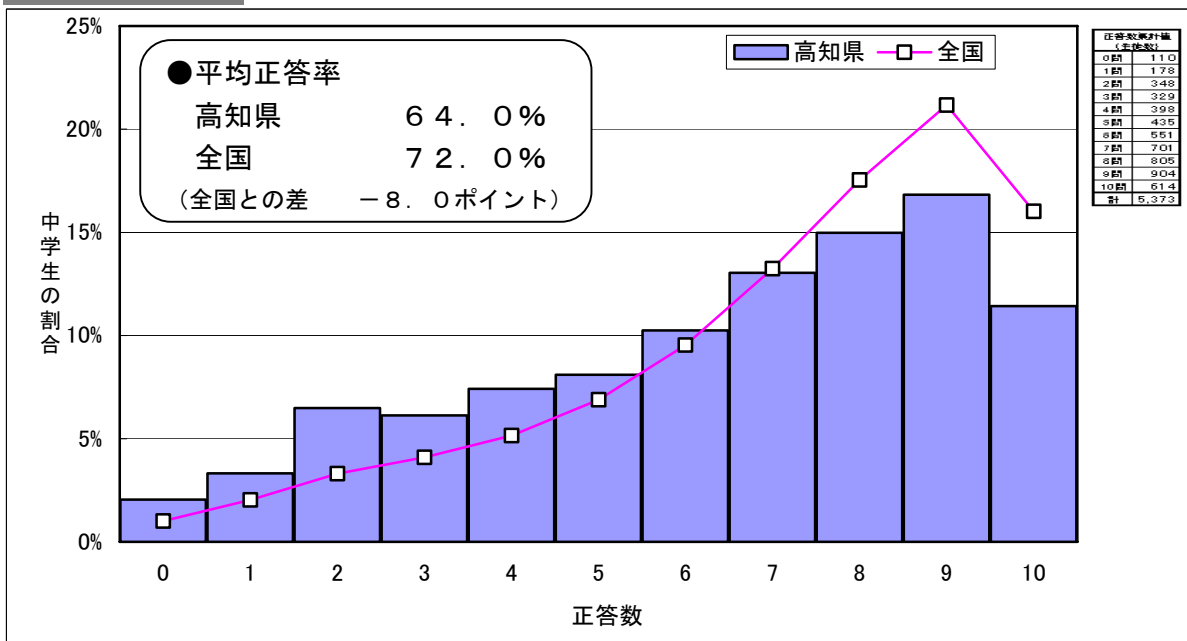
3 中学校国語

- 国語A（知識）について、生徒の平均正答率は、全国の平均正答率と同等である。
- 国語B（活用）について、生徒の平均正答率は、全国の平均正答率を下回っている。
- 知識に関する問題については、相当数の生徒が今回出題している学習内容を概ね理解していると考えられるが、知識・技能を活用する力については全国の状況と比べて課題が大きい。

国語A（知識）



国語B（活用）



○分類・区分別の状況

- 領域別では、国語B(活用)のすべての領域で平均正答率が全国平均より5ポイント以上低い。
- 観点別では、国語B(活用)の「国語への関心・意欲・態度」、「書く能力」に関する設問の平均正答率が全国平均より8.5ポイント低い。
- 問題形式別では、国語A(知識)、国語B(活用)ともに記述式の平均正答率が全国平均を下回っているが、国語B(活用)では、短答式が全国平均から9.7ポイント低く、最も差が大きくなっている。

	国語A 高知県78.1%(全国81.6%)	国語B 高知県64.0%(全国72.0%)																																				
領域別	<table border="1"> <caption>国語A 領域別</caption> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>問題A(高知県)</th> <th>問題A(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>話すこと・聞くこと</td> <td>87.6</td> <td>90.1</td> </tr> <tr> <td>書くこと</td> <td>67.5</td> <td>73.4</td> </tr> <tr> <td>読むこと</td> <td>77.1</td> <td>80.6</td> </tr> <tr> <td>言語事項</td> <td>76.6</td> <td>80.3</td> </tr> </tbody> </table>	領域	問題A(高知県)	問題A(全国)	話すこと・聞くこと	87.6	90.1	書くこと	67.5	73.4	読むこと	77.1	80.6	言語事項	76.6	80.3	<table border="1"> <caption>国語B 領域別</caption> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>問題B(高知県)</th> <th>問題B(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>話すこと・聞くこと</td> <td>76.0</td> <td>81.3</td> </tr> <tr> <td>書くこと</td> <td>55.9</td> <td>64.4</td> </tr> <tr> <td>読むこと</td> <td>63.0</td> <td>70.6</td> </tr> <tr> <td>言語事項</td> <td>61.4</td> <td>68.5</td> </tr> </tbody> </table>	領域	問題B(高知県)	問題B(全国)	話すこと・聞くこと	76.0	81.3	書くこと	55.9	64.4	読むこと	63.0	70.6	言語事項	61.4	68.5						
領域	問題A(高知県)	問題A(全国)																																				
話すこと・聞くこと	87.6	90.1																																				
書くこと	67.5	73.4																																				
読むこと	77.1	80.6																																				
言語事項	76.6	80.3																																				
領域	問題B(高知県)	問題B(全国)																																				
話すこと・聞くこと	76.0	81.3																																				
書くこと	55.9	64.4																																				
読むこと	63.0	70.6																																				
言語事項	61.4	68.5																																				
観点別	<table border="1"> <caption>国語A 観点別</caption> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>問題A(高知県)</th> <th>問題A(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関心意欲・態度</td> <td>76.3</td> <td>83.5</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く能力</td> <td>87.6</td> <td>90.1</td> </tr> <tr> <td>書く能力</td> <td>67.5</td> <td>73.4</td> </tr> <tr> <td>読む能力</td> <td>77.1</td> <td>80.6</td> </tr> <tr> <td>知識・理解・技能</td> <td>76.6</td> <td>80.3</td> </tr> </tbody> </table>	観点	問題A(高知県)	問題A(全国)	関心意欲・態度	76.3	83.5	話す・聞く能力	87.6	90.1	書く能力	67.5	73.4	読む能力	77.1	80.6	知識・理解・技能	76.6	80.3	<table border="1"> <caption>国語B 観点別</caption> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>問題B(高知県)</th> <th>問題B(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関心意欲・態度</td> <td>55.9</td> <td>64.4</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く能力</td> <td>76.0</td> <td>81.3</td> </tr> <tr> <td>書く能力</td> <td>55.9</td> <td>64.4</td> </tr> <tr> <td>読む能力</td> <td>63.0</td> <td>70.6</td> </tr> <tr> <td>知識・理解・技能</td> <td>61.4</td> <td>68.5</td> </tr> </tbody> </table>	観点	問題B(高知県)	問題B(全国)	関心意欲・態度	55.9	64.4	話す・聞く能力	76.0	81.3	書く能力	55.9	64.4	読む能力	63.0	70.6	知識・理解・技能	61.4	68.5
観点	問題A(高知県)	問題A(全国)																																				
関心意欲・態度	76.3	83.5																																				
話す・聞く能力	87.6	90.1																																				
書く能力	67.5	73.4																																				
読む能力	77.1	80.6																																				
知識・理解・技能	76.6	80.3																																				
観点	問題B(高知県)	問題B(全国)																																				
関心意欲・態度	55.9	64.4																																				
話す・聞く能力	76.0	81.3																																				
書く能力	55.9	64.4																																				
読む能力	63.0	70.6																																				
知識・理解・技能	61.4	68.5																																				
問題形式別	<table border="1"> <caption>国語A 問題形式別</caption> <thead> <tr> <th>問題形式</th> <th>問題A(高知県)</th> <th>問題A(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>選択式</td> <td>81.4</td> <td>84.2</td> </tr> <tr> <td>短答式</td> <td>74.7</td> <td>79.3</td> </tr> <tr> <td>記述式</td> <td>65.5</td> <td>72.4</td> </tr> </tbody> </table>	問題形式	問題A(高知県)	問題A(全国)	選択式	81.4	84.2	短答式	74.7	79.3	記述式	65.5	72.4	<table border="1"> <caption>国語B 問題形式別</caption> <thead> <tr> <th>問題形式</th> <th>問題B(高知県)</th> <th>問題B(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>選択式</td> <td>73.6</td> <td>79.3</td> </tr> <tr> <td>短答式</td> <td>53.8</td> <td>63.5</td> </tr> <tr> <td>記述式</td> <td>55.9</td> <td>64.4</td> </tr> </tbody> </table>	問題形式	問題B(高知県)	問題B(全国)	選択式	73.6	79.3	短答式	53.8	63.5	記述式	55.9	64.4												
問題形式	問題A(高知県)	問題A(全国)																																				
選択式	81.4	84.2																																				
短答式	74.7	79.3																																				
記述式	65.5	72.4																																				
問題形式	問題B(高知県)	問題B(全国)																																				
選択式	73.6	79.3																																				
短答式	53.8	63.5																																				
記述式	55.9	64.4																																				

○設問別集計結果 中学校（国語）

■国語A

設問番号	設問の概要	高知県正答率 - 全国正答率	平均正答率		無解答率	
			高知県	全国	高知県	全国
1一	「満天の星」を聞き手に分かりやすい表現に直す	-0.5	86.1	86.6	5.4	4.6
1二	スピーチの内容にふさわしい題名をつける	-3.6	84.1	87.7	0.4	0.3
2一	手紙の結語「敬具」に対応する頭語を選択する	-3.9	81.5	85.4	0.4	0.3
2二	手紙の主文の書き出しの語を選択する	-6.7	73.9	80.6	0.3	0.2
2三	手紙の後付けの適切な書き方を選択する	-5.8	49.2	55.0	0.5	0.4
3一	小説の中の表現についての適切な説明を選択する	-3.1	66.9	70.0	0.4	0.3
3二	小説に描かれた場面と表現についての適切な説明を選択する	-5.5	66.1	71.6	0.6	0.4
4一	詩(歌詞)のリズムについての適切な説明を選択する	-4.2	71.5	75.7	0.8	0.6
4二①	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(かをる)	-1.0	90.8	91.8	3.5	2.8
4二②	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(ふるふ)	1.2	77.6	76.4	5.2	4.2
4三	歴史的仮名遣いで書かれた表現を読み取り、様子についての適切な説明を選択する	-1.6	89.0	90.6	0.7	0.5
5一1	電話の内容をメモする(行事の内容)	-2.4	93.0	95.4	3.0	1.5
5一2	電話の内容をメモする(場所)	-1.4	96.6	98.0	2.6	1.3
5一3	電話の内容をメモする(連絡先)	-5.1	85.3	90.4	2.7	1.4
5二	電話の相手の話に不足している情報について質問する	-4.2	85.9	90.1	8.2	5.3
6一	インタビューの目的にあった質問内容を考え、質問しなくてもよいものを選択する	-2.8	89.3	92.1	0.5	0.5
6二	インタビューの一部を読み、改善点として適切なものを選択する	-0.1	80.4	80.5	0.6	0.6
7一	グラフから読み取れる内容について提示された文章に合うように書く	-6.9	65.5	72.4	17.7	10.0
8一1	漢字を書く(会社のリエキを上げる)	-1.4	66.8	68.2	14.9	12.8
8一2	漢字を書く(おもしろみがハンゲンした)	-8.4	57.9	66.3	19.0	15.0
8一3	漢字を書く(友達に本をカス)	-1.3	56.8	58.1	9.7	7.3
8二1	漢字を読む(道路を拡張する)	-0.4	82.6	83.0	5.8	4.9
8二2	漢字を読む(草木が繁茂している)	-20.6	9.7	30.3	38.5	28.3
8二3	漢字を読む(入会を勧める)	-7.2	59.0	66.2	4.4	3.7
8三ア	適切な同訓異字を選択する(税金を納める)	-2.6	84.9	87.5	0.7	0.6
8三イ	適切な慣用語を選択する(努力が水の泡となってしまった)	-0.8	96.9	97.7	0.6	0.6
8三ウ	適切な四字熟語を選択する(単刀直入にものを言う)	-1.1	88.3	89.4	0.9	0.9
8三エ	適切な語句を選択する(「絶対安静にしてください。」)	-1.3	94.8	96.1	0.7	0.6
8三オ	適切な語句を選択する(放送は、B劇場から中継した)	-1.0	85.8	86.8	0.8	0.8
8三カ	適切な語句を選択する(のどのかわきをいやした)	-1.7	89.9	91.6	1.1	0.9
8四	行書で書かれた漢字を楷書で書いたときの総画数を選択する	-0.9	77.4	78.3	0.7	0.7
8五	文字を読みやすくするための改善点を選択する	-4.8	78.7	83.5	0.9	1.0
8六	「枕草子」の冒頭を書く	-10.4	77.6	88.0	10.7	5.7
8七ア	文を推敲する(主語・述語の対応)	-4.1	87.6	91.7	7.2	4.3
8七イ	文を推敲する(副詞の呼応)	-5.5	82.6	88.1	7.6	4.8
8八ア	適切な敬語を選択する(尊敬語)	-0.9	92.9	93.8	1.1	1.0
8八イ	適切な敬語を選択する(謙讓語)	-3.7	85.7	89.4	1.2	1.0

■国語B

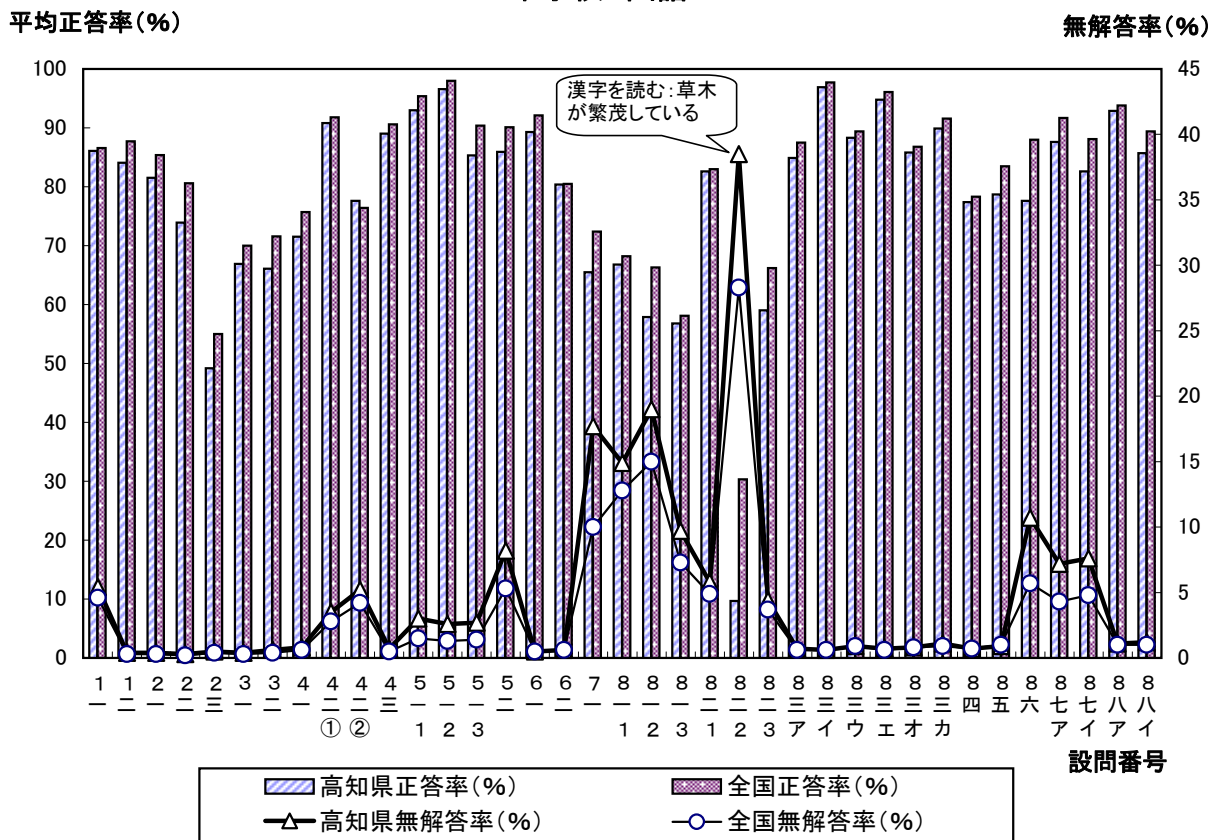
設問番号	設問の概要	高知県正答率 - 全国正答率	平均正答率		無解答率	
			高知県	全国	高知県	全国
1一	話題を具体化するために資料を用いる箇所を選択する	-5.3	76.3	81.3	0.6	0.4
1二	ロボットを開発した人の考えに合う内容を表から選択する	-4.6	87.9	92.5	0.7	0.4
1三	ロボットと共存する未来社会について想像し、自分の考えを書く	-8.6	67.3	75.9	17.2	9.6
2一	「蜘蛛の糸」を読み、その内容や表現についての適切な説明を選択する	-3.4	77.9	81.3	0.9	0.6
2二アイ	「蜘蛛の糸」の一部分を朗読する場合の適切な工夫を選択する	-7.1	61.4	68.5	0.9	0.6
2三	「三」の場面の有無に関して、自分の考えを80字以上120字以内で書く	-11.1	63.7	74.8	17.3	10.1
3一	広告カードについての会話文とカードの内容から、書いた人を特定する	-8.4	64.7	73.1	1.1	0.8
3二(1)	中学生が作成した広告カードに共通して書かれている情報を二つ書く	-9.3	63.9	73.2	12.4	6.8
3二(2)	中学生が作成した広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し、違いを説明する	-10.2	43.7	53.9	17.1	10
3三	中学生の広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し、違いを説明する	-6.0	36.6	42.6	20.3	12.4

は、全国正答率より5ポイントをこえて低い正答率

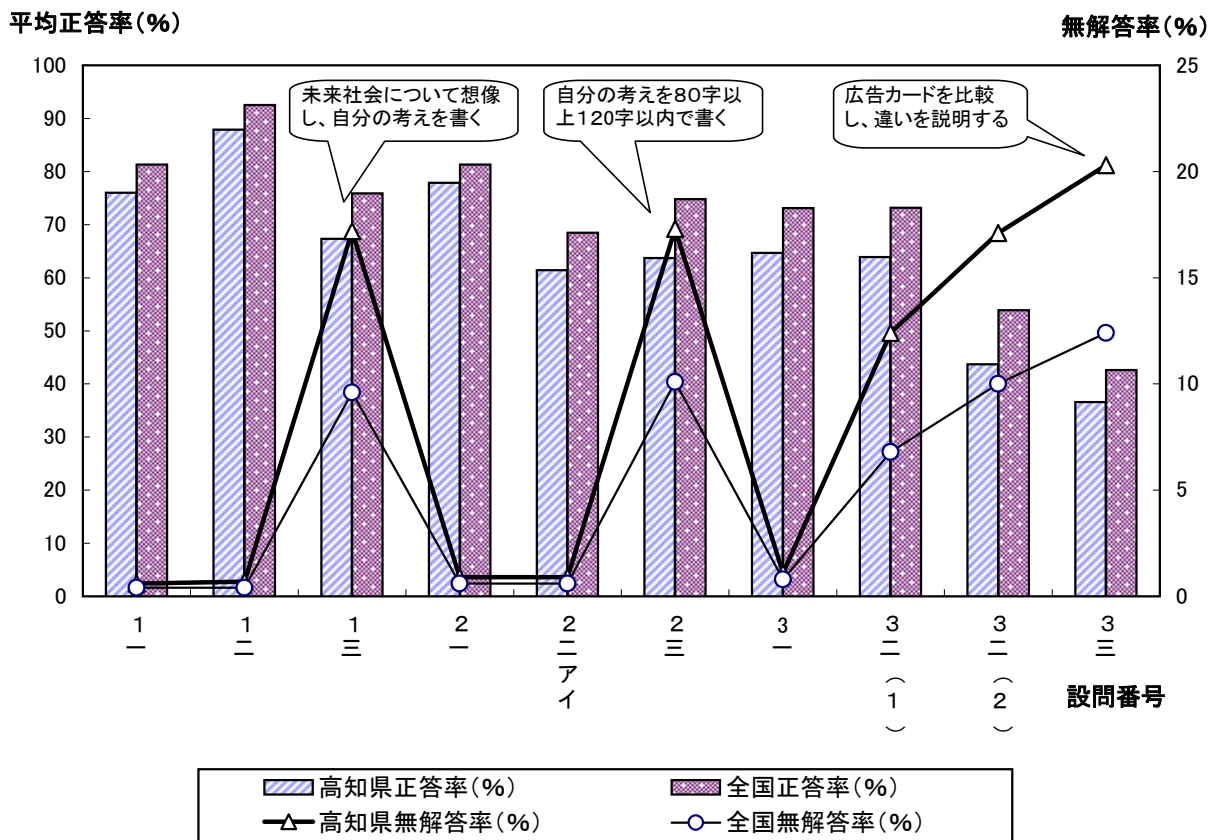
は、全国正答率より10ポイントをこえて低い正答率

○設問ごとの平均正答率・無解答率

中学校 国語A



中学校 国語B



中学校国語

○課題

- 文章の構造を捉えることや段落と段落の関係等を考えながら読む方法や力が身に付いていない。特に、文章の中の各段落の役割や文と文との接続関係を見極めて読む方法や力が身に付いていない。
- 根拠を明らかにして自分の考えを書いたり、論理の展開を工夫して書いたりすることができていない。
- 文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすることができていない。

【学習指導要領の領域別状況】 <◇相当数の生徒が理解できている内容 ◆課題がある内容>

話すこと・聞くこと	◇ (A) 聞き手を意識して使用する語句を工夫することや不足している情報を適切な表現で話し手に確かめることは、相当数の生徒ができています。 ◆ (A) 電話の内容を聞き取り、伝言を依頼されたときに伝える必要のある内容を簡潔にまとめることに課題がある。
書くこと	◆ (A) 手紙の後付けの書き方についての理解に課題がある。 ◆ (A,B) グラフから必要な情報を読み取って記述すること、文学作品の内容や構成について自分の考えを書くことに課題がある。 ◆ (B) 資料から得た情報を整理して、伝えたい事柄や自分の考えを明確にして書くことに課題がある。
読むこと	◇ (A) 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことはできている。 ◆ (A) 代表的な古典に親しませることに課題がある。 ◆ (A) 比喻等の表現技法に注意して、内容をとらえることに課題がある。 ◇ (B) 文章全体の内容や表現の特徴についておおまかに読み取ることはできている。 ◆ (B) 様々な種類の文章から必要な情報を読み取ることに課題がある。 ◆ (B) 文章の展開や心情の変化に着目して、工夫しながら朗読することに課題がある。
言語事項	◇ (A) 語句の意味を理解して文脈の中で正しく使うこと、生活の場面で敬語を適切に使うことはできている。 ◆ (A) 文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。

【正答率が高い問題】

A 8 三イ 慣用句の選択 (水の泡)	[96.9%]
A 5 一 2 電話の内容のメモ (場所)	[96.6%]
A 8 三エ 語句の選択 (安静)	[94.8%]
A 5 一 1 電話の内容のメモ (行事の内容)	[93.0%]
A 8 八ア 敬語の選択 (尊敬語)	[92.9%]

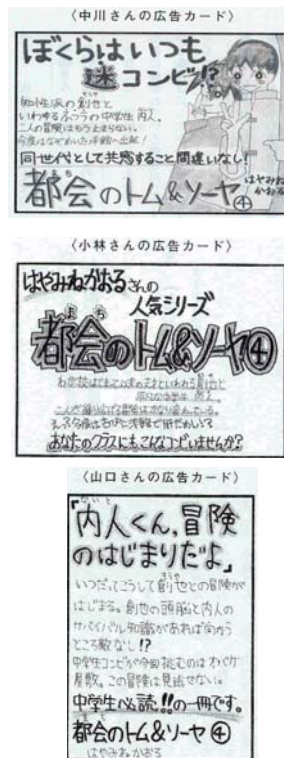
【正答率が低い問題】

A 8 二 2 漢字の読み (はんも)	[9.7%]
B 3 三 広告カードを比較し違いを説明する	[36.6%]
B 3 二 広告カードを比較し共通している情報を二つ書く	[43.7%]
A 2 三 手紙の後付けの書き方を選択	[49.2%]
A 8 一 3 漢字の書き (貸す)	[56.8%]

○指導改善の方向性

☆ 様々な文章の内容・情報を的確に読み取る ＜具体的な指導例＞

- ・漫然とただ文章を読ませる授業ではなく、何のために読むのか、読んでどうするのかという目的意識をもたせる。
- ・授業の最初には、一時間でどんなことを学ぶのか目標を示し、学習意欲を喚起する。また、文書の構造を捉えながら、接続語や文末表現、文章の形態の特徴に着目して読み、何が、どんなふうにかかれてあるのか等、内容理解を深めさせる。
- ・同じジャンルのテキストだけではなく、非連続型テキスト（データを視覚的に表現した図・グラフ、表・マトリクス、技術的な説明等の図、地図等を指す。）を含めた様々な資料を授業の中で取り入れる。
- ・読書指導において、同じ作者の作品を比較しながら読む、読んだ本に対して書評を書く等意図的・計画的な指導を継続する。
- ・図書館や情報機器を効果的に利用する仕方の指導を位置付ける。



3 書店へ職業体験に行った三人の中学生（中川さん・小林さん・山口さん）は、店長さんに本の広告カードの作成を頼まれました。次は、三人の作った広告カードと、三人が店長さんへ交えて話している様子（A）です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

二 三人の作った広告カードには、「本の題名（書名）」のように共通して書かれている情報がいくつかあります。「本の題名（書名）」以外に共通して書かれている情報を二つ書きなさい。

国語B 3

☆ 文章の中から読み取ったことを書き換えたり、自分の考えを書きまとめたりする ＜具体的な指導例＞

- ・事実と意見を区別して書く、本文を引用する、結論を先に書き理由を端的に箇条書きにまとめる等、客観的に述べる方法等も併せて指導する。
- ・学校案内のパンフレットや友達に推薦したい本の紹介カードを書く等、複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理する場を設定する。
- ・根拠を示して説得力をもたせ、筋道を立てて書く指導を継続する。

☆ 文章を読み取るために必要な使用頻度の低い漢字も使用できるようにする ＜具体的な指導例＞

- ・中学校修了までに第2学年までに学習した常用漢字を確実に読めるように指導する。
- ・何よりも、漢字を読んだり書いたりする機会を多くして習熟を図ったり、国語辞典や漢字辞典を積極的に利活用させたりする。
- ・漢字の習得ができないのは、語彙量が少ないからであり、そのためにも語彙量を増やす。（読書活動、新聞の活用等）

☆ 家庭学習の充実を図る ＜具体的な指導例＞

- ・家庭学習における自主学習では、何をするのかを明示（例：○ページの○段落を要約する等）したり、進展状況を確認したりするなど生徒の学習意欲につなげる。
- ・その日に学習した内容を盛り込んだり、翌日の学習が充実するための学習内容等を用いたりして、家庭学習の質・量の向上を図る。
- ・社会生活を営む一員として、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させ、実生活で適切に言葉を使うことができるように家庭との連携を図る。

中学校国語 [問題分析]

<A 主として「知識」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◇全国と比べて正答率が最も高かった設問

<p>設問</p>	<p>A4二㉔「㊦読むこと㊦読む能力」 短文式<第2学年及び第3学年></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>二 かをるとふるふ ① ②</p> <p>をそれぞれ現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。</p> </div> <div style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>物に動ぜぬ姿あり</p> <p>豊かにふるふ尾ひれには</p> <p>舟をも呑まん様見えて</p> <p>開ける広きその口に</p> <p>高く泳ぐや鯉のぼり</p> <p>重なる波の中空を</p> <p>たちばなかをる朝風に</p> <p>いらかの波と雲の波</p> <p>鯉のぼり</p> </div> <div style="width: 25%;"> <p>④</p> <p>次は、「鯉のぼり」の歌詞の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>(文部省『尋常小学唱歌』による。)</p> <p>(注1) いらか かわらぶきの屋根。</p> <p>(注2) 中空 空の中ほど。</p> <p>(注3) たちばな ミカン科の木。初夏に白い花をつける。</p> </div>
<p>概要</p>	<p>歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (ふるふ)</p>
<p>趣旨</p>	<p>歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む</p>
<p>正答と 正答率</p>	<p>「ふるう」と解答しているもの 高知県 77.6% (全国 76.4%)</p>
<p>最も多い 誤答と 誤答率</p>	<p>上記以外の解答 高知県 17.2% (全国 19.4%)</p>
<p>無解答率</p>	<p>高知県 5.2% (全国 4.2%)</p>

中学校国語 [問題分析]

<A 主として「知識」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◆全国と比べて正答率が最も低かった設問	
設問	<p>A8二2「㊦言語事項㊧言語についての知識・理解・技能」短答式 <第2学年></p> <p style="text-align: center;">2 草木が繁茂している。</p> <p style="text-align: right;">二 次の1から3の文中の ——線部の漢字の正しい読みをひらがなで書きなさい。</p>
概要	漢字を読む（草木が繁茂している）
趣旨	文脈に即して漢字を正しく読む
正答と 正答率	「はんも」と解答しているもの 高知県 9.7%（全国 30.3%）
最も多い 誤答と 誤答率	「はんも」のうち「はん」だけ正しく解答しているもの 高知県 32.4%（全国 26.5%）
無解答率	高知県 38.5%（全国 28.3%）

中学校国語 [問題分析]

<B 主として「活用」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

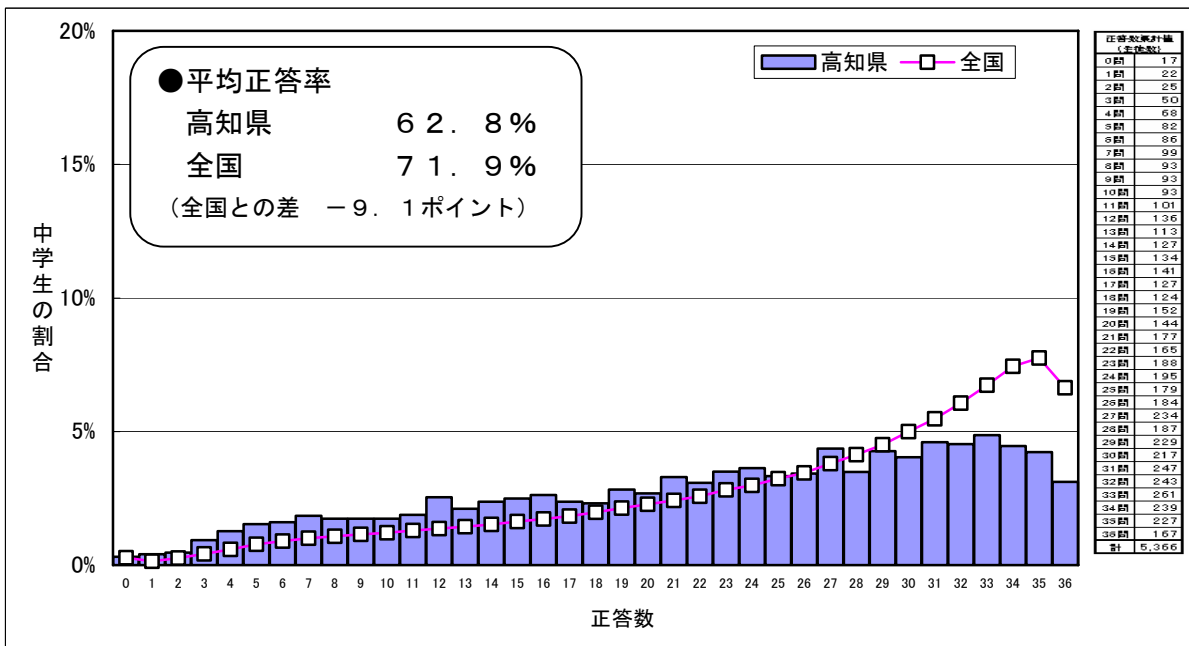
◇全国と比べて正答率が最も高かった設問

<p>設問</p>	<p>B2-「㊦読むこと㊦読む能力」選択式 <第1学年、第2学年及び第3学年></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: right;">2</p> <p>次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。</p> <p style="text-align: center;">(芥川龍之介「蜘蛛の糸」)</p> </div> <p>一 この文章の内容や表現について説明する場合、どのように説明したらよいですか。次の1から4のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。</p> <p>1 地獄にいた韃陀多は、蜘蛛を殺さずに助けたことの報いに、お釈迦様が極楽から垂らした細い蜘蛛の糸をよじのぼって、無事に地獄から抜け出すことができました。このような内容が、現在、過去、未来の表現を複雑にからませ、時間的な広がりをもつように書かれています。</p> <p>2 地獄にいた韃陀多は、蜘蛛を殺さずに助けたことの報いに、お釈迦様が救い出そうとしたにもかかわらず、自分だけ抜け出そうとしたため、再び地獄に落ちます。このような内容が、敬体を主としたていねいな文末表現で、読者に語りかけるように書かれています。</p> <p>3 地獄にいた韃陀多は、蜘蛛を殺さずに助けたことの報いに、お釈迦様が救い出そうとしますが、韃陀多が優柔不断であったため失敗します。このような内容が、作品全体にわたって、お釈迦様の目を通して見ているように書かれています。</p> <p>4 地獄にいた韃陀多は、蜘蛛を殺さずに助けたことの報いに、お釈迦様が救い出そうと懸命に働きかけます。このような内容が、お釈迦様の悲しみと苦しみを際立たせるように、視覚や聴覚などに訴える豊かな比喩を用いて書かれています。</p>
<p>概要</p>	<p>「蜘蛛の糸」を読み、その内容や表現についての適切な説明を選択する</p>
<p>趣旨</p>	<p>作品の内容や表現上の特徴をとらえる</p>
<p>正答と 正答率</p>	<p>2と解答しているもの 高知県 77.9% (全国 81.3%)</p>
<p>最も多い 誤答と 誤答率</p>	<p>3と解答しているもの 高知県 10.6% (全国 9.0%)</p>
<p>無解答率</p>	<p>高知県 0.9% (全国 0.6%)</p>

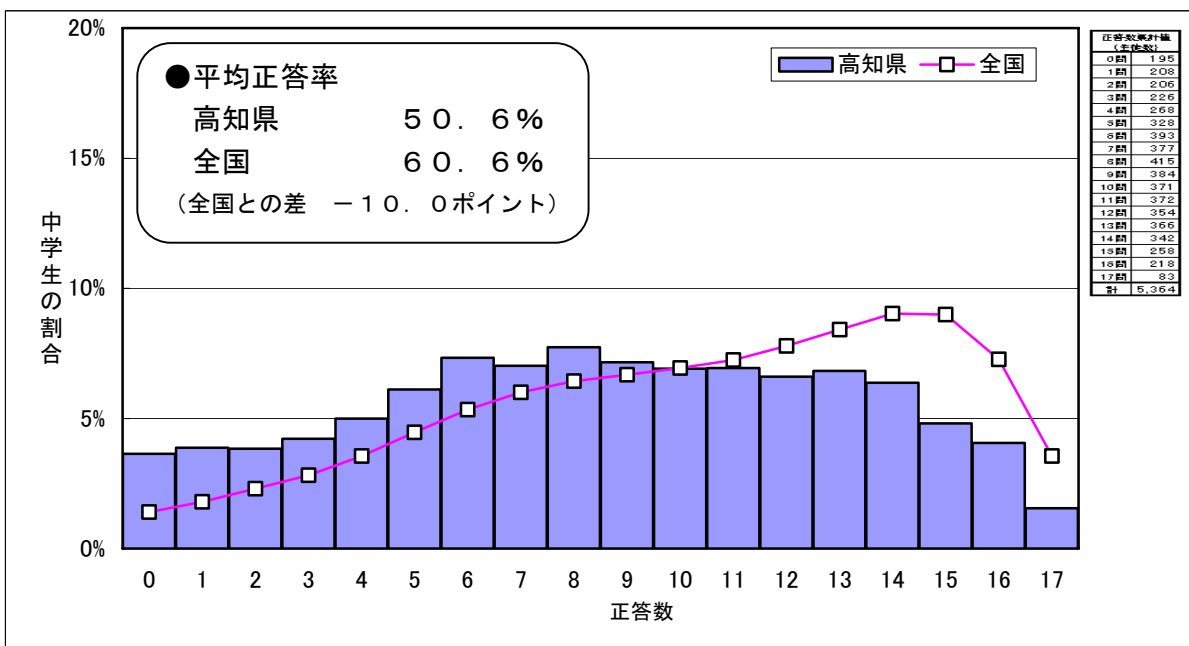
4 中学校数学

- 数学A（知識）について、生徒の平均正答率は、全国の平均正答率を下回っている。
- 数学B（活用）について、生徒の平均正答率は、全国の平均正答率を大きく下回っている。
- 知識に関する問題と活用に関する問題の正答率はともに全国を下回っており、基礎的・基本的な知識や技能の習得と知識や技能を活用する力の育成については、ともに課題が大きい。

数学A（知識）



数学B（活用）



○分類・区分別の状況

- 領域別では、全ての領域で全国との差が大きく、特に、数と式では問題A、問題Bともに10ポイント以上低い。
- 観点別では、全ての領域で全国との差が大きく、特に、問題Aの数学的な考え方、問題Bの数学的な見方や考え方で10ポイント以上低い。
- 問題形式別では、全ての領域で全国との差が大きく、特に、問題Bの記述式に大きな課題がある。

	数学A 高知県62.8%(全国71.9%)	数学B 高知県50.6%(全国60.6%)																								
領域別	<table border="1"> <caption>数学A 領域別</caption> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>問題A(高知県)</th> <th>問題A(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数と式</td> <td>64.1</td> <td>74.4</td> </tr> <tr> <td>図形</td> <td>68.2</td> <td>75.5</td> </tr> <tr> <td>数量関係</td> <td>56.3</td> <td>65.9</td> </tr> </tbody> </table>	領域	問題A(高知県)	問題A(全国)	数と式	64.1	74.4	図形	68.2	75.5	数量関係	56.3	65.9	<table border="1"> <caption>数学B 領域別</caption> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>問題B(高知県)</th> <th>問題B(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数と式</td> <td>37.1</td> <td>48.2</td> </tr> <tr> <td>図形</td> <td>40.7</td> <td>53.1</td> </tr> <tr> <td>数量関係</td> <td>59.3</td> <td>67.9</td> </tr> </tbody> </table>	領域	問題B(高知県)	問題B(全国)	数と式	37.1	48.2	図形	40.7	53.1	数量関係	59.3	67.9
領域	問題A(高知県)	問題A(全国)																								
数と式	64.1	74.4																								
図形	68.2	75.5																								
数量関係	56.3	65.9																								
領域	問題B(高知県)	問題B(全国)																								
数と式	37.1	48.2																								
図形	40.7	53.1																								
数量関係	59.3	67.9																								
観点別	<table border="1"> <caption>数学A 観点別</caption> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>問題A(高知県)</th> <th>問題A(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数学的な表現・処理</td> <td>60.0</td> <td>70.6</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>64.7</td> <td>72.8</td> </tr> </tbody> </table>	観点	問題A(高知県)	問題A(全国)	数学的な表現・処理	60.0	70.6	知識・理解	64.7	72.8	<table border="1"> <caption>数学B 観点別</caption> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>問題B(高知県)</th> <th>問題B(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数学的な見方や考え方</td> <td>46.1</td> <td>56.5</td> </tr> <tr> <td>数学的な表現・処理</td> <td>57.9</td> <td>66.5</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>87.4</td> <td>93.0</td> </tr> </tbody> </table>	観点	問題B(高知県)	問題B(全国)	数学的な見方や考え方	46.1	56.5	数学的な表現・処理	57.9	66.5	知識・理解	87.4	93.0			
観点	問題A(高知県)	問題A(全国)																								
数学的な表現・処理	60.0	70.6																								
知識・理解	64.7	72.8																								
観点	問題B(高知県)	問題B(全国)																								
数学的な見方や考え方	46.1	56.5																								
数学的な表現・処理	57.9	66.5																								
知識・理解	87.4	93.0																								
問題形式別	<table border="1"> <caption>数学A 問題形式別</caption> <thead> <tr> <th>問題形式</th> <th>問題A(高知県)</th> <th>問題A(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>選択式</td> <td>62.4</td> <td>70.9</td> </tr> <tr> <td>短答式</td> <td>63.4</td> <td>73.0</td> </tr> </tbody> </table>	問題形式	問題A(高知県)	問題A(全国)	選択式	62.4	70.9	短答式	63.4	73.0	<table border="1"> <caption>数学B 問題形式別</caption> <thead> <tr> <th>問題形式</th> <th>問題B(高知県)</th> <th>問題B(全国)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>選択式</td> <td>58.4</td> <td>63.9</td> </tr> <tr> <td>短答式</td> <td>64.5</td> <td>71.2</td> </tr> <tr> <td>記述式</td> <td>33.3</td> <td>45.1</td> </tr> </tbody> </table>	問題形式	問題B(高知県)	問題B(全国)	選択式	58.4	63.9	短答式	64.5	71.2	記述式	33.3	45.1			
問題形式	問題A(高知県)	問題A(全国)																								
選択式	62.4	70.9																								
短答式	63.4	73.0																								
問題形式	問題B(高知県)	問題B(全国)																								
選択式	58.4	63.9																								
短答式	64.5	71.2																								
記述式	33.3	45.1																								

○設問別集計結果 中学校（数学）

■数学A

設問番号	設問の概要	高知県正答率 -全国正答率	平均正答率		無解答率	
			高知県	全国	高知県	全国
1(1)	2/3÷5/7 を計算する	-9.7	72.8	82.5	13.3	7.0
1(2)	1/3, 0, -2, 4, -1/2の中から、最小の数を選ぶ	-5.3	79.9	85.2	0.5	0.3
1(3)	2×(-3) ² を計算する	-6.7	81.6	88.3	3.3	1.5
1(4)	8-5×(-6) を計算する	-10.3	66.8	77.1	4.5	1.9
2(1)	(2x+7y)-2(x-3y) を計算する	-12.1	60.8	72.9	8.2	3.8
2(2)	a=5, b=-4のときの式 3a+5b の値を求める	-10.4	72.7	83.1	14.5	7.3
2(3)	縦a, 横b の長方形において、2(a+b)が表す量を選ぶ	-10.4	52.2	62.6	1.2	0.7
2(4)	2x+3y=9 を y について解く	-14.9	41.0	55.9	24.1	12.9
3(1)	一次方程式を解くとき、移項の意味を選ぶ	-8.4	52.4	60.8	2.6	1.4
3(2)	4(x+5)=80 を解く	-9.3	73.6	82.9	13.2	7.1
3(3)	数量の関係を連立二元一次方程式で表す	-16.1	54.3	70.4	24.1	12.3
3(4)	連立方程式 5x+7y=3, 2x+3y=1 を解く	-10.7	61.2	71.9	17.8	9.8
4(1)	線対称な図形の対称軸を選ぶ	-6.7	76.6	83.3	1.8	0.9
4(2)	角の二等分線の作図の手順を選ぶ	-8.8	76.9	85.7	1.5	0.8
5(1)①	直方体において、与えられた面に垂直な辺を書く	-6.7	59.2	65.9	7.9	4.0
5(1)②	直方体において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く	-10.6	59.5	70.1	8.4	4.6
5(2)	長方形を1回転させてできる立体を選ぶ	-5.7	81.0	86.7	1.3	0.7
5(3)	円錐の展開図を選ぶ	-6.4	81.7	88.1	1.1	0.6
5(4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	-9.9	26.6	36.5	1.5	0.8
6(1)	平行線の同位角の大きさが等しいことを利用して、角の大きさを求める	-3.7	87.6	91.3	5.3	2.5
6(2)	円周角から中心角を求める	-4.7	80.7	85.4	9.3	6.3
6(3)	平行四辺形になるための条件を表した記号をもとに、正しく述べられた文を選ぶ	-8.2	58.2	66.4	1.6	0.9
7	証明の意義や必要性について、正しいものを選ぶ	-5.4	67.5	72.9	2.4	1.2
8	証明で用いられた三角形の合同条件を選ぶ	-10.4	62.8	73.2	1.8	1.0
9(1)	比例の意味を表した記述を選ぶ	-9.2	74.0	83.2	2.3	1.2
9(2)	比例のグラフから式を求める	-15.5	51.4	66.9	17.8	9.9
10(1)	反比例の表を完成する	-10.4	35.8	46.2	9.2	4.9
10(2)	反比例のグラフを選ぶ	-11.6	56.3	67.9	2.2	1.3
11(1)	一次関数を表した事象を選ぶ	-12.1	51.7	63.8	3.1	1.8
11(2)	一次関数のグラフを選ぶ	-13.3	46.4	59.7	2.9	1.7
12(1)	一次関数のグラフ（時間と道のりの関係を表したグラフ）から速さを求める	-9.0	65.9	74.9	14.5	9.6
12(2)	一次関数のグラフ（時間と道のりの関係を表したグラフ）から速さを求める	-9.7	51.3	61.0	17.3	11.9
13	連立方程式の解をグラフ上の点から選ぶ	-10.2	58.3	68.5	3.0	2.1
14(1)	確率を表した事象を選ぶ	-5.1	44.1	49.2	2.2	1.6
14(2)	総当たり戦の試合数を求める	-2.7	64.9	67.6	12.8	7.8
15	平均の意味を表した記述を選ぶ	-6.1	75.8	81.9	2.5	1.8

■数学B

設問番号	設問の概要	高知県正答率 -全国正答率	平均正答率		無解答率	
			高知県	全国	高知県	全国
1(1)	レストランのセットメニューで、条件を満たすメニューの選び方が何通りあるかを求める	-12.5	55.6	68.1	4.5	1.8
1(2)	レストランのセットメニューで、条件を満たすメニューを選択する	-5.7	39.1	44.8	1.2	0.5
1(3)	レストランのセットメニューの代金から、条件に合う注文をした人がいたかどうかを答え、その理由を説明する	-9.6	43.3	52.9	3.7	2.5
2(1)	連続する3つの自然数の和の性質について、式からよみとることを選ぶ	-5.2	49.6	54.8	2.9	1.6
2(2)	連続する5つの自然数の和が5の倍数になることを説明する	-14.4	26.5	40.9	43.8	29.2
3(1)	サッカー大会の総当たり戦での順位の決め方から、指定されたチームの点数を計算する	-7.5	79.0	86.5	6.6	2.8
3(2)	チームの順位の決め方をもとに、1位のチームを選ぶ	-5.6	86.5	92.1	2.0	0.9
3(3)式	条件に合った計算式を新たにつくる	-13.0	36.8	49.8	47.6	35.0
3(3)理由	新たにつくった計算式が、条件に合うことを説明する	-13.3	29.4	42.7	53.3	40.1
4(1)	線分の垂直二等分線の証明で、誤りを指摘する	-13.5	44.9	58.4	34.8	23.3
4(2)	証明の中の誤りを正しく書き直す	-11.3	36.6	47.9	28.4	17.4
5(1)	水を熱したときの時間と温度（水温）のグラフから、10分後の水温を求める	-5.6	87.4	93.0	8.8	4.5
5(2)	時間と水温の関係が一次関数であることが分かるグラフの特徴を説明する	-10.3	20.8	31.1	44.9	29.5
5(3)	水温が80℃になる時間を求める方法を説明する	-13.6	25.1	38.7	54.8	38.6
6(1)	家から公園を通り図書館まで往復したときの時間と距離の関係を表したグラフの線分が表す事象を答える	-7.1	81.3	88.4	14.3	8.2
6(2)	グラフをもとに、図書館にいた時間を答える	-8.5	66.8	75.3	10.5	6.0
6(3)	家から公園までの速さと、公園から図書館までの速さのどちらが速かったかを選び、その理由を説明する	-9.6	51.6	61.2	4.7	3.6

 は、全国正答率より5ポイントをこえて低い正答率
 は、全国正答率より10ポイントをこえて低い正答率

中学校数学

○課題

- 中1の初期段階で学習する基本的な問題が解けておらず、基礎学力が身に付いていない生徒が多い。特に、正負の数や文字を含む計算式等、中学3年間の基本の基本となる問題が理解できていない。

(例1: $8-5 \times (-6)$ 例2: $2x+3y=9$ を y について解く)

〔 中学初期の段階での家庭学習や補習のあり方に課題があり、その結果として、中学校3年間の学力の定着全般に影響がある。 〕

- 文章問題を読み取ることや、内容や考え方を生かして解決を図ることができていない。
- 記述式で説明する問題では無解答が多い。

【学習指導要領の領域別状況】 <◇相当数の生徒が理解できている内容 ◆課題がある内容>

数と式	<ul style="list-style-type: none"> ◆ (A) 物事を発展的に考えることに課題がある。 ◆ (A) 問題解決の構想を立て、結果を振り返り立式することに課題がある。 ◆ (A) 与えられた文字式の意味を具体的な事象の中でよみとることに課題がある。 ◆ (B) 関係を表す式を、等式の性質を用いて目的に合うように変形することに課題がある。 ◆ (B) 具体的な事象の中の数量関係をとらえ、連立二元一次方程式で表すことに課題がある。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (A) 平行線の性質は、相当数の生徒が理解できている。 ◆ (A) 円錐の体積と底面が合同で高さが等しい円柱の体積との関係を理解することに課題がある。 ◆ (A) 記号を用いて表された「平行四辺形になるための条件」を正しく理解することに課題がある。 ◆ (B) 証明を振り返り、評価、改善することに課題がある。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ◆ (A) 反比例の関係を表す表から変化の対応の特徴を捉えることに課題がある。 ◆ (A) 確率の意味を理解することに課題がある。 ◆ (B) 情報を分類整理し適切に選択し、判断することに課題がある。 ◆ (B) グラフ上の点の並び方を理想化、単純化して捉えることに課題がある。 ◆ (B) 問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

【正答率が高い問題】

A 6 (1)	角の性質の理解	[87.6%]
B 5 (1)	水温をグラフからよむ	[87.4%]
B 3 (2)	1位のチームを指摘する	[86.5%]
A 5 (3)	円錐の展開図を選ぶ	[81.7%]
A 1 (3)	四則の計算をする	[81.6%]

【正答率が低い問題】

B 5 (2)	一次関数の特徴を説明する	[20.8%]
B 5 (3)	グラフを延ばさずに求める方法を説明する	[25.1%]
B 2 (2)	連続する5つの数の和を説明する	[26.5%]
A 5 (4)	円柱と円錐の体積の関係を表す図を選ぶ	[26.6%]
B 3 (3)	新たにつくった計算式が、条件に合うことを <理由> 説明する	[29.4%]

○指導改善の方向性

☆ ごく基本的な計算問題すら解けていない状況がある。基本的な問題の反復等の繰り返し学習を行い、家庭学習の課題を与える

<具体的な指導例>

- ・小学校の学習内容を含めた基本的な問題を授業の中で行い、基礎・基本の定着を行う。(分数や小数の計算問題と四則の入り交じった計算等)
- ・生徒の主体的な学びにつなげるために、生徒の実態にあった発問や教材を工夫する。
- ・自分の考えをノートにまとめ、意見交換を行う等の場面を設定する。
- ・「授業で何を学習するのか」を明示し、授業後の「振り返り(まとめ)」や学力チェックテスト等により、学力の定着を確実にする。
- ・学習の定着の実態を把握し、補習を確実に行う。
- ・小単元毎に確認テストを行い、生徒が「解けた」「分かった」という事実を積み重ね、学んだことを確実に積み上げていく。
- ・基礎・基本を繰り返して学習し、併せて応用力を身に付けるような学習を行う。
- ・家庭学習の定着を図るために、家庭学習の課題を与えると同時に、家庭学習を生かす授業を行う。
- ・生徒一人ひとりの学力を確認する教材として、「算数・数学学習シート(小中学校課が平成18年4月にCD-ROMで各校に配布)」等を活用し、家庭学習の質・量の向上を図る。

<正答率が低かった計算問題>

○ $\frac{2}{3} \div \frac{5}{7}$
(正答率 72.8%)

○ $8 - 5 \times (-6)$
(正答率 66.8%)

○ $4(x + 5) = 80$
(正答率 73.6%)

☆ 読解力や表現力の育成と関連させながら指導する

<具体的な指導例>

- ・自分の考えやその根拠を、言葉や数、式、図表、グラフ等を用いて明らかにすることができるように、日頃から、発表の仕方を工夫する等、読解力や表現力の育成と関連させながら指導する。
- ・問題文をノートに書かせ、文章問題に対する抵抗をなくす。

☆ 数学と実生活とのつながりを意識した学習を行い、その関係を理解させる

<具体的な指導例>

- ・身の回りの事象の中にある関係を探り、規則性を見出すことや、一般化する指導を多く取り入れ、知識・技能を活用する場面を設定する。
- ・生徒の思考力を育てるために、生徒が考えを深める時間を十分にとる。
- ・身の回りにおける規則性のある事柄について、その関係を数学的に表すことで、実測ができない数量を予測することも可能になり、数学を学ぶことの意義や有用性を実感することにつなげる。

<問題B-5>

理科の実験で、水を熱したときの水温を調べる実験をしました。

.....

(3)水温が80℃になる時間は何分後かを求めるには、浩志さんの考えた方法のほかに、どのような方法が考えられますか。

中学校数学 [問題分析]

<A 主として「知識」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◇全国と比べて正答率が最も高かった設問	
設問	A14(2)「㊦数量関係、㊧数学的な表現・処理」短答式 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><第2学年の学習内容> A, B, C, Dの4チームがバレーボールの試合をします。どのチームも他のすべてのチームと1回ずつ試合をします。このときの全部の試合数を求めなさい。</p> </div>
概要	総当たり戦の試合数を求める
趣旨	樹形図や表などを利用して、場合の数を求めることができる
正答と 正答率	6と解答しているもの 高知県 64.9% (全国 67.6%)
最も多い 誤答と 誤答率	12と解答しているもの 高知県 10.9% (全国 14.2%)
無解答率	高知県 12.8% (全国 7.8%)

中学校数学 [問題分析]

<A 主として「知識」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◆全国と比べて正答率が最も低かった設問	
設問	<p>A3(3)「㊦数と式、㊧数学的な表現・処理」記述式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><第2学年の学習内容></p> <p>1個120円のりんごと1個70円のオレンジを合わせて15個買ったら、代金の合計は1600円になりました。</p> <p>買ったりんごの個数とオレンジの個数を求めるために、りんごの個数をx個、オレンジの個数をy個として連立方程式をつくりなさい。</p> <p>ただし、つくった連立方程式を解く必要はありません。</p> </div>
概要	数量の関係を連立二元一次方程式で表す
趣旨	数量の関係をとらえ、連立二元一次方程式を立式することができる
正答と正答率	$\begin{cases} x+y=15 & \dots \text{①} \\ 120x+70y=1600 & \dots \text{②} \end{cases}$ <p>高知県 54.3% (全国 70.4%)</p>
最も多い誤答と誤答率	<p>上記で②だけを正しく解答しているもの 高知県 5.1% (全国 3.8%)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><参考>上記で①だけを正しく解答しているもの 高知県 5.0% (全国 4.7%)</p> </div>
無解答率	高知県 24.1% (全国 12.3%)

中学校数学 [問題分析]

<B 主として「活用」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◇全国と比べて正答率が最も高かった設問	
設問	<p>B2(1)「㊦数と式、㊧数学的な見方や考え方」選択式</p> <p><第2学年の学習内容></p> <p>太郎さんは、連続する3つの自然数の和がどんな数になるかを調べています。</p> <p>1, 2, 3 のとき, $1+2+3=6$ 2, 3, 4 のとき, $2+3+4=9$ 3, 4, 5 のとき, $3+4+5=12$</p> <p>これらの結果から、連続する3つの自然数の和は3の倍数になることを予想し、この予想が正しいことを下のように説明しました。</p> <p>太郎さんの説明</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>連続する3つの自然数のうち、最も小さい自然数をnとすると、 連続する3つの自然数は、$n, n+1, n+2$と表せる。 連続する3つの自然数の和は、 $n+(n+1)+(n+2)=n+n+1+n+2$ $=3n+3$ $=3(n+1)$ $n+1$ は自然数だから、$3(n+1)$は3の倍数である。</p> </div> <p>次の(1),(2)の各問いに答えなさい。</p> <p>(1)太郎さんの説明の最初の式 $3(n+1)$から、 連続する3つの自然数の和は3の倍数である このほかに分かることがあります。下のアからオの中から1つ選びなさい。</p> <p>ア 連続する3つの自然数の和は奇数である。 イ 連続する3つの自然数の和は偶数である。 ウ 連続する3つの自然数の和は最も小さい数の3倍である。 エ 連続する3つの自然数の和は中央の数の3倍である。 オ 連続する3つの自然数の和は最も大きい数の3倍である。</p>
概要	連続する3つの自然数の和の性質について、式からよみとることを選ぶ
趣旨	説明を振り返って考えることができる
正答と 正答率	エ と解答しているもの 高知県 49.6% (全国 54.8%)
最も多い 誤答と 誤答率	ウ と解答しているもの 高知県 19.3% (全国 16.9%)
無解答率	高知県 2.9% (全国 1.6%)

中学校数学 [問題分析]

<B 主として「活用」に関する問題> ※ ㊦は学習指導要領の領域、㊧は評価の観点

◆全国と比べて正答率が最も低かった設問	
設問	<p>B2(2)「㊦数と式、㊧数学的な見方や考え方」記述式</p> <p><第2学年の学習内容></p> <p>(2) 太郎さんの説明から、</p> <p style="text-align: center;">連続する5つの自然数の和は5の倍数になる</p> <p>ことが予想されます。太郎さんの説明を参考にして、このことが正しいことの説明を完成しなさい。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">連続する5つの自然数のうち、最も小さい数をnとすると、 連続する5つの自然数は、$n, n+1, n+2, n+3, n+4$と表される。 連続する5つの自然数の和は、 $n+(n+1)+(n+2)+(n+3)+(n+4)$ $= n + n+1 + n+2 + n+3 + n+4$</p> <p>説明</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 50%; margin: 0 auto;"></div> </div>
概要	連続する5つの自然数の和が5の倍数になることを説明する
趣旨	ものごとを発展的に考えることができる
正答と正答率	<p>(正答の条件)</p> <p><$5(n+2)$と計算している場合> 次の(a),(b)を記述しているもの (a) $n+2$は自然数だから、 (b) $5(n+2)$は5の倍数である。</p> <p><$5n+10$と計算している場合> 次の(c),(d)を記述しているもの (c) $5n, 10$が5の倍数で、5の倍数の和は5の倍数だから (d) $5n+10$は5の倍数である。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>(正答例)</p> <p>例1 $=5(n+2)$ $n+2$は自然数だから $5(n+2)$は5の倍数である。</p> <p>例2 $=5n+10$ $5n, 10$が5の倍数で、5の倍数の和は5の倍数だから、 $5n+10$は5の倍数である。</p> <p>高知県 26.5% (全国 40.9%)</p>
最も多い誤答と誤答率	<p>(a),(b)の記述に誤りがあるもの 高知県 18.3% (全国 20.0%)</p>
無解答率	43.8% (全国 29.2%)

VI 児童生徒の学習や生活の状況 —児童生徒質問紙調査結果より—

◆注釈

※選択肢が4つ以上の質問においては、肯定的な選択肢の回答2つを足した結果の比較（質問21は、1時間以上勉強をしている場合の比較）

※帯（横棒）グラフ中、「その他」・「無回答」を選択した割合は省略

※ポイント比較の表現

+20ポイント以上	非常に多い
+5ポイント以上	多い
+5～-5ポイントの間	ほぼ同じ
-5ポイント以下	少ない
-20ポイント以下	非常に少ない

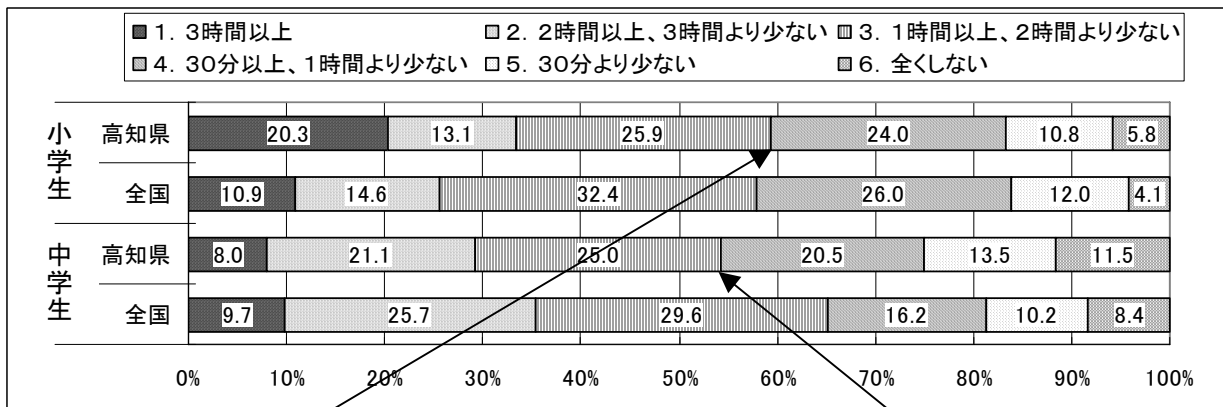
① 学習時間・家庭学習（児童生徒質問紙調査）

- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上勉強している」小学生の割合は全国とほぼ同じだが、中学生の割合は全国より少ない。
- 高知県の中学生の「全く勉強しない」割合は、11.5%である。
- 全国では、「1時間以上勉強している」割合は、小学生より中学生の方に多いが、高知県では、逆に中学生の方が少ない。

◆学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含んでいる。）

（小）質問21（中）質問21

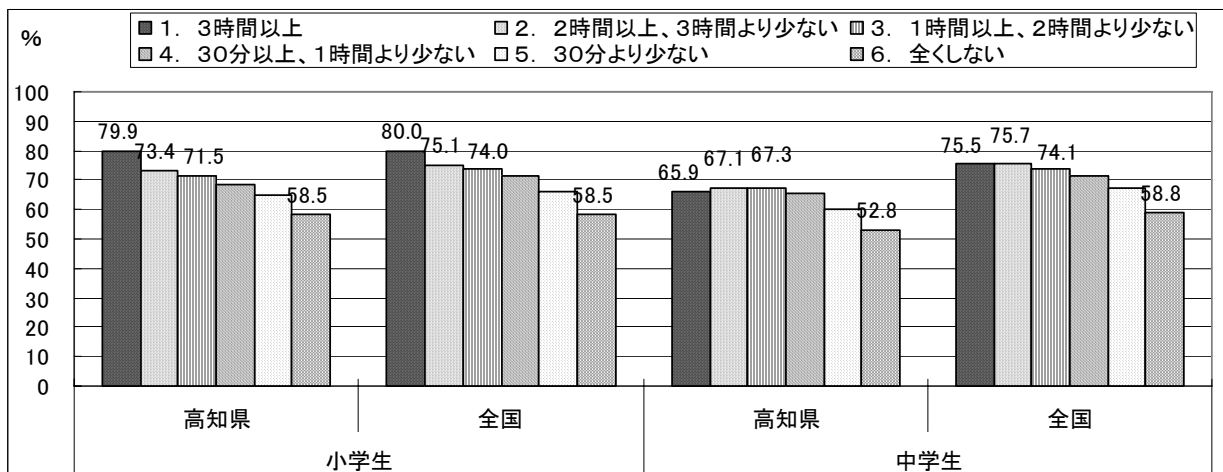


（小）全国比較：+1.4ポイント

（中）全国比較：-10.9ポイント

《正答率との相関関係》

- 「学校の授業以外で勉強する時間が長い」小学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 高知県の中学生に比べて小学生の方に、勉強時間と正答率との相関関係がより見られる。



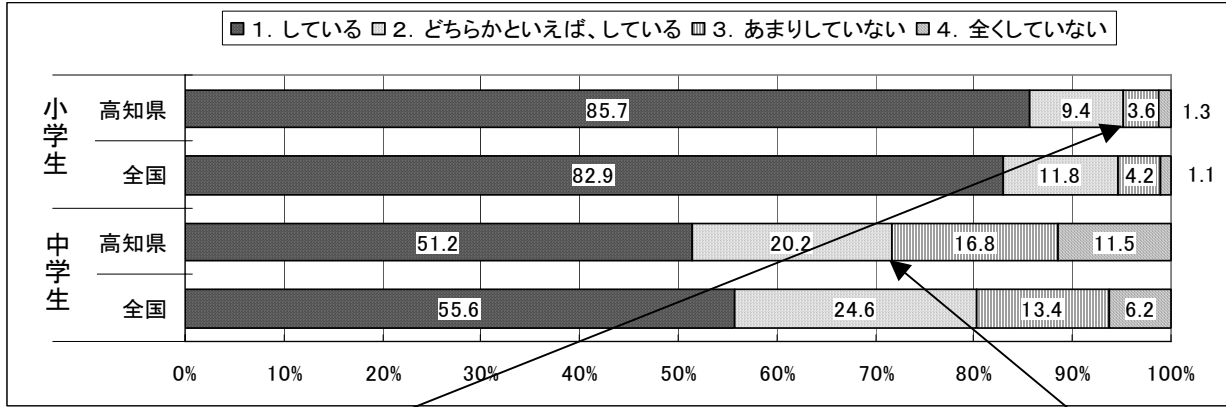
※縦棒は、国語A・B、算数（数学）A・Bの平均正答率

① 学習時間・家庭学習（児童生徒質問紙調査）

- 「宿題をしている」小学生の割合は全国とほぼ同じだが、中学生の割合は全国より少ない。
- 「予習をしている」小・中学生の割合は、全国より少ない。
- 「復習をしている」小学生の割合は全国より少ないが、中学生の割合は全国より多い。

◆家で学校の宿題をしていますか

(小) 質問32 (中) 質問34

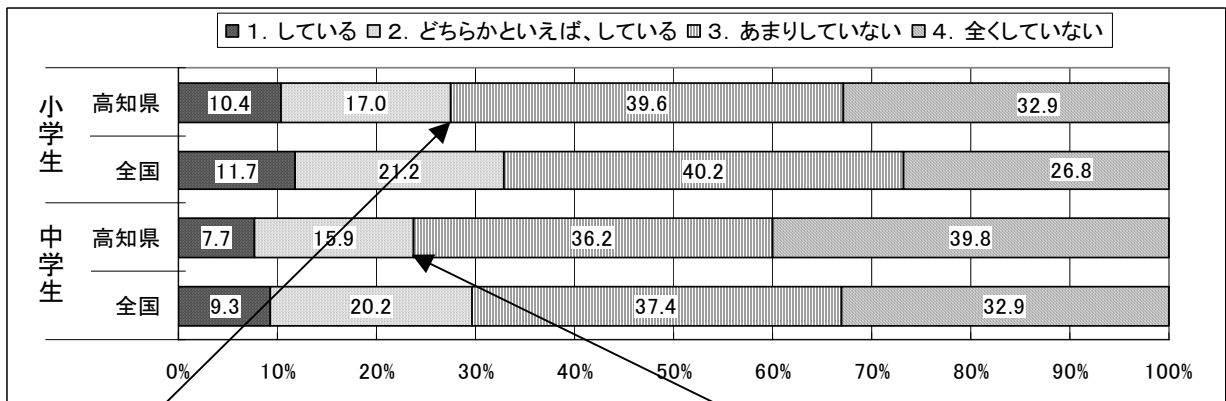


(小) 全国比較：+0.4ポイント

(中) 全国比較：-8.8ポイント

◆家で学校の授業の予習をしていますか

(小) 質問33 (中) 質問35

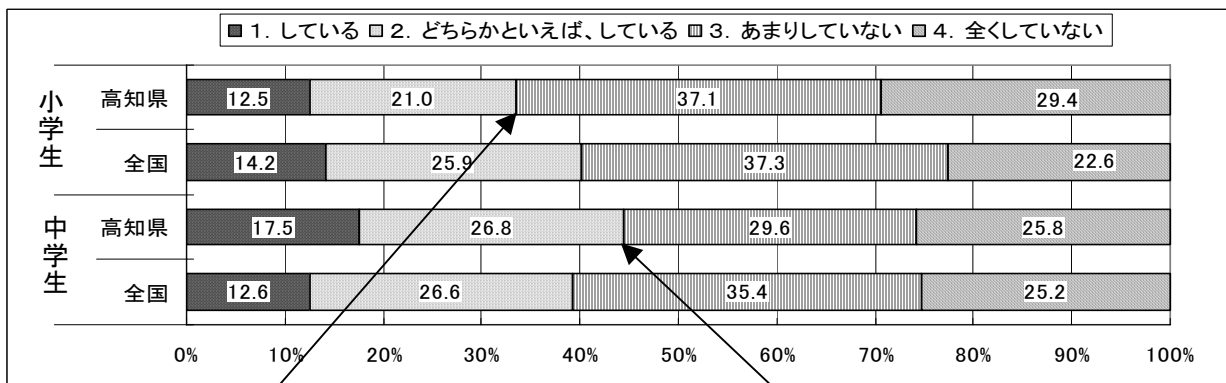


(小) 全国比較：-5.5ポイント

(中) 全国比較：-5.9ポイント

◆家で学校の授業の復習をしていますか

(小) 質問34 (中) 質問36



(小) 全国比較：-6.6ポイント

(中) 全国比較：+5.1ポイント

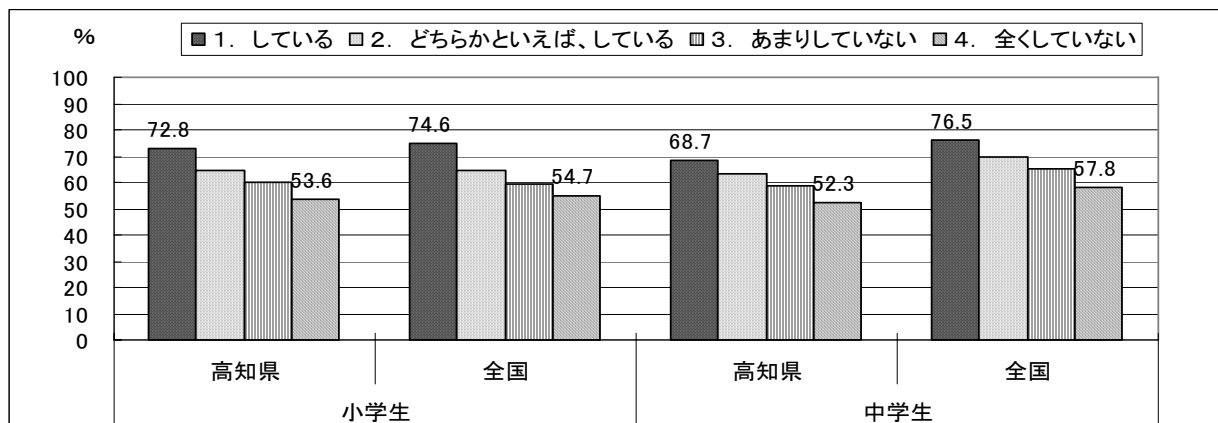
① 学習時間・家庭学習（児童生徒質問紙調査）

《正答率との相関関係》

- 「宿題をしている」小・中学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 小学生に比べて高知県の中学生には、予習と正答率との相関関係が見られない。

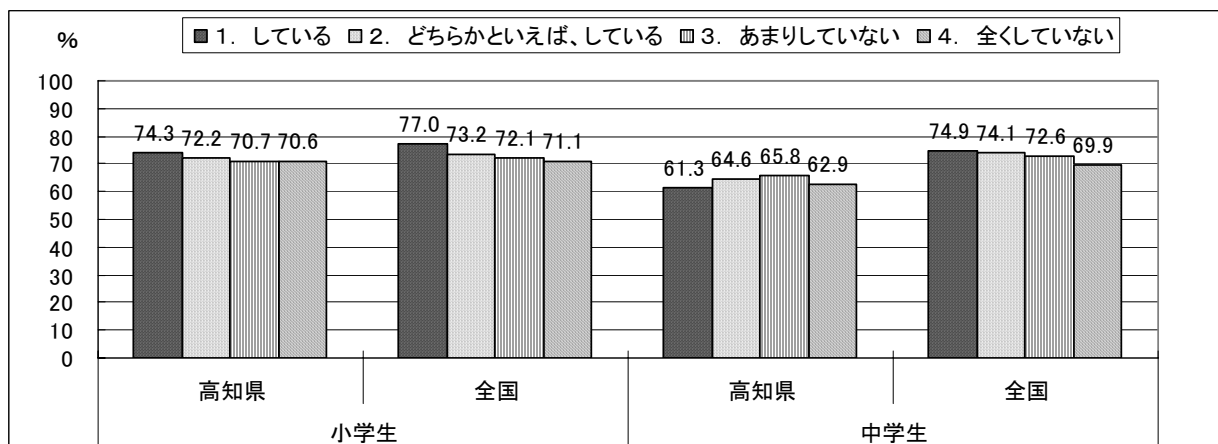
◆家で学校の宿題をしていますか

(小) 質問32 (中) 質問34



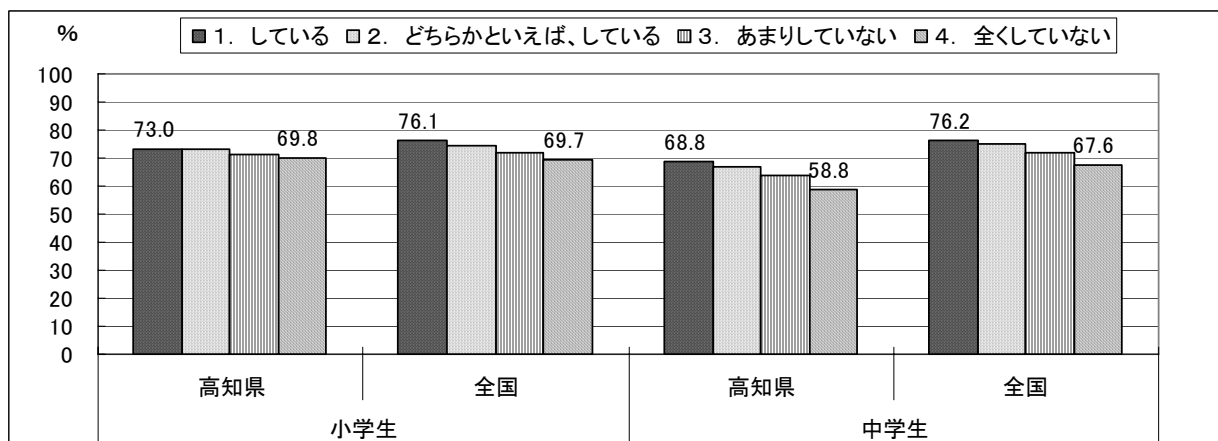
◆家で学校の授業の予習をしていますか

(小) 質問33 (中) 質問35



◆家で学校の授業の復習をしていますか

(小) 質問34 (中) 質問36



※縦棒は、国語A・B、算数（数学）A・Bの平均正答率

① 学習時間・家庭学習（児童生徒質問紙調査）

◇調査結果の考察

中学生○「授業時間以外に勉強を全くしない」・「宿題を全くしていない」中学生の割合は、全国の中でも多い。宿題と正答率との間に相関関係があることから、宿題を全くしていない中学生の割合が多いことは、学力の定着状況に影響を与えていると考えられる。小・中○学習時間・家庭学習に関する質問の中には、正答率との相関関係が強い項目がある。家庭学習について、小・中の連携、学校と家庭との連携、教科間（中学校）の連携を図って、家庭学習の質・量（内容）を高める取り組みが必要である。

【課題】

中学生●学習意欲や家庭学習時間、宿題への取り組みに課題がある。

⇒**家庭学習の質と量（内容）の向上が必要**

◇今後の手立て

【学校では】

- 家庭学習の習慣を付けるため、適切な質・量（内容）の宿題を与えて、点検・評価を行う。
- 授業と家庭学習がつながり合って効果を高めるように、授業と家庭学習のサイクル化を図る。
- 小学校と中学校、学校と家庭、教科と教科（中学校）の間で情報交換を行って連携を図り、発達段階に応じた家庭学習のあり方を研究して、小・中学生の自ら学ぶ意欲を高めるとともに、学び方や家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- 中学校では、部活動の取り組みを見直し、家庭での学習時間を確保する。
- 中学校第1学年初期に家庭学習の進め方等を説明し、家庭学習に対する意欲を高めて、中学校での家庭学習のスムーズな実施を図る。

【家庭では】

- 基本的な生活習慣や生活リズムを確立し、家庭学習の時間を確保して、家庭学習の習慣を定着させる。
- 家庭で進路について話す機会を持ち、学習の必要性を実感させる。

【市町村教育委員会では】

- 学び方が身に付く授業や、家庭学習と授業のサイクル化を図る取り組みについて学校の状況を把握し、必要な情報を提供する。
- 基本的な生活習慣や家庭学習の習慣を確立するため、家庭の果たすべき役割について啓発を図る。

【県教育委員会では】

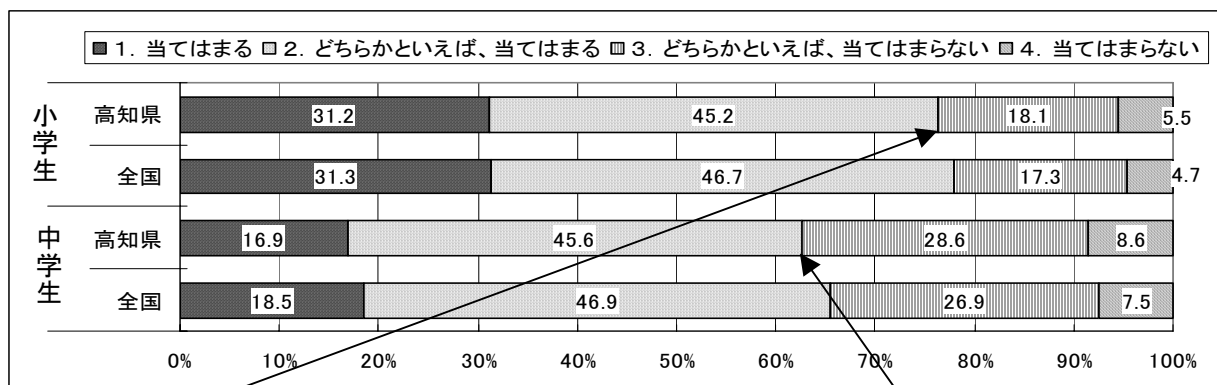
- 発達段階に応じた家庭学習のモデルプランの研究や、授業と家庭学習のサイクル化を図る研究の成果を普及する。

② 学習に対する関心・意欲・態度（児童生徒質問紙調査）

- 「国語の授業の内容がよく分かる」小・中学生の割合は、全国とほぼ同じ。
- 「算数（数学）の授業の内容がよく分かる」小学生の割合は全国とほぼ同じだが、中学生の割合は全国より少ない。
- 「解答を文章で書く問題は、最後まで解答を書こうと努力した」中学生の割合は、全国より少ない。

◆国語の授業の内容はよく分かりますか

（小）質問70（中）質問72

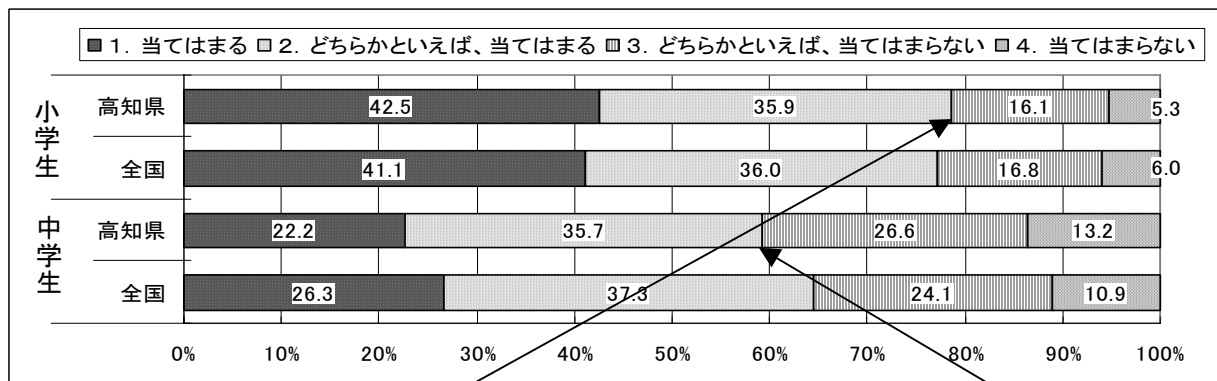


（小）全国比較：－1.6ポイント

（中）全国比較：－2.9ポイント

◆算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか

（小）質問81（中）質問83

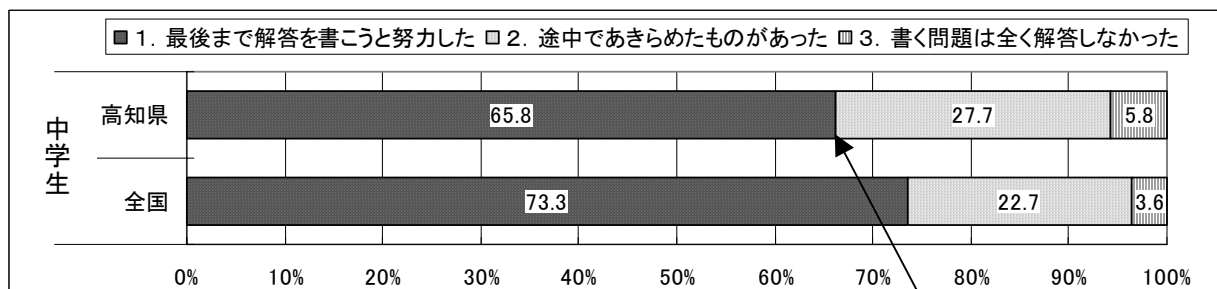


（小）全国比較：＋1.3ポイント

（中）全国比較：－5.7ポイント

◆解答を文章で書く問題は、最後まで解答を書こうと努力しましたか

（中）質問79



（中）全国比較：－7.5ポイント

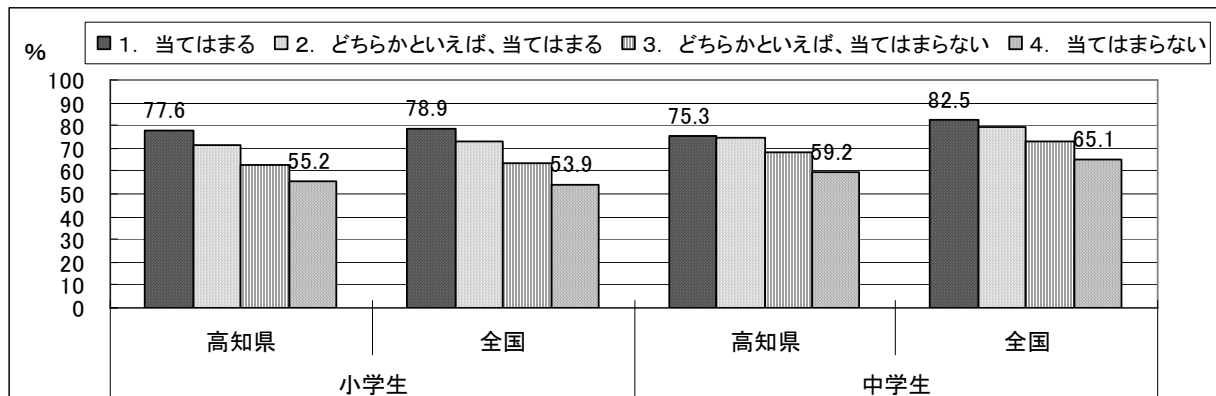
② 学習に対する関心・意欲・態度（児童生徒質問紙調査）

《正答率との相関関係》

- 「国語・算数（数学）の授業の内容がよく分かる」小・中学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 「解答を文章で書く問題は、最後まで解答を書こうと努力した」中学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。

◆国語の授業の内容はよく分かりますか

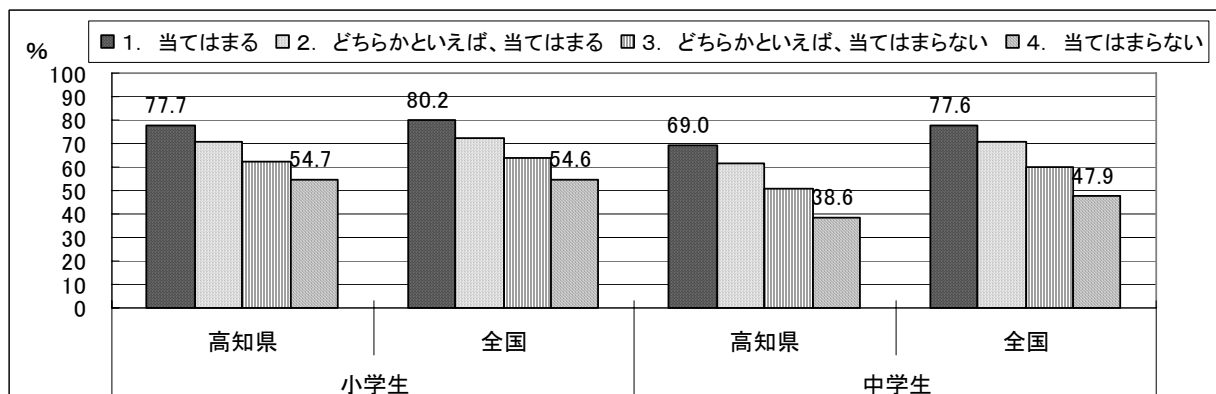
（小）質問 7 0 （中）質問 7 2



※縦棒は、国語 A・B の平均正答率

◆算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか

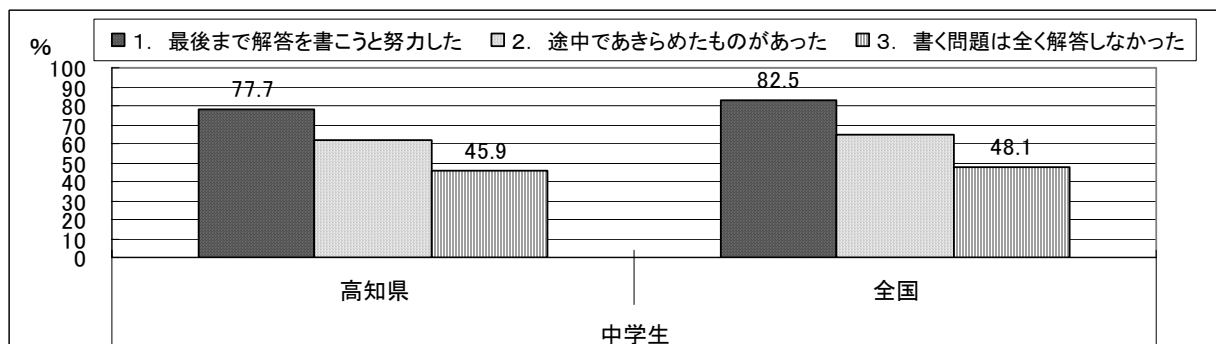
（小）質問 8 1 （中）質問 8 3



※縦棒は、算数（数学） A・B の平均正答率

◆解答を文章で書く問題は、最後まで解答を書こうと努力しましたか

（中）質問 7 9



※縦棒は、国語 A・B の平均正答率

② 学習に対する関心・意欲・態度（児童生徒質問紙調査）

◇調査結果の考察

中学生○授業内容の理解と正答率との間に相関関係があることから、「数学の授業の内容がよく分かる」中学生の割合が全国より少ないことが、学力の定着状況に影響を与えていると考えられる。

○「最後まで解答を書こうと努力すること」と正答率との間に相関関係があることから、「最後まで解答を書こうと努力した」中学生の割合が全国より少ないことが、学力の定着状況に影響を与えていると考えられる。

小・中○学習に対する関心・意欲・態度に関する質問の中には、正答率との相関関係が強い項目が多い。一人ひとりの学習状況に留意するとともに、一人ひとりに応じた分かる授業を行う必要がある。

【課題】

中学生●数学の授業内容の理解に課題がある。

●学習意欲や持続力に課題がある。

⇒一人ひとりの学習状況に留意するとともに分かる授業づくりが必要

◇今後の手立て

【学校では】

- 小・中学校間の連携を強化し、学力定着状況を互いに把握するとともに、授業研究の交流を行う等して、一人ひとりに応じた指導を充実する。
- 各種調査による学力や学習状況の結果を分析し、一人ひとりに応じた改善策を立てて実行する。
- 中学校では、教科の枠をこえた授業研究を行い、一人ひとりの学力定着状況や課題を全教員で共有するとともに学習到達目標を明確にして一人ひとりに応じた指導を充実する。

【家庭では】

- 学習の過程や成果に対して「ほめる」「励ます」ことを大切にし、学習意欲を維持させる。
- 進路について早い時期から話し合っ、学習意欲を高める。
- 学習意欲がわくように、子どもたちの健全な生活リズムを築く。

【市町村教育委員会では】

- 学校を訪問する機会を増やし、小・中学生の学習状況や教員の授業力を具体的に把握して、教員の授業力向上のための研修等を行う。

【県教育委員会では】

- 教科の枠をこえた授業研究の成果を普及する。
- 小・中連携を強化する研究の成果を普及する。
- 数学科教員の授業力向上対策として、研修を実施する。

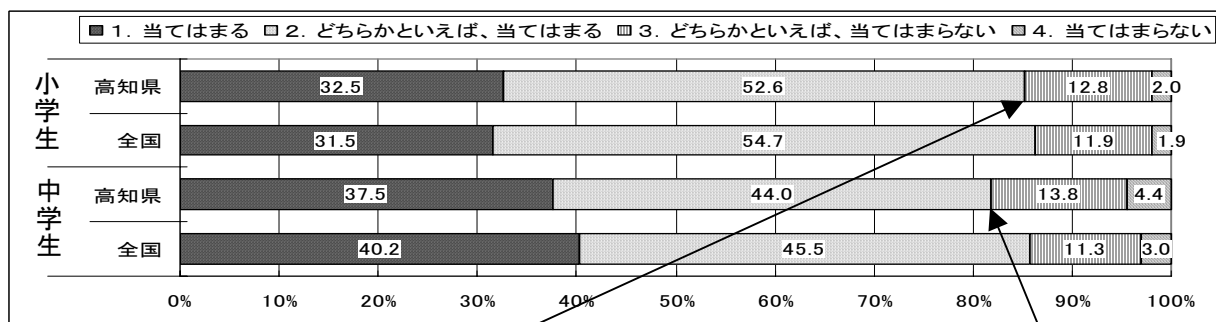
（中学校数学授業改善プロジェクト事業）

③ 規範意識（児童生徒質問紙調査）

○「学校のきまり（規則）を守っている」小・中学生の割合は、全国とほぼ同じ。

◆学校のきまり（規則）を守っていますか

（小）質問 4 4 （中）質問 4 6

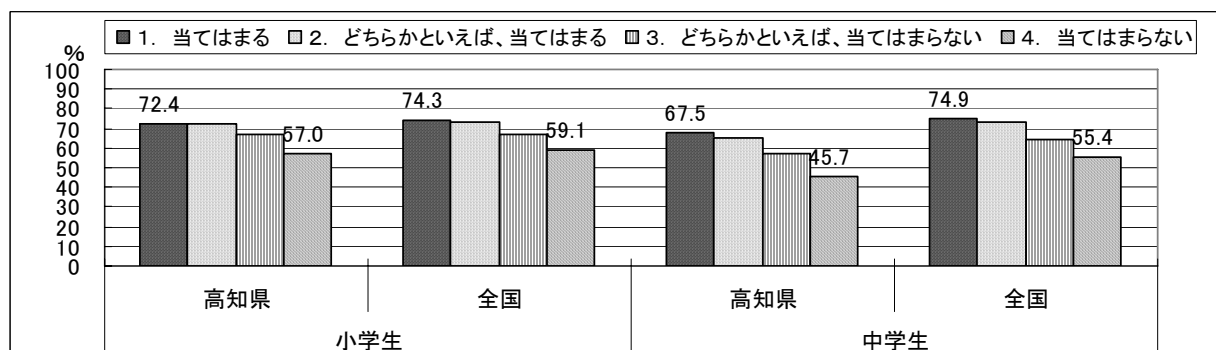


（小）全国比較：－1. 1ポイント

（中）全国比較：－4. 2ポイント

《正答率との相関関係》

○「学校のきまり（規則）を守っている」小・中学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。



※縦棒は、国語A・B、算数（数学）A・Bの平均正答率

◇調査結果の考察

○規範意識に関する質問の中には、正答率との相関関係が強い項目がある。集団や社会で生活するうえで、きまりや約束を守ろうと意識し、判断することは重要なことである。

◇今後の手立て

【学校では】

○集団や社会で生活するうえで、きまりや約束を守ることの大切さを伝えるとともに、小・中学生が自ら考え、判断する機会を重視する。

【家庭・地域では】

○規則を守ることを大人が自ら実行して教える。

【市町村教育委員会では】

○マナーやモラルについて考える機会を提供し、地域ぐるみで規範意識を高める取り組みを行う。

【県教育委員会では】

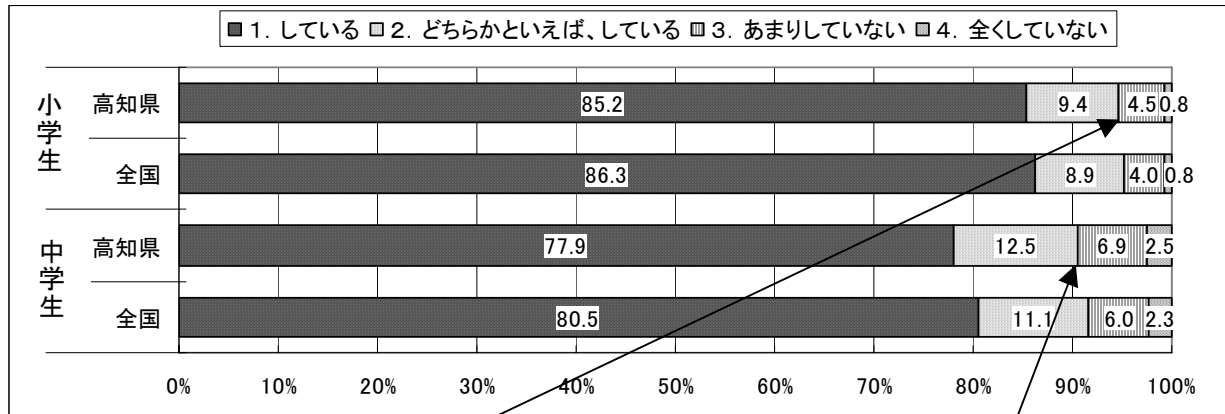
○道徳教育や生徒指導、人間関係づくりに関わる施策を充実する。

④ 基本的な生活習慣（児童生徒質問紙調査）

- 「朝食を毎日食べている」小・中学生の割合は、全国とほぼ同じ。
- 「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている」小学生の割合は、全国とほぼ同じだが、中学生の割合は全国より少ない。

◆朝食を毎日食べていますか

(小) 質問 1 (中) 質問 1

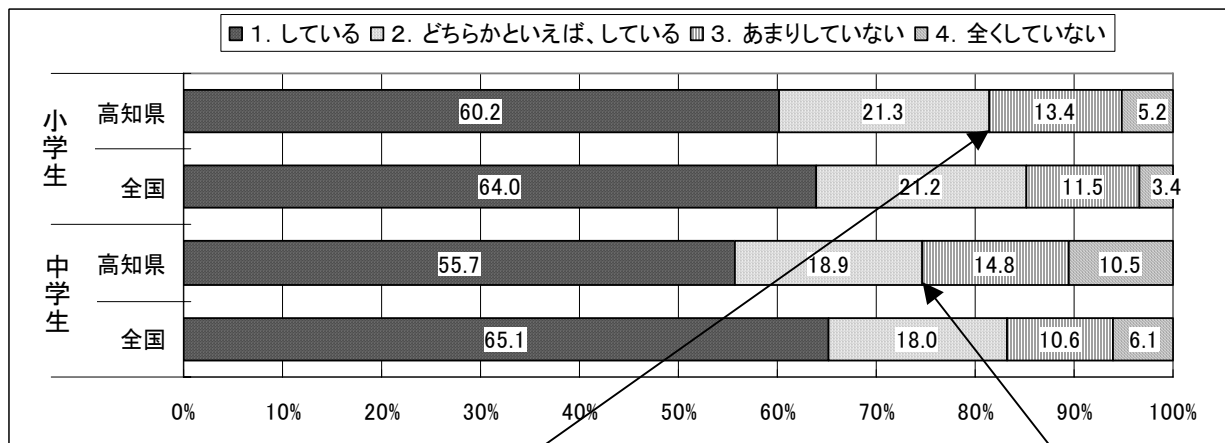


(小) 全国比較：－0.6ポイント

(中) 全国比較：－1.2ポイント

◆学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか

(小) 質問 2 (中) 質問 2



(小) 全国比較：－3.7ポイント

(中) 全国比較：－8.5ポイント

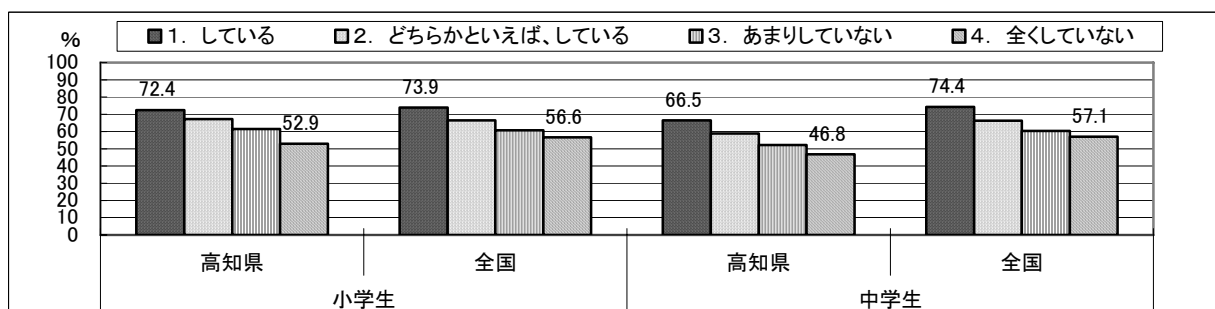
④ 基本的な生活習慣（児童生徒質問紙調査）

《正答率との相関関係》

- 「朝食を毎日食べている」小・中学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている」小・中学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。

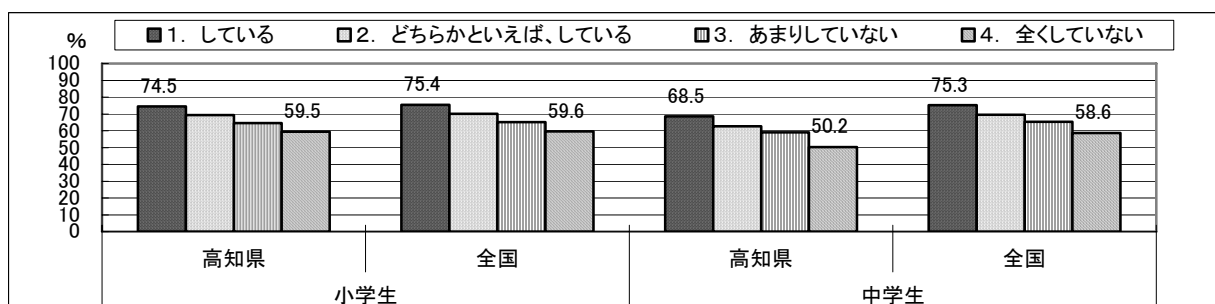
◆朝食を毎日食べていますか

(小) 質問1 (中) 質問1



◆学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか

(小) 質問2 (中) 質問2



※縦棒は、国語A・B、算数（数学）A・Bの平均正答率

◇調査結果の考察

- 「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている」ことと正答率との間に相関関係があることから、「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている」中学生の割合が全国より少ないことが、学力の定着状況に影響を与えていると考えられる。
- 基本的な生活習慣に関する質問の中には、正答率との相関関係が強い項目がある。基本的な生活習慣の定着を図り、学習に対する構えや準備を整えるために、家庭とより一層連携した取り組みを行う必要がある。

【課題】

中学生○学校生活や学習に対する構えや準備に課題がある。

⇒家庭との連携が必要

◇今後の手立て

【学校では】

- 生活スタイル調査や生活チェックシートなどを活用して、生活習慣の課題を見出し、家庭と連携して解決を図る。

【家庭では】

- 家庭での生活リズムについて話し合い、家族ぐるみで健全な生活リズムを築く。

【市町村教育委員会では】

- 学校と家庭が協働して基本的な生活習慣の定着を図るための研修を行う。

【県教育委員会では】

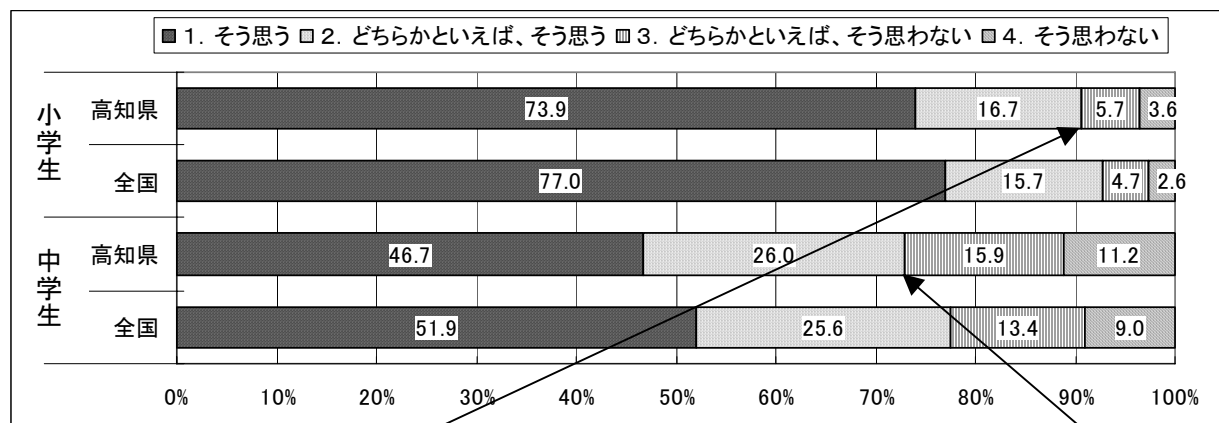
- 「早ね 早おき 朝ごはん」運動を県民運動として継続する。

⑤ 学校生活（児童生徒質問紙調査）

- 「学校で好きな授業がある」小・中学生の割合は、全国とほぼ同じ。
- 「学校で楽しみにしている活動がある」小学生の割合は全国とほぼ同じだが、中学生の割合は全国より少ない。

◆学校で好きな授業がありますか

(小) 質問37 (中) 質問39

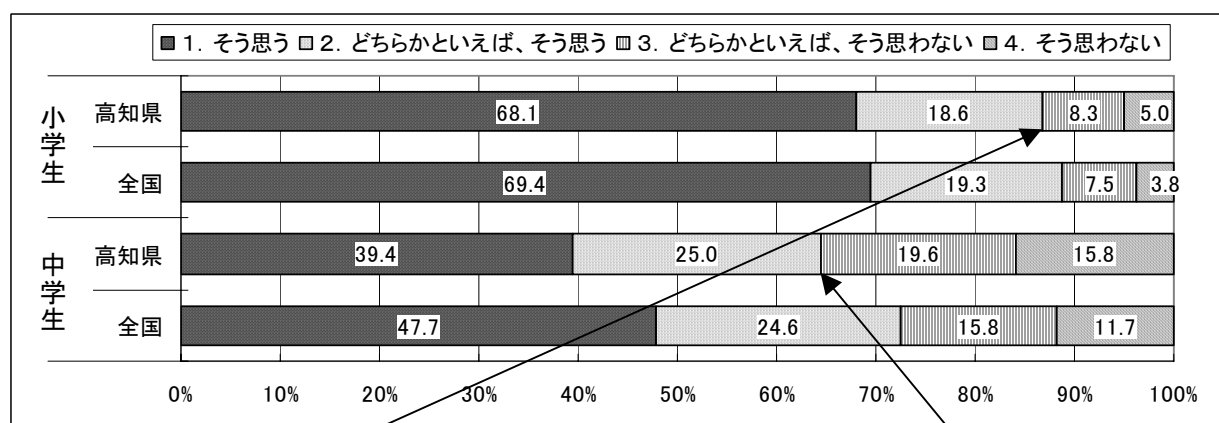


(小) 全国比較：－2.1ポイント

(中) 全国比較：－4.8ポイント

◆学校で楽しみにしている活動がありますか

(小) 質問38 (中) 質問40



(小) 全国比較：－2.0ポイント

(中) 全国比較：－7.9ポイント

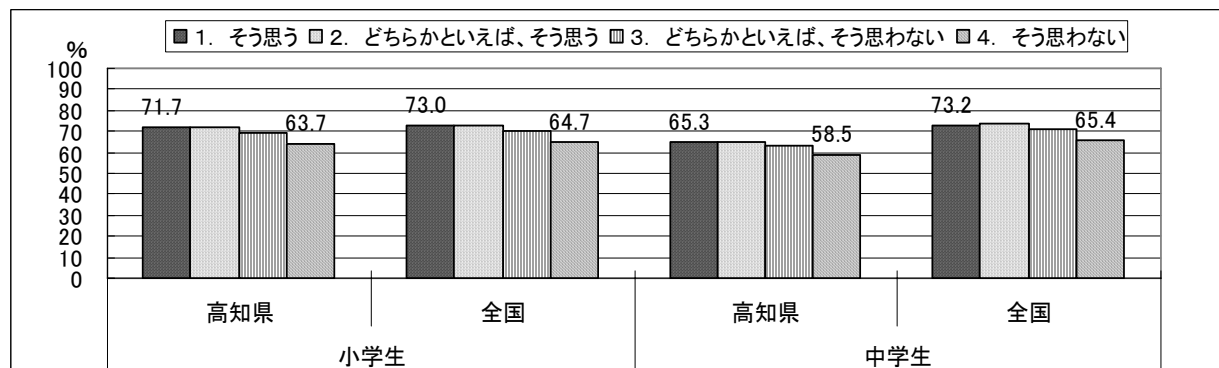
⑤ 学校生活（児童生徒質問紙調査）

《正答率との相関関係》

- 「学校で好きな授業がある」小・中学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 高知県の中学生に比べて小学生の方に、「学校で楽しみにしている活動がある」ことと正答率との相関関係がより見られる。

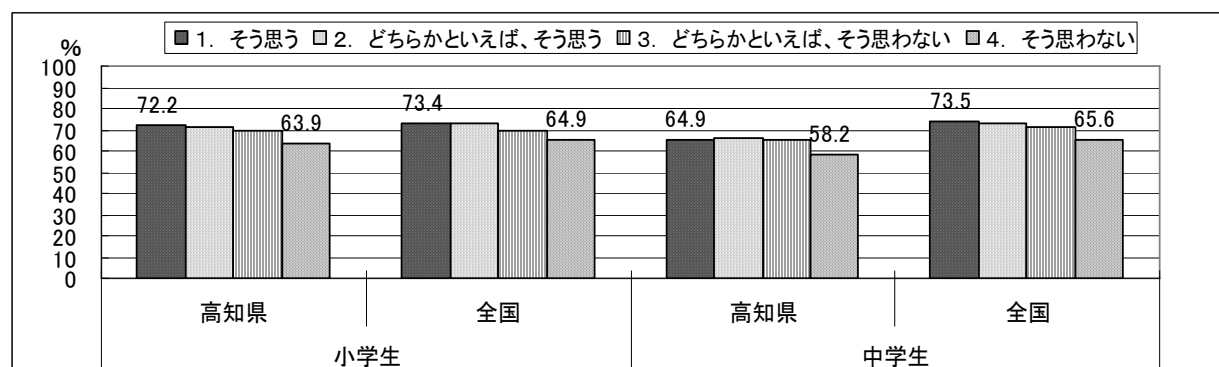
◆学校で好きな授業がありますか

（小）質問37（中）質問39



◆学校で楽しみにしている活動がありますか

（小）質問38（中）質問40



※縦棒は、国語A・B、算数（数学）A・Bの平均正答率

◇調査結果の考察

- 「学校で楽しみにしている活動がある」ことと正答率との間に相関関係があることから、「学校で楽しみにしている活動がある」中学生の割合が全国より少ないことが、学力の定着状況に影響を与えていると考えられる。
- 豊かな人間性や、確かな学力を付けるために、居心地のよい学校・学級づくりに努める必要がある。

【課題】

中学生●学校での活動に対する意欲や関心に課題がある。

⇒居心地のよい学校・学級づくりが必要

◇今後の手立て

【学校では】

- 児童生徒理解に努め、学校・学級経営の工夫や授業改善を図る。

【家庭では】

- 学校生活について話し合う時間をもつ。

【市町村教育委員会では】

- 地域・保護者の協力を得て学校の教育活動を充実するよう支援する。

【県教育委員会では】

- 児童生徒を理解する力や、学校・学級経営力を高めるための施策を充実する。

Ⅶ 学校の取り組み状況

－小・中学校質問紙調査結果より－

◆注釈

※選択肢が4つ以上の質問においては、肯定的な選択肢の回答2つを足した結果の比較

※帯（横棒）グラフ中、「その他」・「無回答」を選択した割合は省略

※ポイント比較の表現

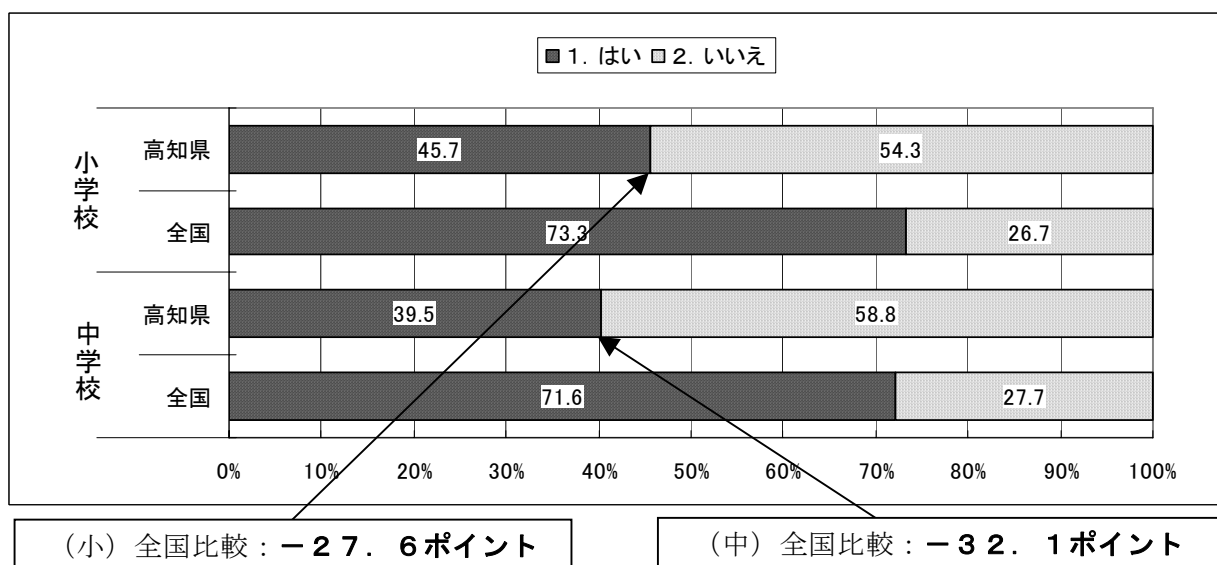
+20ポイント以上	非常に多い
+5ポイント以上	多い
+5～-5ポイントの間	ほぼ同じ
-5ポイント以下	少ない
-20ポイント以下	非常に少ない

① 開かれた学校・学校評価（小・中学校質問紙調査）

- 「学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っている」小・中学校の割合は、全国と比べて非常に少ない。
- 「学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしている」小学校の割合は全国とほぼ同じだが、中学校の割合は全国より少ない。
- 「児童生徒による授業評価を実施している」小・中学校の割合は、全国と比べて非常に多い。

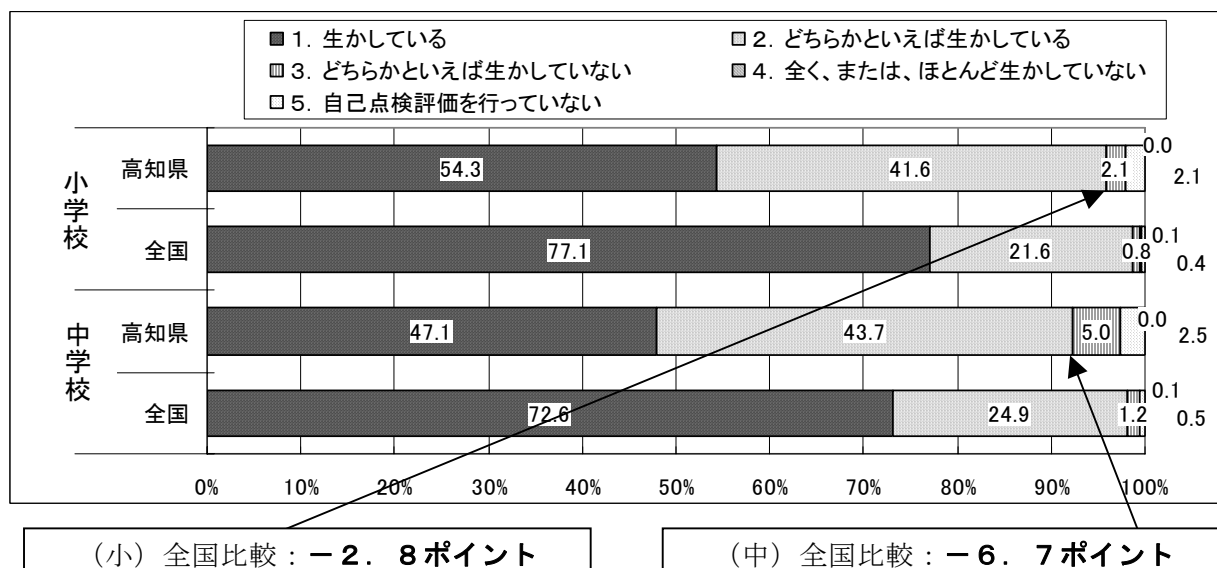
◆学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか

(小) 質問 7 8 (中) 質問 7 8



◆学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか

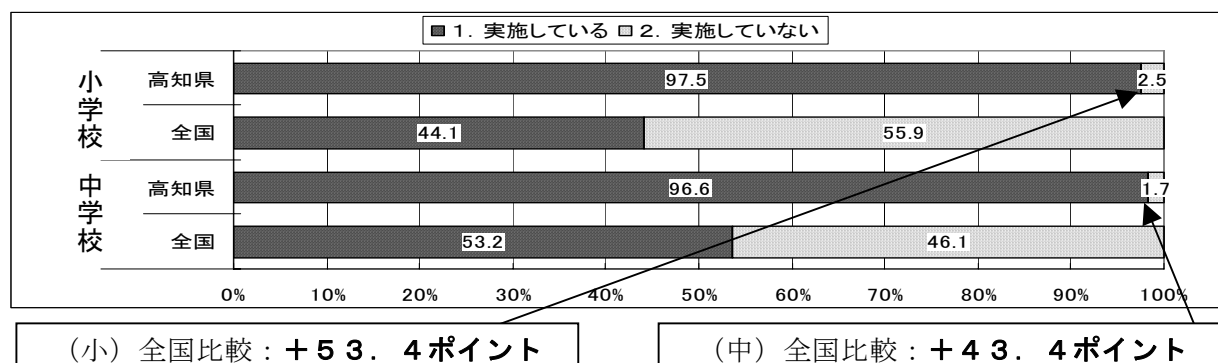
(小) 質問 8 3 (中) 質問 8 3



① 開かれた学校・学校評価（小・中学校質問紙調査）

◆児童生徒による授業評価を実施していますか

（小）質問 8 5 （中）質問 8 5



◇調査結果の考察

- 児童生徒による授業評価を行っている小・中学校の割合は全国と比べて非常に多く、全質問項目の中で、最も全国と（+の）開きが大きい。
- ホームページを開設した情報提供を行っている小・中学校の割合は全国と比べて非常に少なく、全質問項目の中で、最も全国と（-の）開きが大きい。

【課題】

- 児童生徒による授業評価が小・中学生の学力の定着に十分結びついていないことが課題である。
 - ICTを活用して情報提供を行うことに課題がある。
 - 中学校では、学校の自己点検評価を学校運営の改善に生かすことに課題がある。
- ⇒PDCAサイクルの評価（Check）と改善（Action）のつながりを強化する必要

◇今後の手立て

【学校では】

- 中学校では、自己点検評価を生かして、組織的、自律的に学校運営の改善を図る。
- 教育活動の情報を積極的に提供し、学校以外からの評価を得て、学校運営の改善を図る。
- 授業評価システムの意義を再確認し、授業改善につながる授業評価を学校全体で行う。

【家庭・地域では】

- 学校の教育活動への参加・参画意識を高め、積極的に情報を得て、学校運営や取り組みを改善するための意見交換を行う。

【市町村教育委員会では】

- 学校評価を生かして、地域や保護者の声を取り入れた学校改善を図るよう支援する。
- ホームページで情報提供できるように、ICT機器の整備を充実する。

【県教育委員会では】

- 授業評価が授業改善に生かされるよう、授業評価システムの充実を図る。
- 学校評価ガイドラインを作成して、学校評価の効果的な活用を支援する。

※PDCA：Plan-Do-Check-Action（計画-実行-評価-改善）

※ICT：Information and Communication Technology

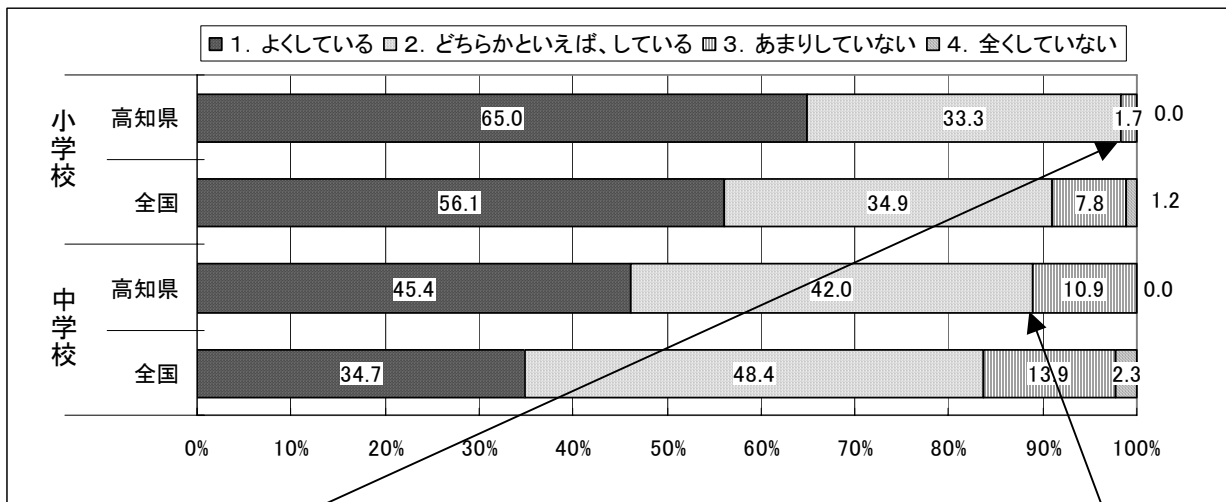
（コンピュータやインターネットなどの情報コミュニケーション技術）

② 教員研修（小・中学校質問紙調査）

- 「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている」小学校の割合は全国より多いが、中学校の割合は全国とほぼ同じ。
- 「基礎学力の定着について、研修を行っている」小・中学校の割合は、全国より多い。
- 「ICTを活用した授業のための研修を行っている」小・中学校の割合は、全国と比べて非常に少ない。

◆学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか

（小）質問 8 8 （中）質問 8 8

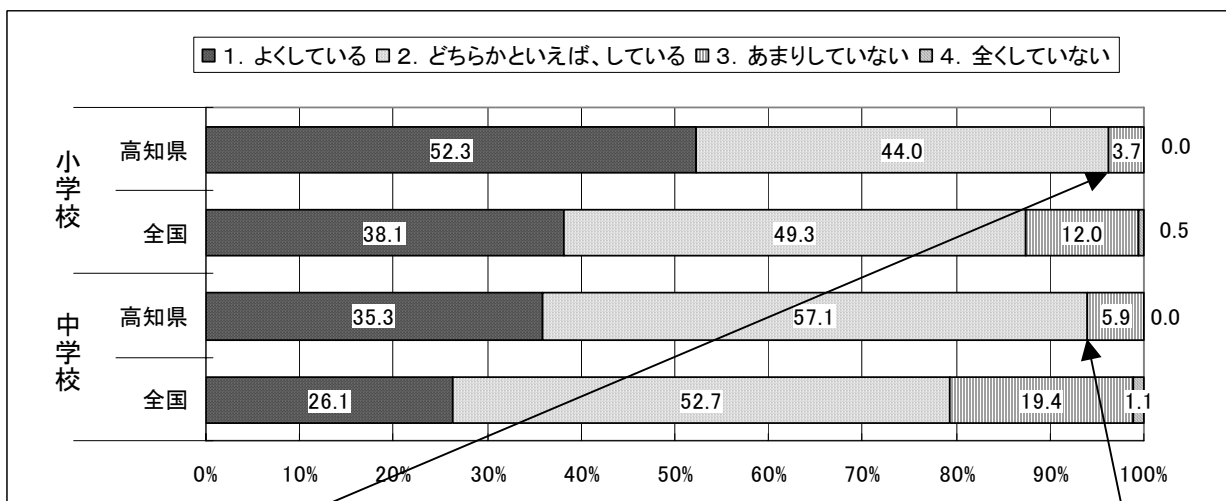


（小）全国比較：+7.3ポイント

（中）全国比較：+4.3ポイント

◆基礎学力の定着について、研修を行っていますか

（小）質問 8 9 （中）質問 8 9



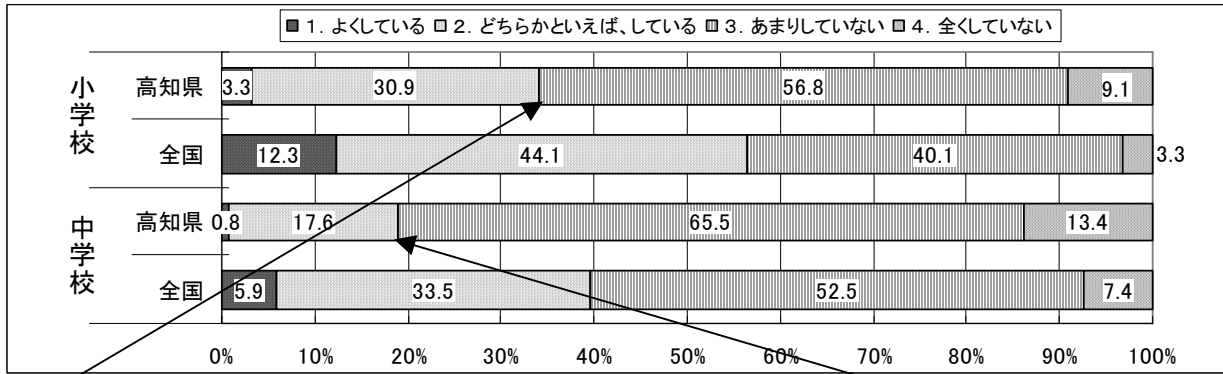
（小）全国比較：+8.9ポイント

（中）全国比較：+13.6ポイント

② 教員研修（小・中学校質問紙調査）

◆ ICTを活用した授業のための研修を行っていますか

（小）質問93 （中）質問93



（小）全国比較：-22.2ポイント

（中）全国比較：-21.0ポイント

◇調査結果の考察

- 教員研修については、実施の割合が全国とほぼ同じか全国を上回っている質問項目が多い。
- 小・中学校ともに全国より多く実施されている教員研修は、「基礎学力の定着についての研修」であり、小・中学校ともに全国より実施が少ない教員研修は、「ICTを活用した授業のための研修」である。

【課題】

- 教員研修の実施が小・中学生の学力の定着に十分結びついていないことが課題である。

⇒**管理職のリーダーシップを発揮した組織的、効果的な教員研修が必要**

◇今後の手立て

【学校では】

- 管理職のリーダーシップを発揮し、学力向上に結びつく組織的な校内研修体制を築く。
- 学校の課題を共有し、校内研修の目的を明確にして、組織的な校内研修を行う。

【家庭・地域では】

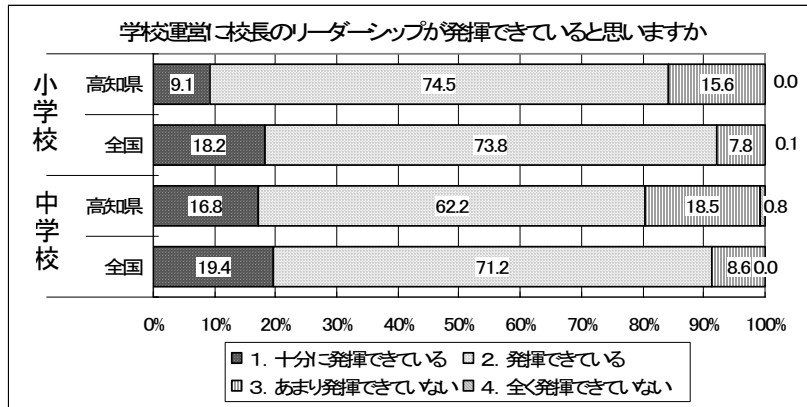
- 授業参観や学校通信等を通して、教員研修の状況や課題を共有し、研修充実のための意見交換を行う。

【市町村教育委員会では】

- 校内研修の状況を把握するとともに、研修に参加して研修の充実を図るよう支援する。

【県教育委員会では】

- 先進校の事例研究から、組織的、効果的な校内研修のあり方を見出し、普及・啓発を図る。
- 教員のICT活用力や授業力、学校の組織力向上のために研究協議会や研修等を実施する。



校長のリーダーシップが発揮できている割合

【全国比較】（小） - 8.4%

（中） - 11.6%

VIII 課題解決に向けて

- 1 課題解決のための4つの視点について 77
- 2 学校改善支援プランの構想図 78
- 3 家庭学習の充実に向けて 79
- 4 「確かな学力」と「授業力」 81

1 課題解決のための4つの視点について

調査の分析結果から見られる、本県の子どもたちの学力の現状と課題を踏まえて、子どもたちに「確かな学力」を育成するためには、教員の「授業力の向上」を目指すことが必要であり、そのための手立てとして、次の4つの視点から学校改善を図ることが大切であると考えます。

視点1 学校における組織的な学力向上

- 組織としての取り組みの弱さに課題がある。学校長のリーダーシップのもと、学力向上のためのPDCAサイクルの確立を図る。
- 校内研究体制を見直し、組織力を向上させる。
- 研究のリーダーとなる教員を育成し、教員の意識改革を図る。

視点2 教科の枠をこえた中学校授業力向上

- 中学校においては、授業を中心とした実践交流を推進する。
- 全ての教科において、授業の基本となる学習展開（授業のスタンダード）を作成する。
- 国語科のみならず全ての教科において、「読む力」や「書く力」を育成する指導方法の工夫改善を行なう。
- 生徒が授業で活躍する授業づくりのために授業力の向上を図り、授業改善を行う。

視点3 国語、算数・数学における指導方法の工夫改善

- 国語の学習においては、様々な文章の内容・情報を的確に読み取ることや、文章の中から読み取ったことを書き換えたり、自分の考えを書きまとめたりする活動を行なう。
- 算数・数学の学習においては、知識・技能の定着のために、基本的な問題の反復を行い、また、その学習内容を活用できる力を育成する。

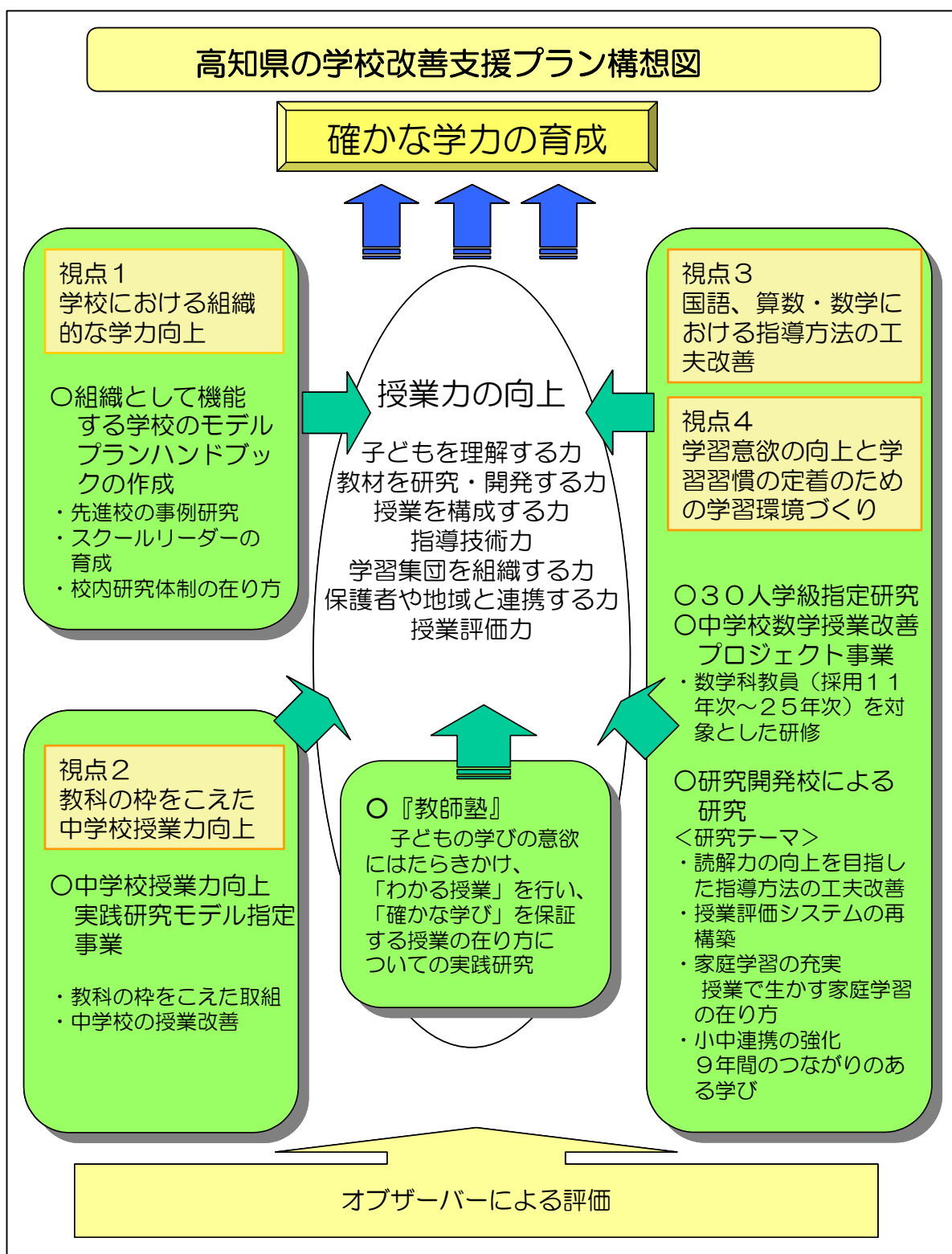
視点4 学習意欲の向上と学習習慣の定着のための学習環境づくり

- 授業と家庭学習のサイクル化を図り、家庭や地域と連携して学習環境づくりに取り組む。
- 学び方や学ぶ意味が実感できる授業づくりに取り組む。
- 義務教育9年間で、小・中学校、家庭の役割を見直し、連携して学力向上を図る。
- 中学校の部活動の取り組みを見直し、家庭での学習時間を確保する。

2 学校改善支援プランの構想図

学校改善支援プランは、教員が授業力を高め、子どもたちが、「確かな学力」を身に付けるために、高知県として重点的に取り組んでいただきたいものです。

各学校や市町村教育委員会でも、学校改善支援プランの視点を柱として、子どもたちが意欲的に生き生きと学ぶために課題を整理し、改善のための具体的な取り組みを推進していく必要があります。



3 家庭学習の充実に向けて

子どもたちの学力向上のためには、学校・家庭・地域が連携し、それぞれの役割の中でできることを確実に果たしていくことが必要です。

特に、本県の子どもたちの課題となっている家庭学習を充実させるために、学校においては、家庭学習につながる授業づくりを行なうことが必要です。また家庭においては、地域の支援を得ながら、子どもたちの家庭学習を応援していくことが重要です。

このような取り組みによって、授業と家庭学習のサイクルの確立を図り、家庭学習の習慣を定着させていかななくてはなりません。

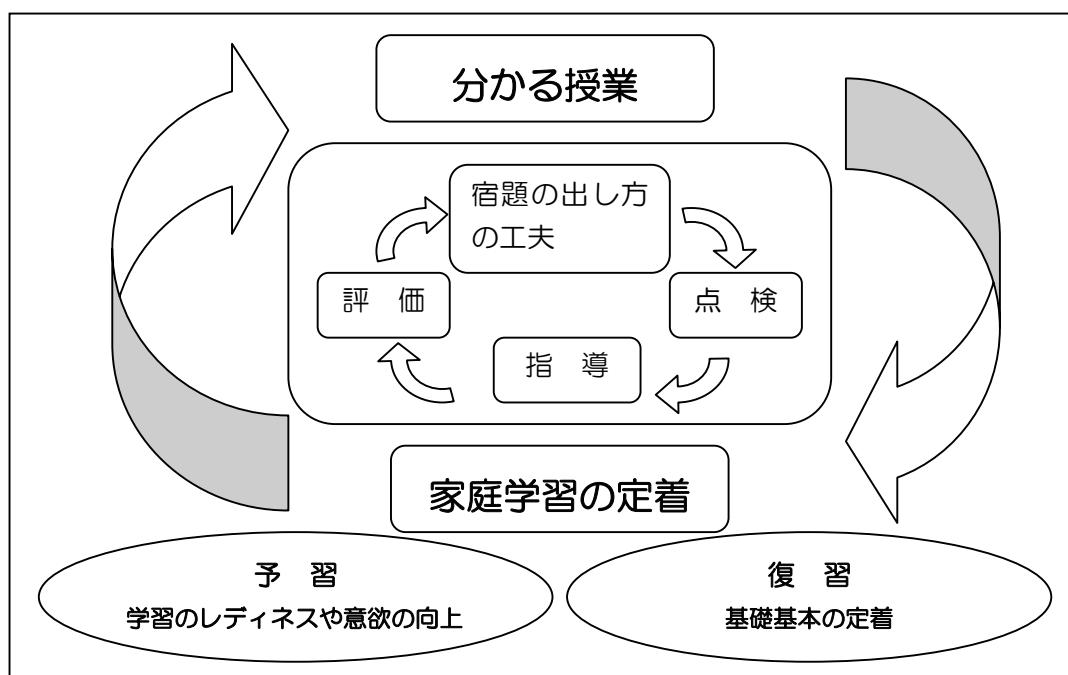
○学校では

- 家庭学習の習慣を付けるため、適切な質と量（内容）の宿題を与えて、点検・評価を行う。
- 授業と家庭学習がつながり合って効果を高めるように、授業と家庭学習のサイクル化を図る。
- 小学校と中学校、学校と家庭、教科と教科の間で情報交換を行ない、連携を図り、発達段階に応じた家庭学習のあり方を研究して、小・中学生の自ら学ぶ意欲を高めるとともに、学び方や家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- 中学校では、部活動の取り組みを見直し、家庭での学習時間を確保する。
- 中学校入学当初に、家庭学習の進め方についてのガイダンスを充実し、家庭学習に対する意欲を高めて、中学校での家庭学習のスムーズな実施を図る。

○家庭では

- 基本的な生活習慣や生活リズムを確立し、家庭学習の時間を確保して、家庭学習の習慣を定着させる。
- 家庭で進路について話す機会を持ち、学習の必要性を実感させる。

授業と家庭学習のサイクル



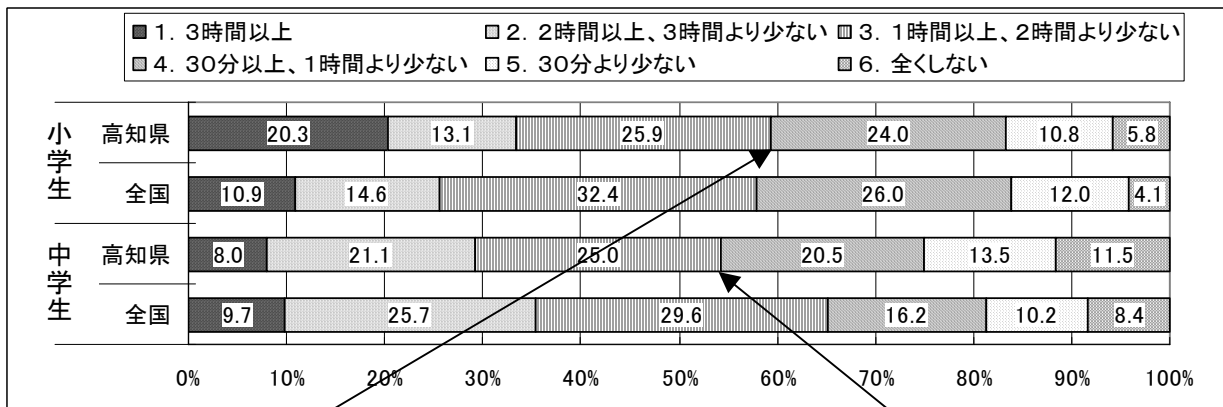
○ 学習時間・家庭学習の状況

- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上勉強している」小学生の割合は全国とほぼ同じだが、中学生の割合は全国より少ない。
- 高知県の中学生の「全く勉強しない」割合は、11.5%である。
- 全国では、「1時間以上勉強している」割合は、小学生より中学生の方に多いが、高知県では、逆に中学生の方が少ない。

◆学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含んでいる。)

(小) 質問21 (中) 質問21

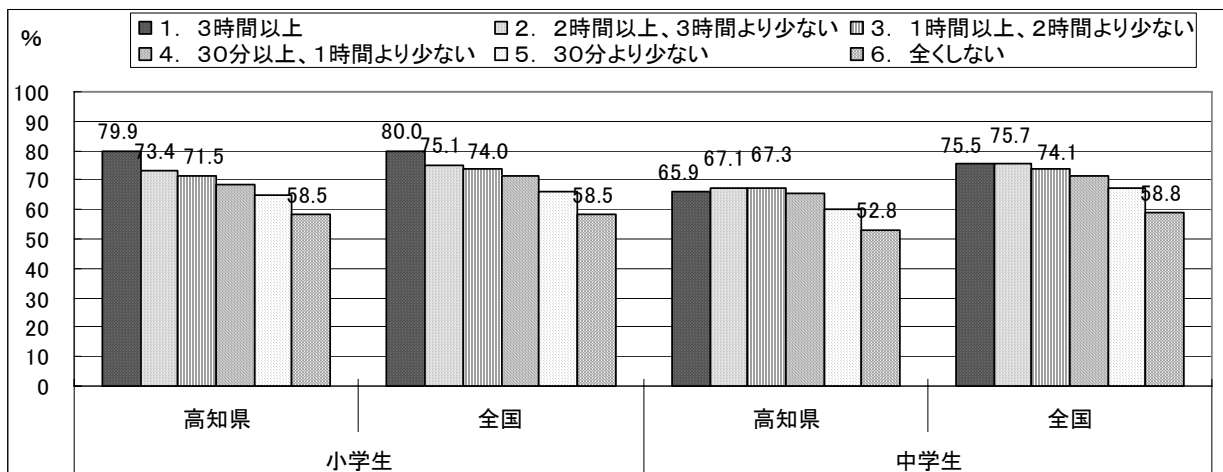


(小) 全国比較：+1.4ポイント

(中) 全国比較：-10.9ポイント

《正答率との相関関係》

- 「学校の授業以外で勉強する時間が長い」小学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 高知県の中学生に比べて小学生の方に、勉強時間と正答率との相関関係がより見られる。



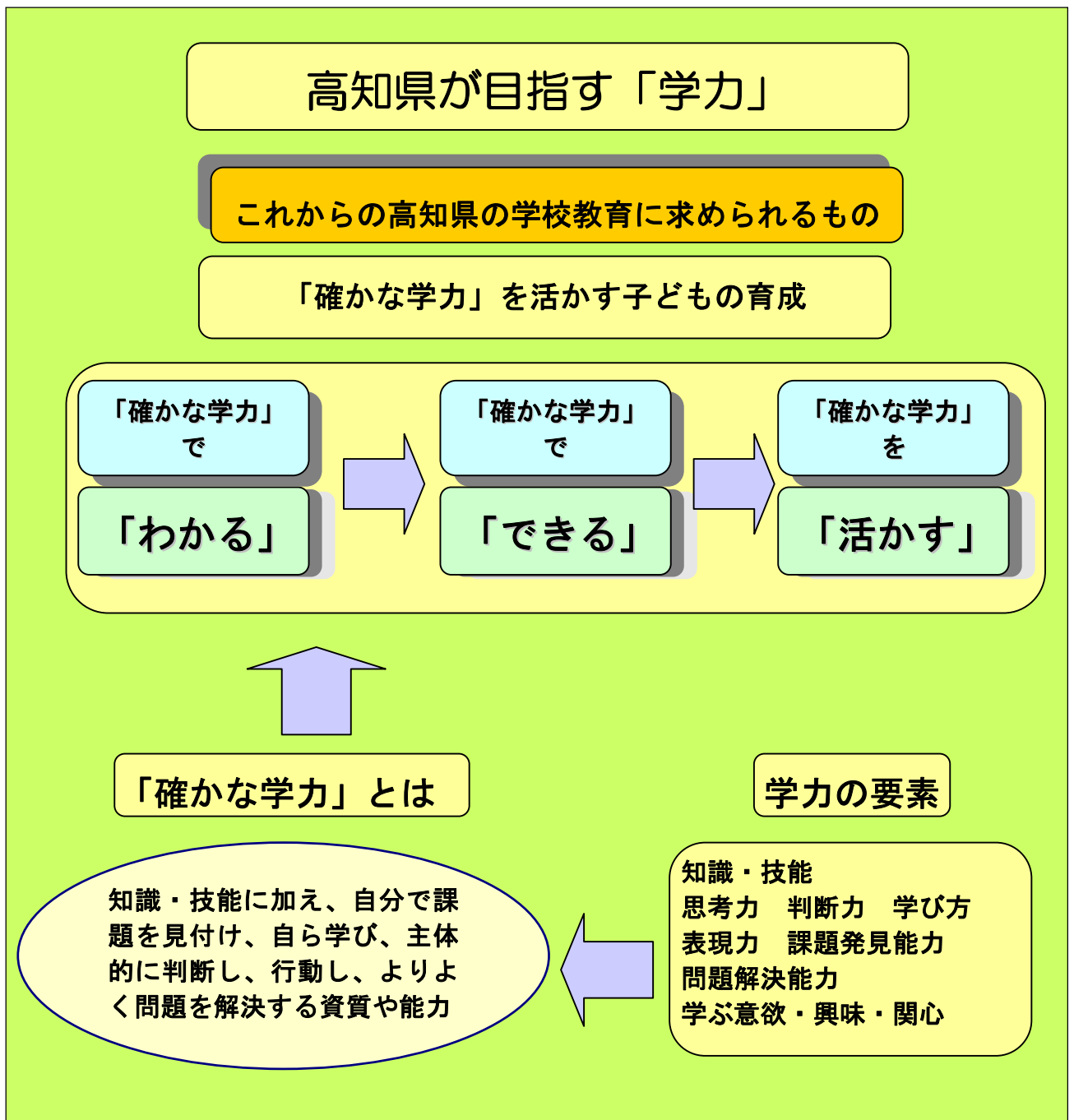
※縦棒は、国語A・B、算数(数学)A・Bの平均正答率

4 「確かな学力」と「授業力」

子どもたちの学力の向上のためには、日々の授業が最も大切なものであり、教員の授業力の向上こそが、学力の向上の最善策と言えます。

そのために、本県の子どもたちに身につけさせたい「学力」を次のように捉え、これからの高知県の学校教育に求められるものは、「確かな学力」を活かす子どもの育成と考えました。

以下、本県の目指す「学力」とは何かを定義し、また、その学力を付けるための授業力とは何かを考えました。



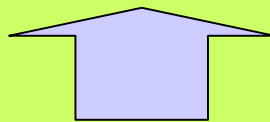
子どもたちに「確かな学力」を育成するための教員の授業力を次の7つの要素から構成されるものと捉えます。

教員が日々の授業実践を通して授業力を高めていくことが子どもたちに「わかる授業」を行い「確かな学び」を保証することにつながります。

授業力とは

子どもの学びの意欲に働きかけ、「わかる授業」を行い「確かな学び」を保証する力

授業力の要素



- 1 子どもを理解する力
- 2 教材を研究・開発する力
- 3 授業を構成する力
- 4 指導技術力
- 5 学習集団を組織する力
- 6 保護者や地域と連携する力
- 7 授業評価力

※ このような授業力の要素を総合的にはたらかせ、保護者や地域との信頼関係をつくり、巻き込み、かかわっていくということも大切なことです。

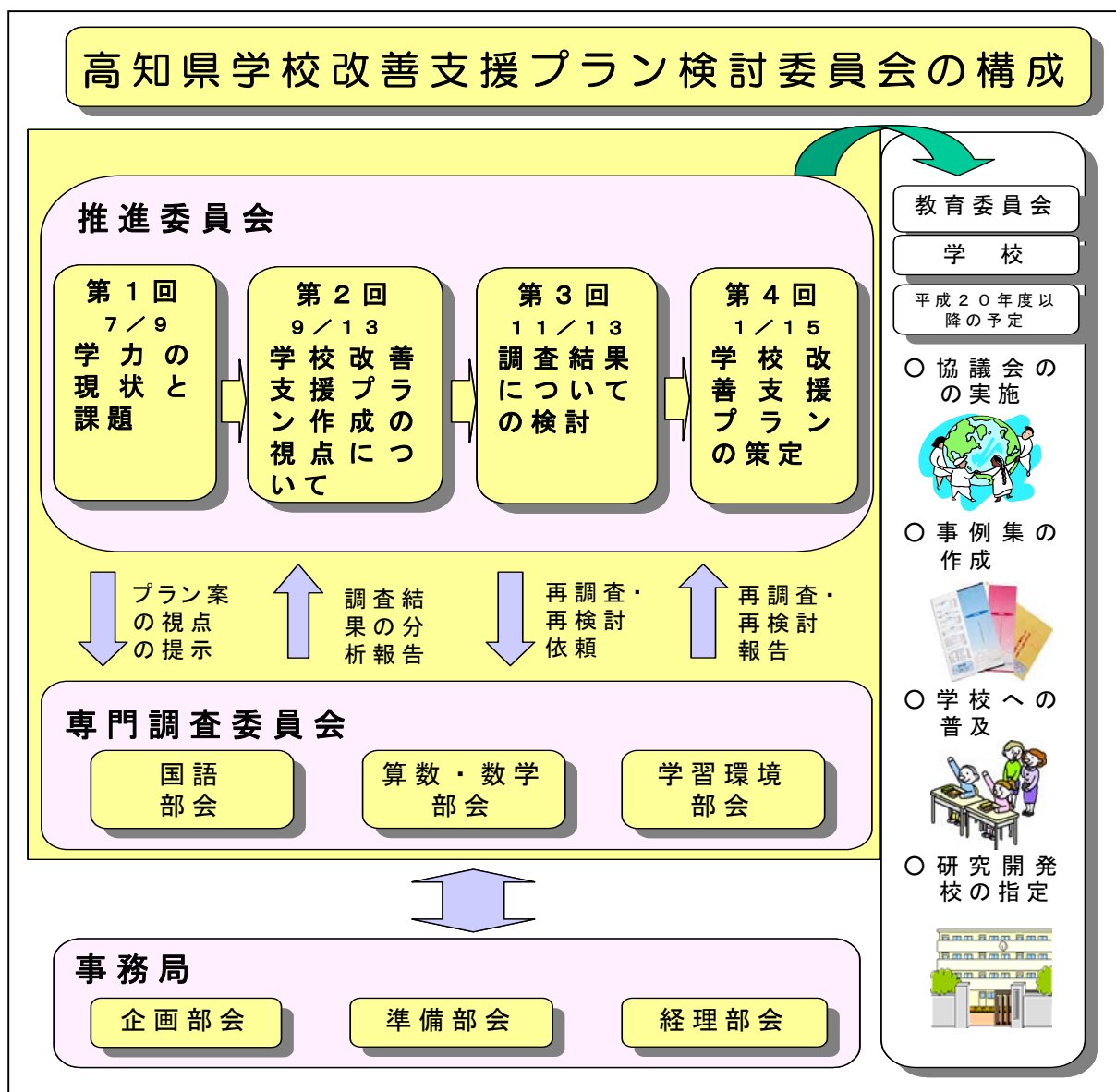
※ 子どもたちの実態を把握し、その実態に基づいて評価しながら授業を展開し、授業後の評価により課題を見つけ改善していくという授業のPDCAサイクルを確立していくことが重要です。

参 考 资 料

学校改善支援プラン検討委員会推進委員会 検討経過

開催日	検討内容
第1回推進委員会 7月 9日	○本県の子どもたちの学力の現状と課題
第2回推進委員会 9月13日	○学校改善支援プランを作成するための4つの視点
第3回推進委員会 11月13日	○全国学力・学習状況調査を踏まえた本県の子どもたちの学力についての課題
第4回推進委員会 1月15日	○学校改善支援プランを実施するために県や市町村、学校、家庭が果たす役割 ○学校改善支援プランを普及するための手立て

高知県学校改善支援プラン検討委員会の構成



高知県学校改善支援プラン検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、その調査結果を分析・活用し、教育委員会や学校における効果的な取組や課題を明らかにするとともに、高知県における今後の学力向上のための指針となる学校改善支援プランを作成することを目的とし、県内の有識者等からなる「高知県学校改善支援プラン検討委員会」(以下「検討委員会」という。)を設置する。

(組織及び委員)

第2条 検討委員会は、「推進委員会」及び「専門調査委員会」で構成する。

- 2 推進委員会の委員は、県内の学識経験者、学校関係者、教育行政関係者、その他の教育関係者をもって充てる。
- 3 専門調査委員会の委員は、専門的教育職員をもって充てる。
- 4 専門調査委員会に、専門の事項を調査させるため必要があるときは、部会を置くことができる。

(所掌事務)

第3条 推進委員会及び専門調査委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

(1) 推進委員会

ア 学校改善支援プランの検討と決定

(2) 専門調査委員会

- ア 全国学力・学習状況調査問題の分析
- イ 全国学力・学習調査結果の分析と検討
- ウ 学力と生活習慣等との相関分析
- エ 前号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な業務

(役員)

- 第4条 推進委員会は当該委員会に属する委員の互選により、委員長1名、副委員長1名、監事2名を置く。
- 2 委員長は、会務を総理し、推進委員会を代表する。
 - 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
 - 4 監事は、検討委員会の会計を監査する。
 - 5 専門調査委員会は当該委員会に属する委員の互選により、幹事長を選任する。
 - 6 幹事長は、当該委員会の事務を掌理する。
 - 7 幹事長に事故があるときは、当該委員会に属する委員のうちから幹事長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

(会議の開催)

- 第5条 推進委員会は、必要に応じて、委員長が招集する。
- 2 専門調査委員会は、必要に応じて、幹事長が招集する。
 - 3 会議の議長は、推進委員会議は委員長、専門委員会議は幹事長が務める。
 - 4 推進委員会議には、高知県教育委員、高知県教育長が出席して意見を述べることができる。
 - 5 推進委員会議は公開とする。

(事務局)

- 第6条 検討委員会の活動を補佐するため、検討委員会の下に事務局を設置する。
- 2 事務局に事務局長を置き、事務局長は高知県教育委員会事務局小中学校課長をもって充てる。
 - 3 事務局長は、庶務全体の責任者として検討委員会を代表する。
 - 4 事務局に関し必要な事項は、事務局長が定める。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長又は幹事長が当該委員会の委員に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成19年5月12日から施行する。

高知県学校改善支援プラン検討委員会 推進委員名簿

氏 名	所 属 等	備 考
稲田 稔明	中土佐町立大野見中学校 校長	
今橋 薫	高知県PTA連合会 前副会長	
岩塚 忠男	本山町教育長	委員長
岡谷 英明	高知大学 准教授	副委員長
楠瀬 千津子	高知市立大津小学校 校長	
白川 景子	高知県教育委員会事務局 小中学校課長	
濱田 道雄	高知市立旭中学校 校長	
濱田 陽治	高知県教育委員会事務局 教育政策課教育企画監	
堀田 樹彦	南国市立大篠小学校 校長	
三木 克司	香美市立香長小学校PTA 会長	
横田 妙子	高知市教育研究所 所長	
渡邊 春美	高知大学 教授	

※名簿は50音順で掲載しています。

高知県学校改善支援プラン
—確かな学力の育成を目指して—

平成20年2月

発行・編集

高知県学校改善支援プラン検討委員会